

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 新公益法人制度と倶楽部



## 年内に移行手続き着手

平成23年の新年互礼会が1月4日に開かれ、あいさつに立った阿部高久理事長は、ことしのうちに一般社団法人への移行申請手続きに着手し、新公益法人制度に基づく倶楽部のあり方を完結させていきたいと、方針を語りました。

阿部理事長は、登録文化財である倶楽部会館について「いまは桐生市民のもの。倶楽部の社員にはこれを守り継ぐ使命がある」とし、「修復は公益事業だどご理解いただきたい」と、社員増強へ

の取り組みなど、今後の展開へいっそうの協力を呼びかけました。

### 受章3氏に記念品

またこの席上で旭日大綬章（平成22年春）を受賞された笹川克さん、旭日小綬章（同年秋）の佐藤富三さん、黄綬褒章（同年秋）の荒木千恵子さんに記念品が贈呈されました。おめでとうございます。（2階大広間、参加者67人）



## 盛大にクリスマス祭

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が開催され、社員と家族104人が参加し、盛会となりました。

飾り付けられた会場に設営されたテーブルにはたくさんの料理、飲み物が並び、歓談の輪が広が

りました。数々の賞品が当たるお楽しみ企画が用意され、サンタクロースのプレゼントに子どもたちは大喜び。また、開催に先立ってクラシック音楽の演奏とダンスが披露されました。

(12月18日、2階大広間)

## 阿部理事長を再選 定款変更で理事20人体制に

### 平成23年度定時社員総会



桐生倶楽部の平成23年度定時社員総会が1月31日に開かれ、新たな体制が承認されました。

阿部高久理事長と矢野昭、森壽作、山口正夫の3副理事長が再選され、定款変更により、理事が20人(従来は18人)になりました。正副理事長をのぞく新役員は次の通りです。

〔理事〕竹内康雄、押見新一郎(新)、佐藤富三、岸芳正、北川洋、坪井良廣、江原毅、根津紀久雄、松島宏明、前原勝、塚越紀隆、藤江篤、岸田信克、前原勝良、宮地由高、村田豊樹(新)

〔幹事〕酒井豊、大西康之(新)

# 民家園、食と農と美術館



## 歩く会が東京と川崎の文化探訪

12月12日の歩く会例会は東京・世田谷通り沿いの3箇所を文化探訪しました。日出前の6:15倶楽部出発、参加者28名。車中では本日の予習として、渡辺保さんが岡本太郎(1911-1966)についてレクチャーをして下さいました。

最初の訪問地は川崎市立公園・生田緑地。園内の日本民家園は昭和42年に開園。江戸時代に建てられた水車小屋・船頭小屋・高倉・歌舞伎舞台など25棟の古民家を移築・保存する野外博物館です。好天と名残の紅葉の下、参加者一同江戸時代へのタイムスリップを楽しみました。隣接する岡本太郎美術館は平成11年の開館。岡本は川崎市高津区の生まれであったことから、生前1700点余りの作品を故郷の川崎市へ寄贈しましたが、美術館の開館は没後3年経ってからのことでした。担当幹事・吉田章さんの計らいにより、学芸員の方から岡本の画業に関し詳細な解説を頂き、日本におけるアヴァンギャルドの歴史について理解を深めることが出来ました。

12:30世田谷用賀・東京農大「食と農の博物館」へ移動。この学校は明治維新後徳川宗家がスポンサーとなって、榎本武揚が設立した農業学校が前身、勝海舟が後援会長を努めたという歴史もあります。館内の自由見学と周辺のレストランなどでフリータイムの昼食を楽しみました。隣接の馬事公苑へ足を伸ばす余裕の人も数人、馬術競技を観戦したそうです。

南青山・根津美術館は東武鉄道の経営者だった根津嘉一郎の7千点余りのコレクションを公開する美術館。国宝「燕子花図屏風/尾形光琳」の所蔵で有名ですが、これは花菖蒲の時期だけの公開で、残念ながらこの日は観ることは出来ません。企画展「絵のなかに生きる」は、収蔵絵画中に日本の中・近世の風俗表現を観るといふ壮大なもの。夕暮れの庭園散策と共に充実の一時でした。

帰路渋滞は無く、予定より早い19:10倶楽部へ帰着。忙中閑有、初冬の楽しい日曜日でした。

(村田 記)



### ポカポカ陽気の初山行 —恒例の吾妻山—

平成23年1月9日の歩く会例会は、正月恒例の「桐生吾妻山」を初山行しました。

9:30吾妻公園駐車場集合、参加者17名にて賀詞交歓の後登山開始。冬枯れの落葉を踏みながら「トンビ岩」を経て10:40には頂上(481米)へ到着。此処で記念写真、暫しの休憩の後、北側の尾根道を進んで村松峠迄。この道は雪を被った赤城山を左手に望みながらの歩きで、例年「赤城おろし」に身を震わせながらの歩行なのですが、この日は風も無くポカポカ陽気の中の山歩きとなりました。村松峠を左に折れて、宮本町迄下ったのが11:30。参加者一同健脚揃いのため、随分速いペースでした。

下山後は糸や通り・吉野館にて恒例の新年会。美味しいお餅とお酒で山行談義に花が咲き、13:30終宴。今年一年の山行を占うかのような、穏やかで和気藹々の一日でした。

(村田 記)



### 秋のゴルフ、優勝は木村さん

桐生倶楽部の秋のゴルフコンペが11月23日、桐生カントリー倶楽部で開かれました。優勝は木村光さん、準優勝は川島康雄さんでした。

十一月

桐生倶楽部はぐるま句会

十二月

金婚を過ぎし二人の木の葉髪	大槻 圓珠
道具も微笑みあらん七五三	川村 隆
七五三親ともどもに着飾りて	塚越 平人
百年の町の記念の紅葉渡し	遠藤 勝久
七五三扇子はこせこ姉譲り	有阪 昌治
この道に生涯ささげ木の葉髪	久保田 広人

山々も空も縮まる冬至かな	川村 隆
暖房の蘆花の館に学びけり	遠藤 勝久
長き夜に冬至をかこち朝寝かな	塚越 平人
火の色の恋しき部屋や床暖房	大槻 圓珠
来し方を想ひ起しつつ柚子湯かな	有阪 昌治
大宇宙心に画く冬至かな	森 寿咲
駅名をガラスに丸く暖房車	久保田 広人

### = 倶楽部だより =

- [12月]・行事委員会 (2日)
- ・公益法人特別委員会 定款部会 (6日)
- ・社員増強委員会 (7日)
- ・歩く会例会 東京農大「食と農の博物館」 (12日)
- ・理事会 (13日)
- ・正副理事長会議 (16日)
- ・公益法人特別委員会 会計部会 (16日)
- ・歩く会世話人会 (16日)
- ・臨時社員總會 (18日)
- ・クリスマス祭 (18日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- ・行事委員会 (28日)
- [1月]・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」 (9日)
- ・理事会 (11日)
- ・公益法人特別委員会 会計部会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (13日)
- ・監査会 (18日)
- ・公益法人特別委員会 定款部会 (24日)
- ・はぐるま句会 (28日)
- ・臨時理事会 (31日)
- ・定時社員總會 (31日)

[退会社員]・福島 昭吉・加藤 明・清水 直樹

社団法人 桐生倶楽部 第181号  
 2011年(平成23年) 1月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 平成23年度定時社員総会

日 時：平成23年1月31日

社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

## 1. 開会のことば

1. 総会成立報告 256 ㊦43 ㊦153

## 1. 理事長あいさつ

## 1. 議長選任

1. 議事録署名人選出 竹田 下山

## 1. 議 事

第1号議案 平成22年度事業報告の件

第2号議案 平成22年度収支決算の件  
監査報告

第3号議案 定款変更の件

第4号議案 役員改選の件  
正副理事長互選  
新理事長あいさつ

第5号議案 平成23年度事業計画(案)の件

第6号議案 平成23年度収支予算(案)の件

## 1. 閉会のことば

# 平成22年度 事業概況

自 平成22年 1月 1日  
至 平成22年12月31日

## 社団法人 桐 生 俱 楽 部

社員総数 258名（名誉社員1名、正社員257名）  
内訳（法人12社、個人246名）

入 社 15名（内法人0）

退 社 10名（内法人1）

行事・集会 100回

新年互礼会1回、文化祭1回、（絵画展、俳句色紙展、写真展、ゴルフコンペ、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、クリスマス祭1回、総会1回、臨時総会2回、理事会12回、臨時理事会1回、正副理事長会議4回、公益法人5回（特別委員会1回、会計部会2回、定款部会2回）監査会1回、役員特別懇談会1回、月次会8回、委員会13回（行事委員会2回、文化活動委員会1回、会報委員会6回、営繕委員会4回）部会48回（俳句部会12回、歩く会11回、同世話人会11回、麻雀部会1回、囲碁部会1回、写真部会2回、懇話会4回、美術部会4回、ゴルフ部会2回、音楽部会、ダンス部会）

そ の 他 会報6回発行

平成22年度

## 室別使用状況

室別 月別	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	合 計
1 月	(8回) 330名	(10回) 99名	(4回) 39名		(2回) 13名	(9回) 39名	(2回) 25名			(35回) 545名
2 月	(6回) 246名	(8回) 124名	(6回) 58名		(3回) 18名	(11回) 54名	(1回) 17名			(35回) 517名
3 月	(14回) 1,028名	(9回) 616名	(5回) 41名		(1回) 6名	(15回) 84名	(1回) 11名		(3回) 560名	(48回) 2,346名
4 月	(5回) 225名	(5回) 97名	(7回) 67名	(3回) 13名	(1回) 5名	(7回) 35名	(1回) 16名	(1回) 50名		(30回) 508名
5 月	(12回) 441名	(9回) 105名	(5回) 39名	(1回) 4名	(4回) 22名	(10回) 55名	(1回) 16名	(1回) 94名		(43回) 776名
6 月	(6回) 242名	(5回) 66名	(5回) 50名	(1回) 4名	(1回) 4名	(14回) 90名	(1回) 13名			(33回) 469名
7 月	(8回) 336名	(9回) 161名	(7回) 88名	(1回) 35名	(4回) 49名	(15回) 114名	(2回) 51名	(1回) 35名	(2回) 68名	(49回) 937名
8 月	(8回) 411名	(9回) 102名	(3回) 28名		(1回) 5名	(7回) 29名	(1回) 13名			(29回) 588名
9 月	(10回) 553名	(7回) 84名	(4回) 35名	(2回) 6名	(2回) 13名	(10回) 61名	(1回) 16名			(36回) 768名
10 月	(7回) 306名	(9回) 109名	(4回) 38名		(1回) 6名	(8回) 47名	(1回) 16名			(30回) 522名
11 月	(13回) 642名	(11回) 122名	(6回) 52名	(1回) 4名	(2回) 8名	(9回) 52名	(1回) 15名			(43回) 895名
12 月	(7回) 374名	(6回) 79名	(4回) 29名	(1回) 3名	(1回) 7名	(10回) 53名	(1回) 15名			(30回) 560名
合 計	(104回) 5,134名	(97回) 1,764名	(60回) 564名	(10回) 69名	(23回) 156名	(125回) 713名	(14回) 224名	(3回) 179名	(5回) 628名	(441回) 9,431名

平成23年度 事業計画(案)

1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 公益法人特別委員会(会計部会・定款部会)

3. 主な行事

1月	新年互礼会	社員総会	歩く会例会
2月	月次会	歩く会例会	
3月	月次会	歩く会例会	
4月	月次会	歩く会例会	
5月	文化祭(絵画・俳句・写真・陶器等) (ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等)		ガーデンパーティー 歩く会例会
6月	月次会	歩く会例会	
7月	月次会	歩く会例会	
8月			
9月	歩く会月次例会		
10月	月次会	歩く会例会	
11月	月次会	歩く会例会	
12月	クリスマス祭	歩く会例会	

4. 委員会

1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(10部会)  
美術部会・懇話会・俳句部会・麻雀部会・ゴルフ部会  
囲碁部会・歩く会・音楽鑑賞部会・写真部会・ダンス部会

2) 行事委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

5) 社員増強委員会

平成22年度 寄付芳名録 (敬称略)

平成22年8月

経錦織 テーブルクロス1枚 江原 毅  
(紅牙瑞錦 絹100%)

平成22年10月

テーブルクロス 藤掛 欣次  
綿100%防炎加工済 20枚  
ポリエステル防炎加工済 12枚

第3号議案 定款変更の件

<変更前>

第6章 役員・職員  
第16条 本倶楽部に理事18名  
監事2名を置く

<変更後>

第6章 役員・職員  
第16条 本倶楽部に理事20名  
監事2名を置く

第4号議案 役員改選の件

<新理事提案>

阿部 高久	矢野 昭	森 寿作	山口 正夫
竹内 康雄	松島 宏明	佐藤 富三	岸 芳正
北川 洋	坪井 良廣	江原 毅	根津 紀久雄
前原 勝	塚越 紀隆	藤江 篤	岸田 信克
前原 勝良	宮地 由高	押見 新一郎	村田 豊樹

<新監事提案>

酒井 豊 大西 康之

(社) 桐生倶楽部 新役員一覽

平成 23 ~ 24 年度

理事長	阿部 高久		
副理事長	矢野 昭	森 壽作	山口 正夫
理事	(會計担当)	竹内 康雄	押見 新一郎
	佐藤 富三	岸 芳正	北川 洋
	坪井 良廣	江原 毅	根津 紀久雄
	松島 宏明	前原 勝	塚越 紀隆
	藤江 篤	岸田 信克	前原 勝良
	宮地 由高	村田 豊樹	
監事	酒井 豊	大西 康之	



# 定時社員総会報告

平成 23 年度定時社員総会は 1 月 31 日午後 6 時 00 分より二階広間で開催され、全議案が満場一致で原案どおり可決されました。

総会は江原理事の司会で、全社員 256 名中 192 名(委任状 153 名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認した後、阿部理事長が議長となり議事に入った。

- 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告の件 (矢野副理事長)  
第 2 号議案 平成 22 年度収支決算の件 (竹内理事)  
会計監査報告 (押見監事)  
第 3 号議案 定款変更の件  
理事の定数を 20 名とした。(変更前 18 名)  
定款第 6 章  
第 16 条 本倶楽部に理事 20 名  
監事 2 名を置く
- 第 4 号議案 役員改選の件  
役員全員が任期満了となり、定款第 6 章第 16 条及び第 18 条により新たに役員を選任する必要があり、議長より役員候補者が提案され全員異議なく承認された。その後 新役員により正副理事長が互選された。再選された阿部理事長のあいさつがあった。
- 第 5 号議案 平成 23 年度事業計画(案)の件 (矢野副理事長)  
第 6 号議案 平成 23 年度収支予算(案)の件 (竹内理事)

新役員は下記のとおりです。

## < 理 事 >

阿部高久	矢野 昭	森 壽作	山口正夫	竹内康雄	押見新一郎
佐藤富三	岸 芳正	北川 洋	坪井良廣	江原 毅	根津紀久雄
松島宏明	前原 勝	塚越紀隆	藤江 篤	岸田信克	前原勝良
宮地由高	村田豊樹				

(太字 新任)

## < 監 事 >

酒井 豊 大西康之

また理事互選により正副理事長は下記のとおり決まりました。

理 事 長	阿部 高久
副理事長	矢野 昭
〃	森 壽作
〃	山口 正夫

森副理事長の閉会のことばのあと午後 7 時 30 分閉会となった。

# 桐生倶楽部会報 特別号

## 創立90周年座談会特集



## 何を守り、変えるべきか

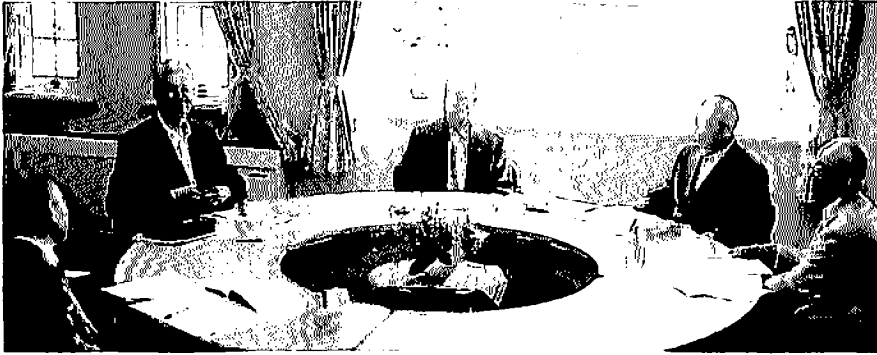
桐生倶楽部90周年記念座談会は、創立100周年をみすえ、つないでいくための重要な事業として、2008年9月20日、歴史編纂委員会が開催しました。

「桐生倶楽部五十年史」の刊行以降の流れを踏まえ、倶楽部は何を守り、何を变えていくべきなのかが話のテーマとなりました。その詳細を特別号でお届けします。出席者は前理事長の塚越平人さん、前副理事長の小池久雄さん、五十嵐健雄さん、そして阿部高久理事長です。司会は歴史編纂委員会委員長、森壽作さんが務めました。(会場・桐生倶楽部別館)

### 出席者

- 塚越平人 (前理事長)
- 小池久雄 (前副理事長)
- 五十嵐健雄 (前副理事長)
- 阿部高久 (理事長)
- 司会・森壽作 (歴史編纂委員会委員長)

左から森さん、阿部さん、塚越さん、小池さん、五十嵐さん



# 躍動した青年たち

森 きよははお忙しい中をお集まりいただいたありがとうございます。ご案内のように倶楽部が90周年を迎えるわけですが、歴史編集という観点から、百年史の準備というところで座談会をやろうと、みなさんにお声がけした次第です。立派な五十年史ができていますので、それからあとのことをいろいろ語っていただいて、変わったこと、変わらなかったこと、変えるべきこと、変えてはいけないことを頭に入れながら、それぞれの時代のことをお話いただきましたと思います。はじめに小池さん、この40年間で思い出深いことはどんなことでしょうか。

小池 私としては、ちよと昔のことになるんですが、青年部ができて活動した歴史を思い出します。その組織がだんだんと正規の倶楽部社員になっていくようにしたことです。

阿部 青年部はいつごろできたのですか。

小池 昭和22年です。いまから思

うたいへん占く、なにしろ私がまだ大学に在学中のころですから。男女合わせて30人くらいのメンバーだったのですが、そのころの桐生倶楽部の建物は、軍(戦前)が接収するよな話もあったんですけど、斎藤長平さんが熱心に守ってくれて、健在でした。南川潤さんが桐生倶楽部の社員になり、青年たちだけの集まりをつくったほうがいいよといわれたんです。斎藤理事長以下みなさんも賛成してくれて。私どもの年齢ですから、当時、男女というのは珍しいわけですよ。とにかく、いろんなことをやりましたね。

塚越 南川さんを倶楽部に呼んできたのはたねなんですか。

小池 私です。東京からこられて、奥さんが水戸作の縁戚で、東京の大森に住まいがあったんですけれど、宮本町に越してきました。そのころ、私をはじめ、小説の好きな連中がよく集まって、南川さんが羨に住まいを持ったとき、その宮本町の家を

学校として明け渡してくれたんです。とてもお世話になりました。

阿部 青年部には当時、資金援助はしたんですか。

小池 いや、それはなかったと思います。ただ、相当いろんな事業をやったんですよ。

阿部 女性会員はどのくらいいましたか。

小池 だいたい半々くらいです。

森 青い山脈ではないけれど、古い上着よきようならって、自由な雰囲気はあったんでしょうね。

阿部 青年部は南川さんが部長だったんですか。

小池 いや、顧問でした。

森 部長は小池さんですか。

小池 部長は青年たちの中から選ばれました。倶楽部のほうで熱心に育ててくれたんです。私のところに話を持ってきたのは大川英三さんでした。先輩がいろいろ陰で仕立ててくれたんです。

森 いま考えると、先進的な働きをしていますよね。そういう意味からすると、いまはどうでしょうかね。

阿部 確かに、当時は勢いがありますね。

小池 青年部のメンバーは男子

# 若い力を取り入れる

の半分が学生、残りは社会人。女性  
はみんな24、25歳くらいの未婚者で  
したから、活力がありましたね。活  
動は2年くらいでした。当時は学校  
が休講ばかりで、軍隊から帰ってき  
たばかりでしょう。それから世の中  
がだんだん落ち着いて、それぞれの  
居場所にきちんと戻るようになって、  
いつの間にか分散してしまっただ  
けですが、短期間だけでも中身は濃  
いものがありました。

**阿部** 青年部の話を聞いたわけ  
ですけど、桐生倶楽部もだんだん年  
をとっていくわけですよ。若い人  
を入れようとしているけれどもなかな  
か難しいです。青年会議所のメン  
バーと懇談会を持っておりませんが、  
彼らはなかなか入りづらいようで、  
「青年部」みたいなものはないので  
かという声もあるんです。これも一つ  
の課題だとは思いますが、必要な  
のかなと思う面もあるんです。これ  
からの検討課題です。

**小池** アンケートをとりました

よね。青年部のようなものを作って、  
なじんで、やがて倶楽部の正会員に  
なっていくようなことが必要かもし  
れませんね。

**塚越** 青年会議所は商工会議所  
との関係が強いから、桐生倶楽部青  
年部というのをはっきりつくったほう  
がいいでしょう。

**小池** 文化的色彩の強いものを、  
ですね。

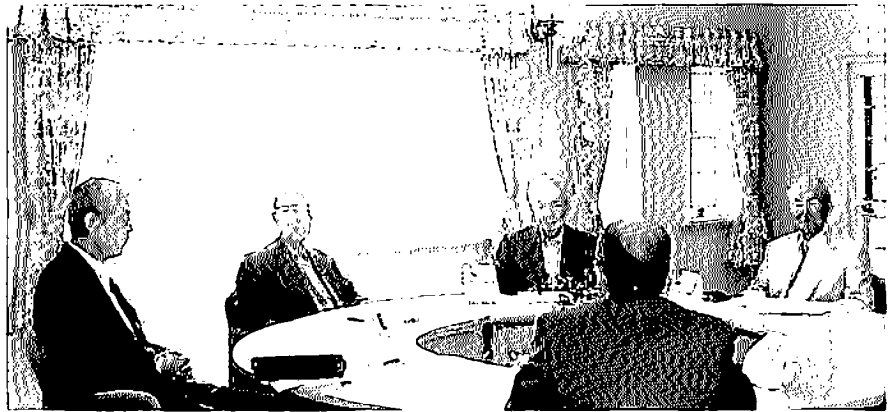
**阿部** J.C.を卒業したら、桐生  
倶楽部の青年部に入って、活動する  
場があるというのはいいですね。

**塚越** J.C.は卒業すると会議所  
にいつてしまう。

**阿部** 会議所と法人会とでと  
りつしている状況ですけど、やっぱ  
りそういう青年部も必要なのかなと  
思います。

**森** 環境的にもJ.C.はここで例  
会をやっていますから、なじみやすい  
わけですよ。

**阿部** ただ、入ってきてもなかな  
か活動に出てこない人がいるんで



す。長いこと奉仕してきたんだから  
もういいでしょうなんていってくるん  
です。若いころはなんとなく、活動し  
ずらいんでしょうね。

**塚越** J.C.には女性会員もつれ  
てきてほしいね。

**小池** いま、女性会員は何人です  
か。

**阿部** 4人(注1)です。

**森** いま青年部の話が出たんで  
ですけど、これからの課題として、桐生  
倶楽部は青年層のことにも積極的  
に取り組んでいかなくちやならない  
という感じがします。それからつな  
がりをつけるという意味では文化活  
動にも力を入れていかなければなら  
ない。文化部の苦勞としてはどうで  
すか。

**五十嵐** あのね、私はちょっと桐  
生倶楽部に対する考えが違うんで  
す。塚越さんや小池さんから先輩と  
違っていて、どういふふうに違ってい  
るかという、建物の存続です。それ  
は歴史の存続ですが、それが主だと  
思うのです。いま若い人が入らない  
といつても、桐生にはいろんなものが  
あります。青年会議所があるでしょ  
う、ロータリークラブがあるでしょ  
う、ライオンズクラブがあるでしょ



う、女性ではソロブチミストがあるでしょう、これだけクラブがあって、なおかつ桐生倶楽部で同じようなことをやったって、これは無理ですよ。だから私は、桐生倶楽部というのは建物を中心にした、いわば過去の歴史の積み重ねを後世に伝えていくと、こういう趣旨でいくのがいいんじゃないかなと思います。これは前から持論なんですけど、それをほかの倶楽部と対等に張り合おう考えるから無理がある。だから、桐生倶楽部を残そうと、そういう意識のある方意外はいいませんよというくらい、はっきりしていいのではないのでしょうか。先輩が作り、当時としては両面的な倶楽部で、桐生の政治文化のいろんなものを育ててきた、これはこれとして残していくんだということを出していくのが桐生倶楽部のためにはいいと思ってるんです。それを言い出すとメンバーが減る、会費が高くなるといわれるけど、いまは中途半端なんです、やってることが、だから私も文化活動委員会を長くやらせてもらいましたが、委員会といたって、予算が50万円なんです。しかも小池さんは、できれば残してほしいなんていうわけで

す。というのは、営繕にお金がかかるからです。だから、これを趣味としてやっていくのはいいけど、それによって人を集めようというのは無理です。桐生倶楽部はほかのクラブとは違うんだ、ということ強く出した方がいいですね。

**塚越** 五十嵐さんの言うことは確かに、理ありますね。ぼくが理事長になって初めて手つけたのが二階の修理ですよ。どうしてかという、大正8年にはできていて、その時分からの木造でしょう、しかも、日本人の設計といっても洋館でしょう。日本の気候風土に合ったものであってほしいわけです。保存というものが、一番最初の仕事になったわけです。だから、床を全部剥がして中を見ただけです。それから1号室もやりました。1号室は、前にピリヤードがあつて、水平を支える煉瓦の基礎があつて、そこまで確認して、それから2階は、横げたが密集した形です。並んでいて、これなら大丈夫だということ、そのときに、ガスタンクの関係で日本鋼管がきていたのでその技師を呼んできて支えをみてもらったら、柱が少ないということ、日本鋼管が柱を2本寄付してくれたん

# 発想を変えていきたい

萱がほとんどいらなくなったというんです。どうしてだと聞いたら、刺がしてみたら中はまだ青い。400年たつてもそんなんです。これも歴史的な価値ですね。それから県の指定になり、彦部さんの奥さんが飛んできまして、うちの息子に嫁さんをも

らうんですが、県の指定になっているためにいじれないというんです。斜めになっているものをそのままでないといけないというわけなんです。そんなわけで教育長に許可をもらいに

いて、知事の許可が必要だということとでそこにいって、わけを話し、一部屋だけなおして、嫁さんをお願いしました。今度は国の指定になりました。でしよう、直すにも一つずつ許可をもらうことになる。たいへんですよね。

森 まあ、維持するということが目적입니다からね。国の専門官にも権威付けされますから。でも、運営ということになると、確かにたいへんです。苦勞しているようですよ。

塚越 残すことだけでも意味があることなんですけどね。

森 それを支える仲間をどうやって募るかですよ。

五十嵐 それがとてみたいへんできて。阿部さんに課せられたのは財政の確立です。どういうふうにしてこれを維持するか。会費をどうするか、男であろうが女であろうが、そういう意識をもち賛同してくれる人には、どんどん入ってもらおう。それから、いよいよとなったら国とか県とか

いたわけですね。

五十嵐 つくったのは桐生建設です。ガバナー事務所をここでやるんで、桐生倶楽部がつくってガバナーに貸すと、こういう形でした。3年間くらい使わせてもらったと思います。家賃を払って。

阿部 平野さんのときの副はだれでしたか。

五十嵐 塚越さんです。

阿部 小池さんは。

五十嵐 小池さんもそうです。小池さんは長いんですよ。こういうちや失礼ですけど、副理事長は小池さんの方が塚越さんより早いですよね。

阿部 この別館はいつできたんですか。

森 1989年です。

阿部 塚越さんがすでに理事長ですか。

森 つくったのは平野さんが理事長の時です。

阿部 桐生ロータリーが地区大会を主管する時に使わせてもらって

森 だけれど、桐生倶楽部は思いやりがいいなんて、そんな声もありましたからね。

塚越 私としては、こちらに先になってもらいたかったですけど、どうしても理事長はいやだというんです。

森 これは50周年以降の桐生倶楽部の歴史の中で、項目づくつてもいい話ですよ。

塚越 小学校の時から同級生で、机を並べていたんです。だから、こちらの話はよくわかる。

阿部 確かに、がんとして受けなかつたですよ、そういえば。

小池 もう、すこし別な話をしませんか。

森 わかりました。いま、財政の話が出ました。文化の活動のことも話しました。うまくいっていない部分もあるけれど、山登りなどは活発ですよ。

阿部 あれはいつごろできたんですか。

五十嵐 29年くらいになると思いますがね。1年のプログラムもつくつて、熱心ですよ。

塚越 尾瀬などにもいっていますからね。

# 維持管理が大きな柱

です。建物を中心として文化的な広がりもあつた。ですから、建物がしっかりしているかどうか、それが桐生倶楽部存在の一番の原点になる。維持管理は重要ですね。野間佐和子さんはそういう経過をしっかりみて

いてくれて、持っていた野間清治の胸像を預かってくれということで、理事長室に安置しているわけです。これは桐生倶楽部の建物にふさわしいということでもとまった話なんです。風格がモノを言ったと思うんです。維

持管理は大きな柱ですね。  
阿部 その通りで、私も理事長を引き受けるにあたって、そのことが仕事だなどと思いました。建物ができたときにはそんなことを考える必要はなかつたわけです。だから、親睦を深めたり、地域振興というものを定款にうたっているわけですが、そろそろ定款(注2)を変えなければいけないのではないかと、ということ話し合っています。これは会館というものを活用しながら、保存をしていく、そ

して次の世代につないでいくことが大きな目的になりました。そのことが定款にうたわれていないのもおかしい時代にきているんです。90周年が終わりましたら、そろそろ手をつけようかなと、思っているわけです。

塚越 桐生倶楽部の建物の利用目的のひとつですね。  
阿部 桐生のまちのシンボルだし、大切だと思えますね。  
森 10年前に国の登録文化財にもなりましたしね。

塚越 黒澤さんというレース屋さんの先代がこの倶楽部にほねこんで、カーテンを全部寄付してくれたこともありました。  
阿部 今回新調したレースのカーテンは黒澤さんのレースを使わせてもらっています。  
森 世の中の流れも、こういう建物の価値を認めるようになってきた。そういう方向へ向かっているような気がしますね。  
塚越 こんど下関にいったら、

ちよつとよつてみてもらいたいのには、下関にひじょうに本館とよく似た雰囲気のあるんです。三井が管理しています。これは中を見るだけでも有料です。

阿部 それは県か市がからんでいますか。  
塚越 いや、三井だけで管理しています。もうちよつと規模が大きいですね。  
森 建物の管理には苦勞があつて、メンバーを増やそうという流れ

があつて、何か魅力があるものをつとにうことになつたわけですが。  
阿部 修繕費が年々かかつているんです。  
五十嵐 そうですね。維持するということとはたいへんなことなんです。  
阿部 会費で賄っているわけですから、何とかしなければね。  
五十嵐 維持しなければ、桐生倶楽部の存在意義はないと思うんです。たとえば、歴史を本にして、資料を預かって、ここを売らばらつてし

まつたら、これはもう、消滅以外にない。やっぱりここに会館があつて、小池さんの歴史がここにあるから、私は参加しているわけです。言い過ぎて申しわけありません。

森 言い過ぎたその先に行く、彦部屋数ではないけれど、国の重文の可能性もある。しかし、いろんなし

ばりがあるから、どうかという問題もある。でも、保存が目的だとするとそういう手段もあるわけです。費用が国のほうからかなり捻出されますから。そういう仕組みですから。で、彦部さんもはじめは随分悩んだらしいですが、使いながら残していけるということで納得してやっています。桐生倶楽部も費用的な面からいくと、もし重文などということも、二つの選択肢ではないかと思

うわけです。これはまだまだ調べてみないとわからないことですね。  
塚越 残すのは大きな目的だとは思いますが、それだけではない。そのほかに、文化的なものを受け継いでいくということですね。彦部さんのときはほくが教育委員のときで、市の指定になり、まず門から直そうということになり、3年間かけて骨を集め始めた。そしたら棟梁が集めた

森 50周年以降の活動の中で、かなり大きなウエートを占める活動です。木島さんが中心ですか。

五十嵐 藤井(竜人)さんも熱心だったから。

塚越 90周年以降、これからはほんな具合の方針ですか。

阿部 これからです。なかなか頭を悩ませていますが、結局、理事長になる前から役員懇談会というのを提案して認めてもらって、その中でいろいろ話し合っているわけです。ね。そこからいろんな話が出てまいりました。やっぱり会館の修復保存というものをメインにしていかなければいけないと、いまの理事さんから意見があります。社員を増やさなければならぬけど、どうやって増やせばいいかということで、規約をつくって法人会員というものを募ろうということと、それと女性社員があり、そこで問題になったのがかつてのアンケート調査で女性の入会に反対する声があつて見送った経過がありました。新理事長になって、それを言い出してもいいんじゃないかと、その辺をターゲットにしぼって実施しまして、まあマスコミがずいぶん関心を持ちまして、90年近くメンズ倶楽



部できたものが女性を受け入れるというところで、時代が変わり始めたという感じでした。だんだん増えてくられると思います。やっぱり、倶楽部をどうやって運営していくかということになるという発想を変えていかななくてはならないから、浄財を集めたり、寄付を受けたり、さきほどの重文の話なども視野に入れながら、いろいろ悩み多い毎日です。実は、しじゅう営繕のほうから連絡がある。でもいつべんにできないわけです。お金がないから。優先順位を決めてやってきたわけですけど、まあ、そんなこんなしながら、とにかく若い人に入ってもらおう。一つの組織は平均的に各世代がいないと、成り立ちませんからね。力を入れていこうと思います。

塚越 会費が一つの柱になりますね。社員を増やすことですね。理解が得られるような努力が必要ですが、そういう理解が得られやすいのは奥さんだということもあります。

阿部 そういう話は参考になりますね。話題にしてみようと思えます。やっぱり市民のひとたちがこの会館を大事に思っていて、それを意識して



チャリティーみたいなきともできそう。だという意見もありましたし、実行段階ではないですが、頭の中に入れてあります。

森 桐生倶楽部の存在価値を外からアピールしてもらおう、市とか県とか、広く専門的な人からの話もあつていいですよ。維持することは誇りなんだと。あとはこれに対して私たちがどう対応するかです。

阿部 理事会、幹事とも一気に若返りました。

塚越 みなさん、頑張っていますよ。

小池 婦人会員は、婦人会員だけでグループみたいなのは作っているんですか。

阿部 いや、まだまったくありません。どうしたらいいか、はつきりしていないんです。女性も入ったのはいいけど、どうやって活動していいかわからない、そういう状態です。

塚越 顔だけだせばいいんですよ、そのうち顔なじみになつてくれば、いろいろできます。

小池 倶楽部の知名度もずいぶん上がってきたんじゃないでしょうか。

阿部 女性社員のおかげで、桐生

タイムスから始まって、いろんな新聞にとりあげてもらって、ずいぶん知名度があがりました。そうやって知ってもらえば、市民も、何とかしなければと、そういう気持ちになつてもらえるかもしれません。市民が守つてきているわけですからね。東武の新桐生駅の売店のことでも、塚越理事長時代に桐生倶楽部から発信して、具体化したわけですね。これも、桐生倶楽部あつての事業ですよ。桐生の玄関口ですからね。

森 座談会は今後もテーマごとに継続してやりたいと思います。きょうはありがとうございました。

(構成・青木修)

注1 女性社員は平成23年1月現在で8人。

注2 平成21年に定款が変更されて、第2章の目的に「2・本倶楽部はその建物の歴史的・文化的価値を認め之を広く社会の公共的資産と考え維持管理運用を目的とする」が加えられた。

### 50周年以降の略史

- 1969年 川村佐助理事長再任  
俳句部再発足
- 1971年 倶楽部改築工事
- 1973年 斎藤長平氏、書上文左衛門氏死去
- 1978年 創立60周年記念
- 1978年 長沢義雄氏死去
- 1979年 前原勝樹理事長就任
- 1987年 平野元吉理事長就任
- 1989年 川村佐助氏死去
- 1991年 塚越平人理事長就任
- 1991年 前原勝樹氏死去
- 1994年 JC事務局地鎮祭
- 1998年 平野元吉氏死去
- 2007年 阿部高久理事長就任
- 2008年 女性社員受け入れ表明



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 黙 禱

### 3.11 東日本大震災

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は、いまなお東北沿岸の津波被害の全容が把握できず、また、事故がおきた福島県の原子力発電所の事態はいまだ収束のめどが立たないまま、影響を広げつつ、進行中です。

創建から92年をへた桐生倶楽部の会館は1923年の関東大震災を体験しています。このときは瓦屋根の破損程度で事なきを得ましたが、歴史的建造物となったいま、もっとも心配されたのがこうした巨大地震でした。今回、桐生においては震度

6弱となり、家屋の屋根に多くの被害がみられる中で、会館は外壁のひび、内装の剝離等がみられましたが、日常の活動に支障が出るような影響は幸い、みられませんでした。

3月23日、電力不足をまかなうための計画停電のなか、ろうそくの明かりのもとに集い、ストーブで暖を取りながら月次会が行われました。冒頭、参加者全員で、災害の犠牲となった多くの人びとのために、黙禱をささげました。

心の健康センター  
浅見所長が講演



月次会報告(2月)

悩みの共有  
負担を軽減

心の病は回復する

2月の月次会は、群馬県こころの健康センター所長、浅見隆康さんの講演「心の健康を保つために」を聞いた。浅見さんは「心の病気は回復していく。いろいろな人たちの支援で回復することができる」と、精神疾患の治療の現状を、事例をあげながら解説した。

浅見さんはいま、心の病気の回復手段のひとつとして「土曜学校」を開いている。患者を抱える家族が集まって、悩みを共有しあっている。そのことが心の負担の軽減につながり、子どもの病気のことを人に話せるようになったり、出かけることもできるようになった。患者本人が土曜学校に参加することを喜んだり、病気を理解するための勉強にも取り組んだり、意識の変化がみられるようになってきているという。

また講演では群馬県の認知症対策や自殺予防対策などについても紹介した。

# 地方選挙の 変遷を語る

## 月次会報告(3月)

3月の月次会は23日、社員の川島伸行さんが「戦争中の選挙と今の選挙」と題し、講演した。

桐生市の職員から31歳で桐生市議会議員に当選し、4期16年をつとめた川島さん。そのころの選挙はまだ古い体質が残っていて、集会があると必ずパンと牛乳が出るという、そんな選挙だったそうで、いまはお金をかけないということではいい選挙になっているが、人を集め、ムードを盛り上げるという点ではなかなかむずかしい時代になっていると感想を述べつつ、本題に入った。

### 講師に川島さん



講演では、桐生が市政を施行したころから現代に至るまで、定数や所属政党がどのような変遷を辿ってきたのか、資料をもとに解説。戦前の県会、市会では政党選挙が中心であり、選挙の権利は納税と密接であったことから、必然的に基幹産業である織物との関係性が深かったこと。また戦争中の昭和17年、一致団結して政治を動かしていこうという翼賛体制のもとで行われた選挙のこと、さらに、戦後になって社会党や共産党の躍進がみられた桐生の事情、あるいは、定数の変遷や所属政党の移り変わりに、市勢の浮き沈み、時代の流れが表れているとし、現代の日本が2大政党になかなかきれいなものは、その良さを知っている半面で、危うさもわかっているからではないかと、自らの思いを語っていた。

(1号室、参加者10人)

# 氷瀑の赤城不動大滝

## 周辺を飾る芸術作品

2月の歩く会



2月6日(日)、曇り空のもと女性4名を加えて総勢12名は乗用車3台に分乗、予定を5分ほど遅れての桐生倶楽部出発となった。空っ風街道経由で8:55に滝沢不動尊駐車場に到着。雪模様のなか身支度を整え、不動大滝へ向けて出発した。

凍てついた遊歩道を15分ほど歩くと、「恵みの滝」が全面結氷で氷の塊となって現れた。さらに10分ほどで、「滝沢不動尊」に到着。ここは本殿が巨大な洞窟の軒下を借りての珍しい造りの建物になっていた。気がつくといつしか粉雪は上がっていた。さらに20分ほどで「忠治の岩屋」へ着く。

170年ほど前の天保11年、国定忠治一味が追っ手から逃れて冬の間を隠れて過ごしたといわれる

洞窟です。ここから「不動大滝」はわずかな距離。1月下旬の上毛新聞の一面に掲載された、氷瀑と化した大滝の写真が頭をよぎる。あの幻想的な姿のままに迎えて欲しいとの願いも届かず、水は勢いよく滝壺に落ちていた。一方、滝の周辺の光景は目を見張るものがあった。岩から染み出た水が見事に凍って、氷の芸術作品を作っていた。大きいものでは高さ10メートル、横幅30メートルを超えるものもあり、目を楽ませてくれた。

帰路は来た道を戻り、11過ぎには滝沢不動尊駐車場に到着、現地解散してこの日の山行を無事終了した。

(岸田 記)

# 大川コレクションは「ヒューマニズム」

## 寺田館長が卓話



3月3日の懇話会例会は大川美術館・寺田彦彦館長を講師に迎え、「大川美術館の所蔵品」と題した卓話を頂きました。寺田氏は永らく学習院女子中等科・高等科の科長(校長)を務められた後、学習院名誉教授となり、平成21年7月に大川美術館の館長に就任されました。

卓話の前半では、昭和63(1988)年の開館当時には5千点ほどだった収蔵数が安宅コレクションの一部やパイオニア・松本コレクションを受け容れるなどして今では7千点以上に増えた一方、来館者は開館5年目の2万7千人をピークにこの数年は1万人を下回るほどに減少したことなど、美術館運営の現状についてレポートがありました。

後半、寺田館長はカラーコピーで用意されたレジメをもとに、大川美術館の顔とも言える松本竣介(1912-1948)「街」や野田英夫(1908-1939)「都会」を例に、太平洋戦争前夜の昭和10年代の時代背景や作品の細部に書き込まれた作者の生活・思想について詳細な解説を下さいました。また、収蔵品の画家四百人余に関し故大川栄二氏が作った「人脈図」にも話題が及び、大川市のコレクターとしての「志」は「ヒューマニズム」であったという言葉で宅話を締めくくりました。

当日の出席者18名

(村田 記)

一月

追伸に寒梅のこととくんだり	遠藤 勝久
どの顔も希望の瞳成人式	大槻 圓珠
初風呂に笹舟浮かべ孫を呼び	塚越 平人
寒梅の香りただよふ丘の上	有阪 昌治
寒梅の紅従へて阿弥陀堂	川村 隆
寒梅の咲きてそこだけ人集ふ	久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま旬会

二月

傘立にぼつんと杖や春を待つ	有阪 昌治
とろとろととろとろ燃ゆる春暖炉	遠藤 勝久
春風に応へて川面光りけり	大槻 圓珠
ひめゆりの洞の土にも春が来る	川村 隆
薄氷踏み破りてか腰かがめ	塚越 平人
野の目覚め促しており春の風	久保田 広人

### ＝ 倶楽部だより ＝

- [2月]**
- ・ 歩く会例会「赤城不動大滝」 (6日)
  - ・ 理事会 (7日)
  - ・ 歩く会世話人会 (10日)
  - ・ 社員増強委員会 (14日)
  - ・ 公益法人特別委員会 定款部会 (21日)
  - ・ 公益法人特別委員会 会計部会 (23日)
  - ・ 月次会「こころの健康を保つために」 (24日)
  - ・ はぐるま旬会 (25日)

- [3月]**
- ・ 懇話会「大川美術館所蔵の絵画について」 (3日)
  - ・ 理事会 (8日)
  - ・ 歩く会例会「大小山・大坊山」※中止 (13日)
  - ・ 営繕委員会 (15日)
  - ・ 正副理事長会議 (15日)
  - ・ 歩く会世話人会 (17日)
  - ・ 月次会「戦争中の選挙と今の選挙」 (23日)
  - ・ はぐるま旬会 (25日)
  - ・ 社員増強委員会 (28日)

**[新入社員]** なし

**[退会社員]** ・金井 栄則・三越 桐生

社団法人 桐生倶楽部 第182号  
 2011年(平成23年) 4月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 盛大に文化祭、彩り堪能

桐生倶楽部恒例の文化祭がことしも6日に開会し、最終日の8日には99名が参加し、好天の下で盛大にガーデンパーティーが催され、和気あいあいの歓談と、おいしい料理を楽しんだ。

今回の出品は写真が39点、絵画12点、俳句8点、陶器5点の合計64点。いずれも社員、家族の力作

ぞろいで、2階広間に大勢の人が訪れて、趣味の彩りを堪能した。

なお、文化祭協賛大会の結果は次の通り。〔麻雀大会〕優勝・石原、準優勝・岡田、3位・亀田  
〔春季囲碁大会〕優勝・岸田、準優勝・福永、3位・田中

## 観光基本計画を 佐羽さんが語る

月次会報告(4月)



観光都市桐生の実現に向け、市民と行政がそれぞれの役割を自覚し、活動を展開していくための道筋となる「桐生市観光基本計画」の理解を深めようと、4月の月次会は25日、計画作成委員会委員長を務める佐羽宏之さんを招き、話を聞いた。

同計画のねらいは、数値目標を定め、桐生地域のオリジナル産業を生かし、実態に即した観光戦略を検討しあい、地域づくりの取り組み促進にある。かぎは、もてなしの心と桐生の暮らしへのプライドと、市民事業に対する行政の協力支援だ。

佐羽さんは長期戦略で将来展望をひも解き、短期戦略は今年度の群馬DCが振興の契機となるように、実現可能な行動計画を作成したと語った。

## 彦部住宅を守り継ぎ 癒しの世界を創造

懇話会で彦部さん

5月26日懇話会例会は倶楽部社員で彦部家第49代当主の篤夫氏を講師にお迎えして「彦部家千三百年の歴史」と題する卓話を頂いた。



日本で一番古い(永い?)家柄は天皇家で今上天皇が第125代、今年が皇紀2671年(科学的に疑問があります?)にあたるということだが、彦部家初代・高市皇子(655-696)は天武天皇(631-686)の第1子で、壬申の乱(672)の総指揮官や持統天皇の太政大臣を務めた人、高松塚古墳の埋葬者との説もある。彦部家には「大化の改新(645)」以来の精確な系譜が伝えられており、日本史における有数の旧家である。

篤夫氏が語る千三百年の歴史は多くのエピソードに彩られている。筆者が特に印象に残った事柄を話すと①東大寺大仏の建立は一族と共に自害に追い込まれた2代長家王を鎮魂するためだったこと(井澤元彦説)②21代光朝が源頼朝の藤原泰衡追討(奥州合戦/1189)に従って勲功を上げ、最前線の地(現・岩手県)斯波郡彦部郷に領地を授かったことから「彦部氏」を名乗るようになったこと③27代忠春は足利義満(1358-1408)の重臣として金閣寺(鹿苑寺)の作事奉行を務めたこと④関ヶ原合戦(1600)の際、33代信勝が屋敷内の竹と桐生54過ヶ村から旗綱を徳川に献納したことが、後にこの地区の年貢の減免に結びついたこと⑤46代駒雄は大正～昭和期の桐生織物産業の重要な経営者だったことなどがあげられる。

彦部さんのお住まい(天正8年(1580)頃の建築)は、平成4年(1992)に国重要文化財に指定されており、「重文に住むということ」のご苦労話も語られた。彦部さんは「彦部家住宅の歴史・文化伝統・自然を守って癒しの世界を創造し、次世代に伝えていくことが使命」という言葉で、卓話を締めくくった。当日の出席者18名。

(村田 記)

# 4月はのどか、5月は好天と花

## 歩く会、恵まれた山行

### 大平山と蔵の街

未曾有の大震災から1ヶ月、被災された方々の大変さを思いながらも、漸く平常の生活を取り戻し、歩く会も2ヶ月ぶりの山行です。

今回は久しぶりにJRに乗り、大平山と栃木市の探訪です。計画停電や両毛線の一部不通等を心配されましたが全線通行となり、4月10日朝7時39分、参加者12名が桐生駅を出発。8時30分大平下駅を歩き出し、まず大中寺へ。朝のうちは天気予報に反して曇天でしたが、途中桜や桃そのほか多くの草木が咲いて、のどかな里の景色を楽しみました。

古刹で小説に登場する大中寺でお参りして、急登の道を歩き、ぐみの木峠へ、そこから歴史ある太平山神社に行く。神社から少し下りた謙信平は関東平野を見渡せ、また桜の名所としても有名です。大勢の見物客で賑わっていましたが、残念ながら今年の寒さで、桜は二～三分咲き。ここの名物のタマゴ焼きを全員で美味しくいただいた後、籠のバス停迄歩き、近くの太山寺にある大きな枝垂桜がちょうど満開で、見事な桜を見ることが出来ました。

バスで栃木市内へ移動。巴波川にそって“蔵の街遊歩道”を歩く。兩岸の白壁土蔵が往時の繁栄を偲ばせます。今日の参加者に栃木出身の方がいて、育った頃の街の様子を聞く事ができ、より身近に感じられました。“油伝味噌”に立ち寄り、



森朴で懐かしい味の田楽をいただき小休止。午後3時過ぎに桐生駅に到着。春を満喫した1日でした。(栗原 記)



### 薬師岳&夕日岳

5月8日の歩く会は前日光高原の薬師岳と夕日岳の二峰へ登った。

参加者16名は4台の自家用車に分乗して6:30桐生倶楽部を出発。登山口の細尾峠はR122の日足トンネルが開通するまでは、足尾と日光を結ぶ幹線道路でバスやトラックが行き交ったそうだ。8:50には薬師岳山頂(1420米)に到着。ヤシオツツジは五分咲き程度だったが十分に眼を楽しませてくれた。

薬師の肩まで下り、石祠・不動尊を左に見、5回のアップダウンを経て、「三つ目」の分岐を左折し、10:30夕日岳山頂(1526米)到着。ここで早めの昼食をとって、11:00出発。細尾峠までのクマ笹の尾根道は幾つものアップダウンがあるうえ、馬の背や、片側に険しい断崖があるなど、ヤシオツツジに見取れているひまはない。低山にもかかわらず山行の趣を十分に楽しむことができた。12:55細尾峠に到着、帰路のR122では沿道の遅咲き桜を楽しみながら、14:30全員無事に倶楽部へ帰着。好天と美しい花に恵まれた良い山行だった。

(村田 記)





### 宮城岩沼・泥かき支援に参加

サン建設社長の腰塚さんに誘われて、4月12日「泥かき作業ボランティア」に参加した。

3月11日の大震災当日、震源から100キロほどの岩沼市は、桐生と同じ「震度6弱」だったとのこと。津波被害を受けていない市街地に被災地区の印象はないが、常磐自動車道・岩沼ICを過ぎると周囲の様相は一変する。午前10時半、目的地の岩沼市寺島地区・菅原家に到着した。

装備を整えた46人のボランティア作業隊は二手に分かれ、海水交じりの重い泥をスコップでかき、一輪車で運び出す。この作業を何十回と重ねてから、家具などを屋外に出し、箒で仕上げの掃除をして、作業を終えたのが午後3時40分。それから10分ほどで身支度を整えて出発し、被災地の様子を確かめながら帰路についた。

岩沼市は人口4万4千人。震災と津波による死者・行方不明者は185人。腰塚さんのリーダーシップと好天に恵まれ、泥かき仕事はそれなりに成果をあげたと考えている。(村田・記)



高草木さんお疲れさま

寺嶋さんよろしく

### 事務局員交代します

このたび13年間勤務されました高草木淑子さんが退職され、新たに応募者多数の中から選ばれた明るい笑顔の寺嶋美嘉さんが勤務することになりました。

誠心誠意勤めさせていただきますので長尾共々よろしくお願いたします。(事務局・記)

三月

春泥を項にも付け勝ち試合

川村 隆

卒業のころに戻りしクラス会

大槻 圓珠

すみれ咲く小径足音しのばせし

塚越 平人

春泥を跳ね上げ駿馬遠去かる

遠藤 勝久

卒業の朋上げ軽し老教師

久保田広人

桐生倶楽部はぐるま句会

四月

開通の北関道のつつじ燃ゆ

遠藤 勝久

轉りに誘はれて吹く篠の笛

川村 隆

轉りの森から入る美術館

大槻 圓珠

おのが手で植替えしたるつつじかな

塚越 平人

轉りの高まり来たり雨上がる

有阪 昌治

行く春や津波の話きりもなく

久保田広人

### ＝ 倶楽部だより ＝

- [4月]**
  - ・ゴルフ部 ※中止 (2日)
  - ・正副理事長会議 (4日)
  - ・歩く会例会「大平山」 (10日)
  - ・理事会 (11日)
  - ・歩く会世話人会 (14日)
  - ・写真部会 (19日)
  - ・月次会「桐生市観光基本計画について」 (25日)
  - ・定款・会計合同部会 (27日)
  - ・麻雀大会 (27日)
  - ・はぐるま句会 (28日)
  - ・囲碁大会 (30日)
- [5月]**
  - ・文化祭 (6～8日)
  - ・ガーデンパーティー (8日)
  - ・歩く会例会「前日光」 (8日)
  - ・理事会 (9日)
  - ・歩く会世話人会 (12日)
  - ・定款・会計合同部会 (25日)
  - ・はぐるま句会 (26日)
  - ・懇話会5月例会 (26日)
  - ・「国指定重要文化財・彦部住宅について」 (26日)
  - ・社員増強委員会 (30日)

【新入社員】なし

【退会社員】森山 亨(逝去)

社団法人 桐生倶楽部 第183号  
 2011年(平成23年) 6月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツポノ印刷株式会社

平成 23 年 6 月 吉日

桐生倶楽部社員 各位

(社) 桐生倶楽部 理事長 阿部高久  
社員増強委員会 委員長 村田豊樹

### 倶楽部社員増強活動へご協力のお願い

拝啓 初夏の候、社員の皆様におかれましては日頃桐生倶楽部諸活動にご協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて私たち桐生倶楽部では本年度 20 名の社員増員を目指し、理事会および社員増強委員会が力をあわせて、社員の増員拡大のため日々努力をしております。

つきましては倶楽部社員の皆様にも趣旨をご賢察下さり、是非ご友人などへ桐生倶楽部の紹介をお願いし、社員の増員拡大にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

桐生倶楽部を紹介して頂く際に次のポイントを必ずお伝え下さい。

1. (社) 桐生倶楽部は明治 33 年誕生の「桐生懇話会」を母体として大正 7 年に設立された、今年で満 93 年を迎える歴史ある倶楽部であること。
2. 「交詢社」や「日本橋倶楽部」などと並んで、日本で有数の社交倶楽部であること。
3. 桐生倶楽部会館建物（大正 8 年完成）は国指定登録有形文化財であること。
4. 費用は、入会金 3 万円、月額会費 3 千円を要すること。
5. その他、皆様がいかに楽しく倶楽部の活動に参加されているかなど。

倶楽部の歴史を紹介するリーフレットと、申込書に相当する「桐生倶楽部・入社審査申請書」を 1 部同封しました。ご友人をご紹介下さる際にご利用下さい。同申請書に記入できましたら事務局へご提出下さい。直後の理事会で審査し、入社が認められます。

倶楽部に関するパンフレットは事務局に備え付けてあります、お入用の際にはご来館下さい。

以上色々とお願ひ致しましたが、倶楽部の発展存続活性化のためご協力の程宜しくお願ひ申し上げます。

敬 具

# 桐生倶楽部 入社審査申請書

## 個人会員

氏名	生年月日	ふりがな	生年月日 ( . . . 生)	< 票 決 > 賛成 不賛成 中立 判定	票 票 票 ( ) ( ) ( ) ( )
自宅住所					
主な連絡先電話/FAX/ケータイ					
勤務先 役職名					
所在地 電話/FAX					
入部を希望する部会					

## 法人会員

会社名	代表者名	ふりがな	< 票 決 > 賛成 不賛成 中立 判定	票 票 票 ( ) ( ) ( ) ( )
所在地 電話/FAX				
本社(店)の所在地				
入部を希望する部会				
代理者の氏名				

上記、桐生倶楽部の新入社員として紹介申し上げますのでご審査願います。

平成 年 月 日

紹介者

印

紹介者

印

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



市政運営、  
これからのあゆみ

## 亀山市長が月次会で講演

6月の月次会は13日、2期目に入った亀山豊文桐生市長を講師に招き、これからの桐生市が進んでいく方向と、市政運営について聞いた。

市長はこの中で、「地域の魅力が輝く桐生を目指して」の言葉で指標を掲げ、未来に向けた3つの基本政策として元気で活力あるまちづくり、安心して暮らせるまちづくり、子供のための未来づくりを今後の4年間の柱にしたいと語った。

元気で活力あるまちづくりの重点は、人口減少対策の推進、桐生ブランドの確立を目標とした地場産業の活性化、工業団地の新規造成、空き店舗の積極活用、産業観光の推進、天満宮地区及び本町一・二丁目の町並み保存、シティーセールスの充実強化、市民活動支援の強化。安心して暮らせるまちづくりでは、北関東自動車道をもっと便利にしていく、都市基盤整備の充実、桐生厚生総合病院の充実、高齢者の生活サポートの充実、スポ

ーツ施設の充実、住宅リフォーム助成の充実。子供のための未来づくりでは放課後児童クラブの充実、児童公園の充実、すこやか子育て事業の推進、安心と安全な食のための学校給食共同調理場の改革、これまでの子育て支援のさらなる充実。

また、未来へ飛躍するための重点施策として産官学連携の推進、群馬大学工学部との連携によって環境先進都市を目指す、みどり市との合併、効果的・効率的な行政運営の推進、そして東日本大震災の教訓を生かして災害に強いまちづくりに取り組み、つねに市民が主役のまちづくりを進めていきたいと、それぞれの予算的な裏づけを解説しながら、桐生のあるべき姿を示していった。

参加者は39人。講演は約1時間に及び、「亀山市長はどうぞも正直すぎるのではないか」といった先輩社員たちの温かい激励に苦笑いをまじえながら、質疑応答にも丁寧にこたえていた。

## 碓氷峠、めがね橋へ 6月の歩く会



6月5日の歩く会は碓氷峠をハイキングしました。JR横川駅に隣接する「碓氷峠鉄道むら」の駐車場を8:40出発。旧鉄道の道を登り始める。一見平な様であるが、遠方を見ると上り坂の連続と思われる。かつて「アプト式鉄道」の跡なので急なカーブは少ない。碓氷関所跡を過ぎ「峠の湯」へと進む。

立派なホテルには驚きました。一休みして、第2トンネルを抜けると左に碓氷湖（坂本ダム）が広がっています。20分ほどで静かな湖畔を回ることが出来、新緑でとても気持ちよく探索しました。線路跡の道に戻り、この先はトンネルが多く三つ目のトンネルを抜けると「めがね橋」（碓氷第3橋梁）に到着。橋の上の景色が素晴らしい。下には旧道も見え、思わずみんなで記念撮影。下の自動車道に向かう。下から見るめがね橋も立派。またみんなで記念撮影。

3百米ほど旧道を歩いて鉄道跡の道に戻り、「峠の湯」に向かう。自動車の騒音もほとんど無く静かな山道、空気もうまい！ホテルのお風呂に入り食事の人、弁当持参の人は芝生の上で食事。帰路、野草の花の美しさに驚く。登りの時に気付いていたが、ノザアミの紫、ハルジオンの淡いピンク、花を求めるクロアゲハ蝶。実にきれいに咲いている。仲間の写真マニアが盛んにシャッターを切っている。色々な花を見ながら14:00駐車場に帰着。好天に恵まれ楽しいハイキングでした。ここで現地解散とし、それぞれ桐生へ向かいました。参加者9名。

(江原 記)



## 尾瀬の涼風、植物を満喫 7月の歩く会



7月24日の歩く会は尾瀬ヶ原をハイキングしました。参加者22名、5:30倶楽部を出発。

小型バスで8:00鳩待峠（標高1591米）へ到着。腰塚さんのリードで入念な準備体操の後山行スタート。山の鼻（1399米）まで下って、あとは湿原の中を竜宮十字路までのテクテク歩き。尾瀬ヶ原は約1万年前燧ヶ岳の噴火によってできた湿原とのこと。46億年の地球の歴史の中ではごく最近のできごとです。

燧ヶ岳をバッグにカップル毎（カップルでない人はそれなりに）に記念写真。お天気は僅かに薄日が射す程度で、涼しくて凌ぎ易い。湿原の中に整備された木道にTEPCOの焼印があって、3/11以来何かと批判的になっている東電殿ですが、この時ばかりは皆で感謝。11:00竜宮十字路で昼食、武井さんたちが運んで来てくれた「西瓜」を皆で有難くデザートに頂きました、ご馳走様でした。

来た道に戻りますが、鳩待峠への標高差200米の登り返しは少々きつい。予定通りの14:00鳩待峠へ帰着。往復で見かけた花々は、ニコウキスゲ・オオマルバノホロシ（オゼナス）・キンコウカ・ワタスゲ・クガイソウ・ヒツジグサ・カキツバタの他沢山（名前を知らないのです）。帰路R120号沿いの「わたすげの湯」で汗を流し生ビールで癒された後、予定より30分早い17:30倶楽部に帰着。涼風と高原の花を満喫した山行でした。

(村田 記)

# 一大イベント、支え合う舞台裏



## クラシックカーフェスティバル in 桐生 7月の月次会、主宰の前原さんが講演

秋の桐生に2万人からの人を集め、今や全国的イベントとなった「クラシックカーフェスティバル in 桐生」。6回目を迎える今年も11月6日、群馬大学工学部キャンパスを会場に開催されるが、このフェスティバルの先頭にたち、だれもが楽しめるイベントに育ててきたのが、主宰をつとめる前原勝良さんで、内科医、そして倶楽部社員だ。7月月次会は22日、その前原さんを講師に招き、運営の舞台裏に耳を傾けた。参加者22名。

1975年までに製造された日本車・外国車で正規のナンバーをつけていて、著しい改造車でないこと、そして品格があること。フェスティバルの参加条件ははじめから厳格だった。それでも毎年、300台くらいの参加車がある。遠くは仙台や神戸。これらが工学部キャンパスいっぱいにゆったりと配置され、車の好きな人はもちろんのこと、会場の雰囲気誘われて家族連れや気のあう

同士、とにかく各地から、大勢の人が楽しみにやってくるという催しになった。全国的にも例を見ない形で展開されていて、大学のキャンパスという会場の魅力、イベントに協力的な桐生市民の雰囲気そうさせていると、前原さんは話す。

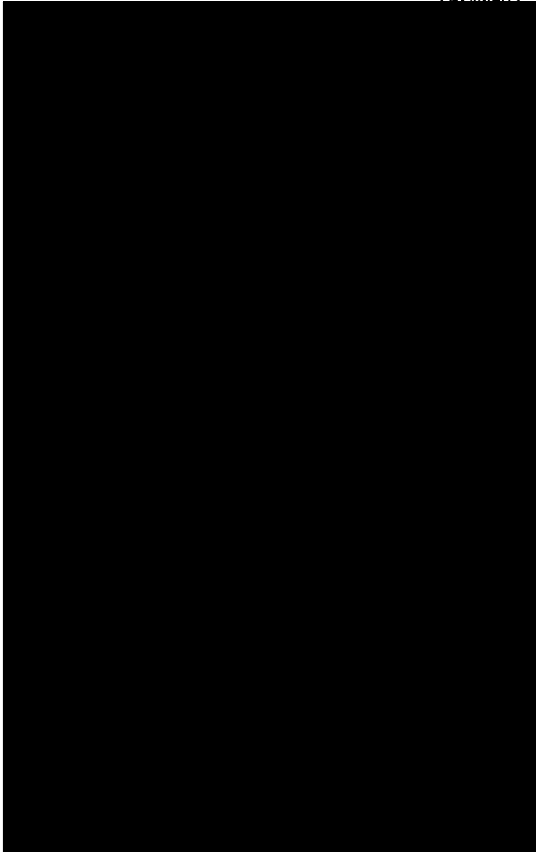
運営の原動力になっているのが実行委員会。とにかく、率先して動く人たちに恵まれていて、大学や桐生市をはじめ、各機関に全面的な協力ももらい、勢いづいているという。

前夜祭、特別車の展示、桐生市内や近郊のラリー、子どものお絵描き大会、大学関係者の特別講演会、そして目抜き通りをパレードをしながらのフィナーレと、すっかり定着した現在の形。講演ではそれを支えてくれた人たちに感謝を込めながら、スライド撮影を交えて話を進め、いまのイベントの特徴を生かし、これからもよりいっそう楽しいイベントにしていきたいと、抱負を語った。

# ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



## 建物修繕に10万円の寄付

建物修繕に役立ててほしいと、桐生倶楽部はこのほど、国際ロータリー第2840地区（群馬県地区）の直前ガバナー福田一良さんから10万円の寄付を受けた。

「東日本大震災で被害の大きかった桐生に」という趣旨で、桐生地区5ロータリークラブに託されたもので、話し合いの結果、桐生倶楽部の震災補修に役立てることになった。寄付金は、ガバナー補佐の川畑良治さんが阿部理事長に手渡した。



五月

桐生倶楽部はぐるま旬会

草笛を吹く子ら遠くなりにつけり	有阪 昌治
地下鉄を出でて夏めく銀座かな	遠藤 勝久
草笛や一心に吹く丘の上	大槻 圓珠
新緑を愛でつつめぐる山路かな	塚越 平人
草笛や千曲に暮れて懐古園	久保田 広人

六月

足浸けて子と遊びる夏の川	大槻 圓珠
梅雨晴に庭木あわてて刈りあげる	川村 隆
本流の瀬音の変わる夏の川	遠藤 勝久
五月晴霞状迎のおわす山の上	有阪 昌治
夕立に白く泡立つ夏の川	塚越 平人
水底の魚影太りぬ夏の川	久保田 広人

## ＝ 倶楽部だより ＝

- 【6月】・歩く会例会「碓氷峠・近代化遺産めぐり」(5日)
- ・理事会 (6日)
- ・美術部会 (7日)
- ・歩く会世話人会 (9日)
- ・月次会「亀山豊文桐生市長講演」(13日)
- ・はぐるま旬会 (29日)
- 【7月】・公益法人認可申請部会 (6日)
- ・理事会 (11日)
- ・群馬県法人検査 (15日)
- ・美術部会 鑑賞会 国立新美術館へ (16日)
- ・公益法人認可申請部会 (20日)
- ・月次会 (22日)
- 「今年も開催 クラシックカーフェスティバルイン桐生」
- ・歩く会例会「尾瀬ヶ原」(24日)
- ・社員増強委員会 (25日)
- ・はぐるま旬会 (28日)
- ・歩く会世話人会 (28日)

【新入社員】 周藤 孝子 高梨 静江  
上原 泰洋 市川 孝江

【退会社員】 ㈱東京電力

社団法人 桐生倶楽部 第184号  
2011年(平成23年) 8月発行

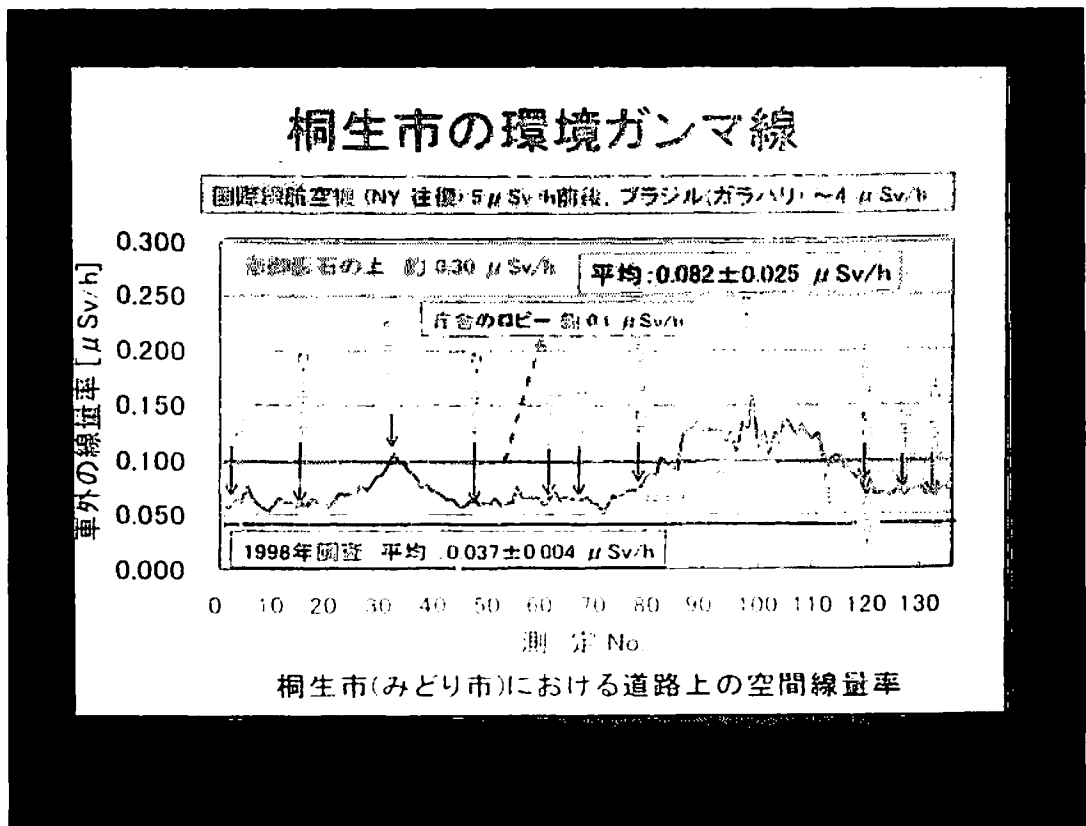
発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝  
印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 桐生の環境放射線レベルは不安になるレベルではない



### 県民健康科学大学・杉野雅人先生が公開講座

桐生倶楽部は27日、9月の月次会として「環境放射線について」と題する公開講座を開き、群馬県立県民健康科学大学の杉野雅人さんを講師に招いた。杉野さんは、福島第1原発事故に伴う放射性物質の拡散の影響について「桐生市内の環境

放射線レベルは事故前と比較して約1.5倍～4倍程度と考えられる。不安になるレベルではないが、継続的な測定と公衆の理解、協力が望まれる」とまとめた。(講演の詳細は2面。写真は杉野さんのスライド資料「桐生市の環境ガンマ線」)



# 放射線の正しい理解を

## 月次会報告(9月)



公開講座「環境汚染について」には、一般からの聴講者を含め、34人が参加して、放射線に対する正しい知識を身につけたいと、講師の杉野雅人さんの話に真剣に耳を傾けた。

杉野さんはまず、私たちが日常生活の中で浴びている自然放射線について、宇宙線や大地放射線や食物などからのもの、また空気中のラドンの吸入からのものと、世界平均で年間2・4ミリシーベルトと解説。ただし、「日本人の場合は医療での被ばく線量があって年間3・7ミリシーベルトになっています」とも。

環境放射線には他にも建物から出るもの、あるいは私たち自身から出るものいろいろあって、こうした自然の放射線と今回のような事故で広がった物質から出る放射線は、どちらも全く同じものであると説明し、しかし、放射線の存在が五感にはまったく感じないために怖さが増幅されているのだという。

そのせいか、放射能や放射線、放射性物質などの用語も正しく使い分けられておらず、「放射能は放射線を放出する能力のことで、漏れるのは放射線あるいは放射性物質のことです」と語り、ま

た、放射線を測定するためのサーベイメータ各種もたくさん出回っているけれど、この測定器そのものの選定が結構難しいし、測定には場所や位置や補正を考慮しなければならず、また、現状はそういう対応が必要な状況でもない、と語った。

杉野さんは事故後に大学の運動場で計った記録を紹介しつつ、一時的には線量があがったものの4月以降は事故前と同レベルに低下して、降雨による影響もほとんど見られなくなったという。

そして自ら車で回って測定した桐生市内の結果を考慮に入れながら、市民が不安視している放射線被ばく線量について、平均的な被ばく線量とあわせて年間1・53ミリシーベルトとし、年間で100ミリシーベルトを浴びると発ガンのリスクが0・5%上がると推定されるが、それらも運動不足や肥満や毎日2合以上の飲酒のリスクより低い程度だし、現状で桐生市内で100ミリシーベルトの被ばくを受ける場所は考えづらく、不安になるレベルではないと説明。でも、「継続的な測定と公衆の理解、協力が望まれる」と語り、およそ90分の講演を締めくくった。



## アルプスの山並み満喫 9月の歩く会上高地を散策

9月桐生倶楽部「歩く会」例会は、上高地散策である。定刻早朝5時に45人全員が、揃っての出発となった。

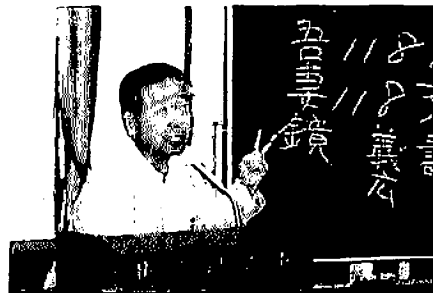
前夜の天気予報によると上高地のある長野県は、関東甲信越の中では比較的良いということであったが、上信道の横川を過ぎるあたりから、雨が降り出し10のトンネルを過ぎるころには本降りになった。車中、一瞬静かになったが、トンネルを抜け佐久に出ると一同の歓声に変わった。晴天で我々を迎えてくれたのだ。道路が空いていたのと、全員のはやる気持ちを察知してのことか、バスは目的地に予定より55分早く着いた。

下車地点の大正池は、焼岳の噴火で梓川に上砂が流れ、雰囲気のある景観になっているところだ。気温16度、高原の爽やかさが優しく身体を包んでくれる。梓川越しに見る焼岳は、荒々しくも迫力満点で、どっしりしている。ここで集合写真を撮り、一同解散、2時50分の河童橋の集合時間まで、自由時間である。梅花藻の生える清流と、林の織りなす景観の中をせせらぎの音を聞きながら逍遙すると河童橋に辿り着いた。

そこからの眺めは天下一品で、時間のせいか、余り込まず、ゆっくりと晴天に輝く西徳、ジャン

ダルム、吊尾根、前徳、明神岳の山並みを満喫できた。取って返し、右岸を小一時間程歩いて、道が開けたところが明神池である。入口には、アルプスを世に広めたウェストン(イギリス人宣教師)を道案内した上条嘉門次の小屋があり、若い山屋のカップルが結婚式を挙げていた。明神岳を背景に存在する明神池は、静かで上高地の自然の中に、溶け込んでいた。

集合時間の少し前に、全員集合しての出発となり、桐生着は予定時間より30分以上早い到着になった。日本屈指の山岳景勝地での散策は、好天に恵まれ、生涯忘れられない宝物を参加者に残してくれた。(岸田 記)



懇話会例会

### 大瀬さん、桐生氏を語る

8月25日の懇話会例会は元桐生市図書館館長で桐生文化史談会のメンバーでもある大瀬祐太氏を講師に迎え「桐生氏の歴史」と題する講話を頂きました。

大瀬氏は、歴史に最初に登場する桐生六郎(?-1183)が藤姓足利俊綱の郎従で、源頼朝と志田義広が戦った野木宮合戦(1183)では頼朝に敵対して敗れた後主人俊綱を斬って頼朝に仕える

(4面に続く)



＝ 新入社員紹介 ＝



(3面から続く)

ことを望むが逆臣として誅殺されてしまったことや、桐生天満宮や柄杓山城を造ってこの地域を治めた桐生氏が藤姓足利氏の庶流佐野氏の一族であったことなどを、北条得宗家の歴史書『吾妻鏡』や氏自らが発掘した古文書などを例証として、元元実証資料が乏しく複雑な中世の歴史を丁寧に説明して下さいました。

大瀬氏は「桐生氏の歴史は桐生市の貴重な歴史遺産」と熱く語って、講話を締めくくりました。

またこの日は、出席者41名のうちビジターが23名という盛況ぶりで、本市の名称の起こりとなった「桐生氏」への市民の興味の深さを改めて感じる懇話会となりました。

(村田 記)



七月

桐生倶楽部はぐるま旬会

うすぐらくなりし下山は大股に	塚越	平人
節電の声にクーラー買ひそびれ	川村	隆
冷房を上げ下げしては人を待つ	大槻	圓珠
とんび岩一汗ぬぐひ登り難ぐ	遠藤	勝久
紫陽花の見事に咲きし無人駅	有阪	昌治
冷房を海風にかへ連絡船	久保田	広人

八月

雲一つ見えて日暮れの原爆忌	塚越	平人
天を差す巨人の像や原爆忌	遠藤	勝久
芭蕉葉の雨にゆらめく村社	川村	隆
木に寄れば木の匂ひくる暑さかな	有阪	昌治
央竹桃今年も咲けり爆心地	久保田	広人

＝ 倶楽部だより ＝

- 【8月】・理事会 (9日)  
 ・懇話会「桐生氏について」 (25日)  
 ・はぐるま旬会 (26日)  
 ・公益法人認可申請部会 (26日)

- 【7月】・理事会 (5日)  
 ・歩く会例会「上高地」 (11日)  
 ・営繕委員会 (12日)  
 ・歩く会世話人会 (15日)  
 ・美術部会 鑑賞会 大川美術館へ (17日)  
 ・社員増強委員会 (26日)  
 ・月次会「環境放射線について」 (27日)  
 ・はぐるま旬会 (28日)  
 ・公益法人認可申請部会 (28日)

【新入社員】 小滝 芳江 群馬興業物  
森下 直哉

【退会社員】 なし

社団法人 桐生倶楽部 第185号  
 2011年(平成23年) 10月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 一般社団法人の定款、内規を承認 平成23年度臨時社員総会



### 再スタートへ準備は着々

桐生倶楽部の平成23年度臨時社員総会が11月29日開催され、新公益法人制度に基づく「一般社団法人桐生倶楽部」にむけて、新たな定款と内規が原案どおり承認されました。今後移行を申請し、来年に認可が下りれば、平成25年1月1日から新生桐生倶楽部がスタートする運びです。

昨年度の臨時社員総会で一般社団法人への移行方針が固まり、そこから1年余、定款部会と会計部会を中心に、一般社団法人への移行に必要な組織の枠組みに検討が重ねられてきました。

正式名称は「一般社団法人桐生倶楽部」。目的

には「本倶楽部は社員相互の知識、経験等を交換し、親睦を深めるとともに、公益に資する事業を考究し、その遂行を期するをもって目的とする」。「本倶楽部は、所有する建物の歴史的かつ文化的価値を認め、その維持管理及び運用に努め、もってこれを広く社会公共の資産として活用することを目的とする」とうたわれています。

桐生倶楽部の歴史と伝統的な精神を未来へとつなぐ。その役割をしっかりと受けとめていこうという思いを込めた再スタートです。定款作成にあたっては、平易な表現に書き改められました。

## インフルエンザワクチンを 金子さんがやさしく解説



月次会報告 (11月)

11月の月次会は29日、桐生市の「みらいこどもクリニック」金子浩章院長が「インフルエンザワクチンを理解するために」というテーマで講演し、34人の参加者が熱心に耳を傾けた。

金子さんはまず、インフルエンザウィルスのタイプ分けや、流行を予測してワクチンを製造する仕組みをわかりやすく解説。「効果が出てくるのに1カ月ほどかかるので、インフルエンザの流行の時期を考えると12月はじめまでに接種を終了することがお勧めです」としたうえで「ワクチンの目的はかからないためではなくて、症状が重く

ならないためとお考えください」と、語りかけた。

接種を希望した人たちにはいまでも、ワクチンを打てばインフルエンザにかからないと、そのような理解が少なからずあるが、麻しんワクチンなどのような高い効き目には残念ながら及ばないのが現状だという。まったく症状が出ないことを効き目と考えると、その有効率は5歳以下の子供では約2～3割。「かかってしまったけれど、インフルエンザに引き続く中耳炎や肺炎などの合併症を避けられる」ことを効き目ととらえれば、効果はもう少し期待できるそうで、小さな子どもの場合は、それをよく理解した上でワクチンを打つか打たないかを選ぶことが必要だと金子さん。

時節柄、インフルエンザは大きな関心事であって、講演終了後も多くの質問が出た。金子さんはそのひとつひとつについて「ふつうの風邪にはワクチンの効き目はありません」「新型インフルエンザは阻止できないと思いますが、もしその時がきたらプレバンデミックワクチンで伝播の速度をゆっくりとさせて、その間にワクチンをつくるという態勢で専門家は臨んでいます」など丁寧にこたえてくれた。

## 水道事業は至誠一貫

斎藤局長が講演

10月の月次会は25日、創設80周年を迎えた桐生市水道局の斎藤陽一局長が「桐生市水道事業の今までとこれから（新梅田浄水場建設計画を含めて）」と題して講演しました。

斎藤局長はまず、桐生市の水道事業の創設に功績のあった4人の人物伝にふれ、近代水道の父といわれる中島鋭治東京大学教授の調査と、その後継者となった草間偉東京大学教授、この計画を推進した関口義慶二市長、そして水道工事の総括責任者として草間教授の推薦で来られた谷口清三郎氏らの業績を紹介しました。谷口氏は、当時東京水道局を退職して、昭和7年4月給水が開始されるまで5年間、桐生市に滞在し水道事業に尽力されています。

また、元宿浄水場用地を寄付した岡部権右衛門氏について話し、顕彰碑と共に、傍らの碑に刻まれた座右の銘「至誠一貫天自感」は今の水道局でも大切な言葉になっているとのことでした。

月次会報告 (10月)



このあと、新梅田浄水場について、ダムによって得た約3万トンの水利権を利用し、自然流下で水道山まで引き、元宿浄水場の水と合わせて堤の排水施設から他の地域に配水する計画を説明しました。新浄水場の浄水と配水工程では70%以上のCO<sub>2</sub>前後の削減効果が期待できるということでした。

原子力発電事故に伴う放射能物質を含む汚泥や浄水場から出る汚泥の処理については、浄水場と分流式下水道と市内中心部の合流式の下水道の場合についてそれぞれ数値は違うが、現状埋め立て処理を行える数値になっているとのことでした。

「水道局として安全な水を供給していますのでご安心頂きたい」ということでした。(大西 記)

## 足が辣む岩峰・鹿岳 11月、西上州で歩く会



歩く会11月例会は13日、西上州南牧村の鹿岳(かなだけ・1015米)を山行した。

登山口は標高400米で頂上までの標高差は約600米、吾妻山二つ分の山行である。手入れが行き届いた南斜面の杉林をジグザグに1時間程登ると雑木林となり、最後の急登100米程登りきったところが鹿岳の鞍部。更に左手へ50米程登った処が鹿岳本峰(別名北峰・二の岳)である。

鞍部からは両側が深い谷の「馬の背」を進んで二の岳直下に至り、此処からは木製の梯子・ロープ・クサリがつけられた急峻な道を登って10:40頂上に到着。頂上のスペースは狭く、記念写真を撮って周囲の景色を楽しむとすぐに鞍部へ戻る。昼食休憩の後、希望者だけ「一の岳・南峰」へ登った。急な梯子と岩の道を20分程行った処が山頂、突端の岩上に「摩利支天おんまりしゑいそわか」と刻まれた石碑がこの山頂のランドマーク。鞍部まで戻って11:40下山開始。帰路西下仁田温泉「荒船の湯」で汗を流して、16:30桐生倶楽部着。天候に恵まれ紅葉と岩峰を楽しんだ山行でした。参加者13人 (村田 記)

## 10月は紅葉の茶臼岳

10月16日の歩く会は参加者16人で那須をハイキングしました。

山の天気は気まぐれで、8時発のロープウェイに乗る頃には、霧で見通しが利かず、霧の中の茶臼岳(1916米)登山になりました。視界不良に加えてごろごろした石の道で歩きにくく、中間地点に当たる「峰の茶屋」は、風の通り道の噂に違わぬものでした。

そこで一休みをして、朝日岳(1896米)へ。鎖が水平に掛かった難所を2箇所通過し、山頂への道は残念ながら全く望めず、そそくさと山頂を後

にして、来た道を引き返した。

11時20分を過ぎた頃から霧が晴れ始め、今まで霧のベールに包まれていた紅葉のジュータンが、目を楽しませてくれた。紅葉のグラデーションと黄葉の織りなす錦絵は、正に錦繡の那須連山であった。気まぐれの天気に悩まされた山行となったが「終わり良ければ、全てよし」、印象に残る1日となった。(岸田 記)



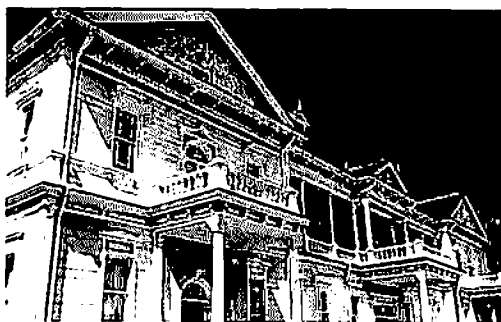
## 木村教室が文化財調査報告



10月22日(土)午後、長岡造形大学・造形研究科長で文化庁所管・文化財保護審議委員を努めておられます工学博士木村勉教授と、その門下生で4年生の一ノ瀬麻衣子さんによる「文化財調査報告会」が1号室で開かれました。

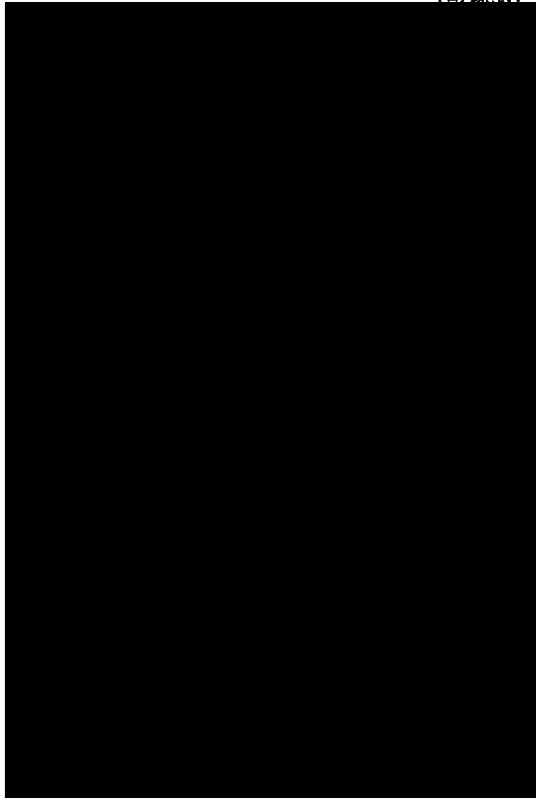
一ノ瀬さんの発表は卒業研究の中間報告ということでしたが、桐生倶楽部会館建築後の増改築や敷地の変遷など詳細な歴史に加えて、明治33年の懇話会設立当時から桐生そのものの歴史と関わりを、映像を交えての丁寧な発表でした。

木村先生は先生ご自身が十年以上に亘り関わって来られた「函館区公会堂」の改修工事に関する経緯を豊富な写真資料と共にレポートされました。ちなみに「函館区公会堂」は明治43年創建の木造二階建西洋館で昭和49年に国重要文化財の指定を受けた後、今では函館市の主要な観光スポットのひとつになっているそうです。当日の出席者は阿部理事を含め9名。(村田 記)



＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



九月

桐生倶楽部はぐるま句会

奥やかにモンゴル力士勝名乗り	久保田 広人
奥やかな道しるべ探す散歩かな	塚越 平人
木犀の花は見えずに角曲がる	川村 隆
尾尾にて池面をたたく蜻蛉かな	有阪 昌治
峰よりの風も奥やかに温泉の会話	遠藤 勝久

十月

未枯や空馬車急ぐ湖畔かな	久保田 広人
千五百羅漢の道の野菊かな	川村 隆
白雲を湖面に流し秋の風	有阪 昌治
渡舟場へ続く小径の野菊かな	遠藤 勝久
落つる日に影長々と紫山子かな	塚越 平人

新田氏のルーツは清和天皇



歴史家久保田さん  
懇話会でひとく

10月27日の懇話会例会は、「榛名町史」編集委員をお勤めになっている歴史家の久保田順一先生を講師にお迎えして「新田氏の歴史」と題する講話を頂きました。

久保田先生によれば、新田氏のルーツは河内に根拠を置いた河内源氏三代目・源義家（八幡太郎/1039-1106）であり、さらに遡ると平安時代前期第56代清和天皇（850-881）の孫・経基王（?-961）が臣籍降下して清和源氏初代・源経基になったところから始まる450年の歴史が「新田氏の歴史」ということだそうです。元弘の変（1331-1333）では、その家柄の故に、20万を超える兵力を集めて鎌倉幕府（北条氏）を滅亡させる軍勢の旗頭となった経緯などが、豊富な古文書を読み解きながら語られました。（村田 記）

＝ 倶楽部だより ＝

- 【10月】・理事会 (11日)
- ・歩く会例会「那須茶臼岳・朝日岳」 (16日)
- ・歩く会世話人会 (20日)
- ・桐生倶楽部文化財調査報告会 (22日)
- ・公益法人認可申請部会 (24日)
- ・月次会「桐生市水道事業の今までとこれから」 (25日)
- ・はぐるま句会 (26日)
- ・懇話会「新田氏の歴史」 (27日)

- 【11月】・理事会 (8日)
- ・秋季囲碁大会 (12日)
- ・歩く会例会「鹿岳」 (13日)
- ・正副理事長会議 (14日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・社員増強委員会 (28日)
- ・臨時社員総会 (29日)
- ・月次会「インフルエンザの基礎知識」 (29日)
- ・はぐるま句会 (29日)

【新入社員】 赤岩 英夫 平田 澄子  
園田 誠 大島 安周

【退会社員】 大島 宗作（逝去） 大槻 潤次（逝去）

社団法人 桐生倶楽部 第186号  
 2011年(平成23年) 12月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツポノ印刷株式会社

## 定時社員総会報告

平成24年度定時社員総会は1月31日午後6時00分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は村田理事の司会で、山口副理事長の開会のことばに続き、全社員264名中202名(委任状164名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。阿部理事長のあいさつのあと、理事長が議長となり議事に入った。

第1号議案	平成23年度事業報告の件	(矢野副理事長)
第2号議案	平成23年度収支決算の件	(竹内理事)
	監査報告	(酒井監事)
第3号議案	平成24年度事業計画(案)の件	(阿部理事長)
第4号議案	平成24年度収支予算(案)の件	(竹内理事)
第5号議案	公益目的支出計画の件	(松島理事と森副理事長)

森副理事長の開会のことばのあと午後7時05分閉会となった。

24年度役員は昨年に引き続き下記のとおりです。

(理事長)	阿部 高久		
(副理事長)	矢野 昭	森 壽作	山口 正夫
(会計理事)	竹内 康雄	押見 新一郎	
(理事)	佐藤 富三	岸 芳正	北川 洋
	坪井 良廣	江原 毅	根津 紀久雄
	松島 宏明	前原 勝	塚越 紀隆
	藤江 篤	岸田 信克	前原 勝良
	宮地 由高	村田 豊樹	
(監事)	酒井 豊	大西 康之	

以上



# 平成 24 年 度 定 時 社 員 総 会

日 時：平成 24年 1 月 31日

社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成23年度事業報告の件

第2号議案 平成23年度収支決算の件  
監査報告

第3号議案 平成24年度事業計画(案)の件

第4号議案 平成24年度収支予算(案)の件

第5号議案 公益目的支出計画の件

1. 閉会のことば

平成23年度

## 事業概況

自 平成23年1月1日  
至 平成23年12月31日

### 社団法人 桐生倶楽部

- 社員総数 263名（名誉社員1名、正社員262名）  
内訳（法人11社、個人252名）
- 入社 13名（内法人1）
- 退社 8名（内法人2）
- 行事・集会 107回  
新年互礼会1回、文化祭1回（絵画展、俳句色紙展、写真展、  
ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、  
クリスマス祭1回、総会1回、臨時総会1回、理事会12回、  
臨時理事会1回、正副理事長会議2回、  
公益法人特別委員会11回（会計部会3回、定款部会4回、認可申  
請部会4回）監査会1回、県法人検査1回、月次会8回、  
委員会17回（行事委員会3回、文化活動委員会、営繕委員会2回、  
会報委員会6回、社員増強委員会6回）  
部会48回（俳句部会12回、歩く会11回、歩く会世話人会11回、  
麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日午後碁会、写真部会2  
回、懇話会5回、美術部会3回、ゴルフ部会1回、音楽部会、  
ダンス部会）
- その他 会報6回発行

平成23年度

## 室別使用状況


室別 月別	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	合 計
1 月	(8回) 405名	(7回) 75名	(5回) 49名			(12回) 67名	(2回) 27名			(34回) 623名
2 月	(7回) 312名	(13回) 148名	(5回) 54名		(2回) 12名	(7回) 39名	(1回) 20名			(35回) 585名
3 月	(2回) 90名	(7回) 67名	(7回) 45名			(7回) 35名	(1回) 15名	(1回) 100名		(25回) 352名
4 月	(3回) 134名	(8回) 93名	(5回) 44名	(1回) 4名		(9回) 55名	(1回) 19名			(27回) 349名
5 月	(6回) 279名	(7回) 74名	(6回) 58名			(9回) 51名	(1回) 18名	(1回) 99名		(30回) 579名
6 月	(8回) 389名	(5回) 61名	(7回) 77名			(9回) 44名	(1回) 20名		(1回) 6名	(31回) 597名
7 月	(9回) 372名	(7回) 86名	(7回) 51名		(2回) 12名	(10回) 54名	(2回) 28名		(1回) 29名	(38回) 632名
8 月	(7回) 336名	(7回) 83名	(5回) 44名			(5回) 30名	(1回) 16名			(25回) 509名
9 月	(11回) 494名	(4回) 63名	(5回) 43名			(6回) 31名			(1回) 25名	(27回) 656名
10 月	(10回) 446名	(7回) 109名	(6回) 58名	(1回) 2名		(8回) 49名			(2回) 13名	(34回) 677名
11 月	(9回) 396名	(6回) 85名	(4回) 41名	(1回) 4名		(6回) 34名		(1回) 50名	(2回) 21名	(29回) 631名
12 月	(9回) 375名	(6回) 58名	(1回) 4名	(3回) 9名	(1回) 10名	(8回) 51名			(2回) 60名	(30回) 567名
合 計	(89回) 4,028名	(84回) 1,002名	(63回) 568名	(6回) 19名	(5回) 34名	(96回) 540名	(10回) 163名	(3回) 249名	(9回) 154名	(365回) 6,757名


# 監 査 報 告 書

平成23年度決算報告書の各事項について  
監査したところ、その内容は適正なもの  
と認めました。

平成24年1月16日

社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事 大西康之 

監 事 酒井 豊 

平成24年度 事業計画(案)

1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 公益法人特別委員会(会計部会・定款部会・認可申請部会)

3. 主な行事

1月	新年互礼会	社員総会	歩く会例会
2月	月次会	歩く会例会	
3月	月次会	歩く会例会	
4月	月次会	歩く会例会	
5月	文化祭(絵画・俳句・写真・陶器等)	ガーデンパーティー	
	(ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等)	歩く会例会	
6月	月次会	歩く会例会	
7月	月次会	歩く会例会	
8月			
9月	月次会	歩く会例会	
10月	月次会	歩く会例会	
11月	月次会	歩く会例会	
12月	クリスマス祭	歩く会例会	

4. 委員会

1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(10部会)  
美術部会・懇話会・俳句部会・麻雀部会・ゴルフ部会  
囲碁部会・歩く会・音楽鑑賞部会・写真部会・ダンス部会

2) 行事委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

5) 社員増強委員会

平成23年度 寄 付 芳 名 録 (敬称略)

平成23年 1 月

現金 10万円 (社) 桐生青年会議所  
(文化財保護のための寄付)

平成23年 6 月

現金 10万円 桐生5ロータリークラブ  
(建物修繕のための寄付)

平成23年11月

テーブルクロス 15枚 藤 掛 欣 次

平成23年12月

現金 10万円 (社) 桐生青年会議所  
(文化財保護のための寄付)

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 公益目的支出計画を承認 平成24年度定時社員総会



### 来年、一般社団法人で再スタート

一般社団法人に移行する桐生倶楽部の活動の軸となる公益目的支出計画を協議する平成24年度定時社員総会が1月31日開催され、同計画案を含む5議案が原案どおり承認された。

同計画案は、一般社団法人に移行した後、桐生倶楽部がその年から13年間にわたって、公益目的財産額に見合う事業をどのように展開していくかを具体的に示したものの。この計画が滞りなく消化できれば、以後自由な活動が可能になる。

総会に先立って阿部高久理事長は、「総会で承認されれば3月にはまとめて申請したい。申請が認定されれば、来年の1月1日から桐生倶楽部は再スタートとなるので、現在の桐生倶楽部の定時社員総会は今回が最後となります。よろしくお願ひします。」とあいさつし、採決に臨んで、計画に実効を持たせるためにも、貸館などの収益事業の強化と社員増強の推進に広く協力を求めた。





## クリスマス祭、盛大に75人

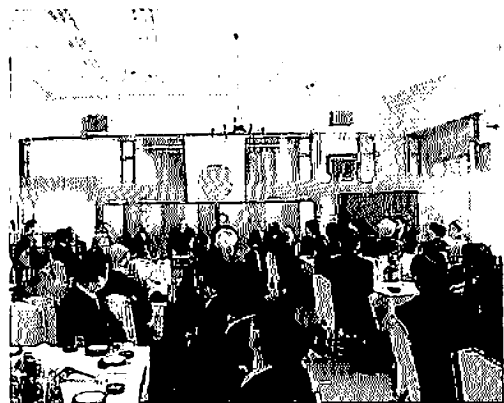
桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月3日に開かれ、社員とその家族75人が参加し、おいしい食事や盛りだくさんの企画を楽しんだ。

今年のサンタクロースは藤江篤さん。子どもたちにはたくさんのプレゼントが用意された。

### 平成24年の船出、互礼会 叙勲荣誉、木村さん記念品

平成24年の桐生倶楽部新年互礼会が1月4日に開かれた。宝生流藤門会が祝いの謡曲を披露したあと、阿部高久理事長が一般社団法人移行に向けた結めの作業に抱負を語り、来賓の亀山豊文桐生市長と石原条みどり市長、日野茂桐生商工会議所会頭があいさつした。

また席上、昨秋の叙勲で瑞宝双光章を受章した木村俊一さんに記念品が贈られた。



# 霊峰富士に 安全を祈願

## 吾妻山、初参り

1月8日、桐生倶楽部歩く会の初山行は恒例の「吾妻山」です。



9:30 吾妻公園駐車場に集合、賀詞交換の後出発。健脚の人なら頂上まで40分ほどの道のりですが、この日は標高差300米を60分で登る計画で、途中トンビ岩で小休止の後、予定通りの10:30頂上(481米)到着。

頂上の気温は7℃でアノラックを着ていると暑く感じるほどです。快晴の西の方角に雪を被った「霊峰富士」を遠望し、一同で安全祈願。記念写真と小休止の後は尾根伝いに北方向の「村松峠」へ。途中左手の赤城山は雪雲に被われていて赤城おろしが頬に痛い。峠の分岐からは「村松沢」沿いに宮本町へ下ります。

一カ月以上雨が無かったにも関わらず、沢には水があって、あらためて自然の豊さを実感します。

12:00「そば一」へ到着、新年会となりました。穏やかな天候に恵まれ、美味しいお蕎麦&お酒を頂いた初山行でした。当日の参加者は17名。  
(村田 記)

## 紅葉の議事堂前、乃木神社

### 12月の歩く会、東京探訪

12月11日の歩く会は美術部・懇話会との協賛により東京・千代田区&港区を探訪しました。

7:00 倶楽部出発、予定通りの9:00国会議事堂前に到着。議事堂をバックに記念写真の後には紅葉の美しい議事堂前庭を散策。庭園内の「日本水準原点標庫」は明治23年建築の菊花紋章に裝飾された美しい石造りの建物で東京都指定有形文化財、因みにこの地は標高24米とのこと。

議事堂前の憲政記念館は昭和35年に日本憲政の功労者・尾崎行雄を記念して建てられたもの。

「日本憲政の歴史」を20分程のビデオで勉強しました。旧乃木邸&乃木神社は都内の喧騒を忘れさせる紅葉の木々に覆われた美しい処。

神社内の資料館では乃木希典の生涯が詳しく紹介されていて、乃木夫妻が明治天皇に殉じた庭内の部屋をガラス越しに見た一同は一瞬息を呑む場面も。乃木会館喫茶室でコーヒー休憩の後は徒歩で東京ミッドタウンへ。ここは旧防衛庁跡地を三井不動産が再開発して平成19年に開業した複合施設。タウン内の「21-21デザインサイト」は安藤忠雄&三宅一生が運営プロデュースする美術館です。当日は「アーヴィング・ペン&三宅一生」展が開催されていて、キャプションこそ有り



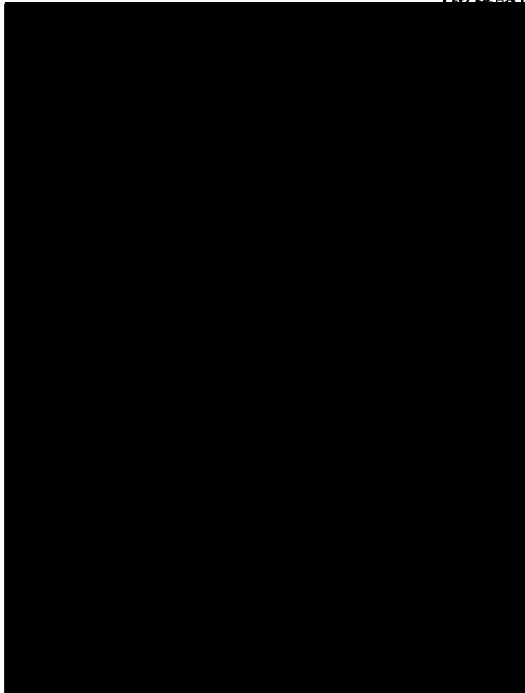
ませんでした。展示作品には明らかに新井淳さんデザインの「布」が使われていて、一同首肯することしきりでした。

ミッドタウン内でフリータイム昼食後、最後の訪問地は白金台の畠山記念館。ここは荏原製作所の創業者畠山一清(1881-1971)の蒐集品を展示する美術館。畠山は「即翁」と号する裏千家の茶人で宝生流能楽に造詣が深く、この日は「畠山即翁の美の世界」と題する名品展が開催されていました。初めて観る千利休の真筆に感動した他、お抹茶や庭園内の紅葉を楽しんだりした夕暮れのひと時でした。

予定通りの19:00 倶楽部へ帰着。忙中閑有、好天に恵まれた初冬の楽しい日曜日でした。参加者25名。  
(村田 記)

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



初霜や今玉となり昇天す	川村 隆	笹鳴や木を伐る刃音そつと止め	川村 隆
山茶花の生垣越しの立話	遠藤 勝久	見送りやともしびうるむ冬の雨	遠藤 勝久
さくさくと落葉の音の神無月	塚越 平人	池の鯉色もとりどり冬の雨	塚越 平人
拍犬の虚ろに見えし神無月	有阪 昌治	襟立てて街へ出て行く冬の雨	久保田 広人
初霜や下仁田葱の行儀よく	久保田 広人		

十一月

十二月

桐生倶楽部はぐるま句会

元気に13人ホールアウト

秋のゴルフコンペ

桐生倶楽部のゴルフコンペが12月4日、桐生カントリー倶楽部で開催され、冬晴れと強風の中で参加13人全員が元気にホールアウトした。

優勝は森田良徳さん、準優勝長尾洋子さん、3位森田寿子さん。



田中さんが囲碁優勝

桐生倶楽部の秋季囲碁大会は11月12日に開催された。優勝は田中義弘さん、準優勝が岸田信克さん、3位が岩崎俊郎さんだった。

＝ 倶楽部だより ＝

- 【12月】・写真部会 (1日)
- ・クリスマス祭 (3日)
- ・ゴルフコンペ (4日)
- ・理事会 (5日)
- ・歩く会例会「東京探訪」 (11日)
- ・正副理事長会議 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま句会 (21日)
- ・行事委員会 (28日)
- 【1月】・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」 (8日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・監査会 (16日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- ・臨時理事会 (31日)
- ・定時社員総会 (31日)

【新入社員】板橋 英之 山中 雅子 泉 太郎

【退会社員】泉 明嘉 五十嵐啓友(逝去)

社団法人 桐生倶楽部 第187号

2012年(平成24年) 2月発行

発行人 阿部 高久

編集責任者 前原 勝

印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 雪の赤城、地蔵岳を歩く

2月12日定刻8時、桐生倶楽部を一路地蔵岳に向かい出発。天気予報によると、群馬北部は午前中雪、午後から晴れとのことだが、目的地の赤城は見えない。からっ風街道から赤城道路に入る。赤城国際カントリーを過ぎるころから道路の左右に雪が見え始めたかと思うと、たちまち全面雪で覆われ、ところどころ凍結している道を進む。四輪駆動、スタッドレスを履いた3台の車は、快適に雪道を走る。新坂平あたりの温度表示はマイナス9度、風のないことを祈りながら、粉雪の舞い散る空を見上げる。小沼を過ぎてまもなく冬期閉鎖の標識のあるゲートに行き当たる。そこが、目指す地蔵岳の登山口、八丁峠である。

スパッツ、アイゼン、防寒着と冬山登山の支度を済ませて出発。木の階段の登山路は踏み抜くと

膝上まで雪に埋まるので、歩行は慎重になる。振り向くと、小沼が見え隠れしている。グラニュー糖をまぶしたような木や枯れ木に雪の花を咲かせたものが目を楽ませてくれる。

40分程で山頂（標高1674米）に到着。見たこともない雪景色に歓声があがる。この山はテレビ塔のあることで知られているが、そこには大小10を超える電波塔が林立していた。山頂は風も強く景色もいまひとつなので、短時間で下りることにした。途中、ビジターセンターにより、赤城の魅力に触れる。「富士見温泉見晴らしの湯」で冷えた身体を温泉で癒しての帰路、車中から見上げる赤城は青空の下堂々と偉容を誇っていた。参加者10名

（歩く会2月定例会 岸田 記）

# 若い視点で新鮮な桐生倶楽部論

卒業  
テーマ語る  
長岡造形大の一ノ瀬さん



木村教授(右)と一ノ瀬さん

## 3月の月次会

3月の月次会は、桐生の町並み研究を続けている長岡造形大学の木村研究室の一員として、卒業研究のテーマに桐生倶楽部の歴史・建物・営みを取り上げた一ノ瀬麻衣子さんを招き、桐生の外側にいる若い人の目が、伝統の倶楽部の姿をどのようにとらえたのか、その成果を聞いた。

一ノ瀬さんは木村教授の指導を受けながらたびたび桐生を訪れて、倶楽部の建物、歴史的な資料の詳細に触れ、卒業論文は、歴史を重ねた建物がどのような人びととどのような関係を持ってきたかをたどることで、新しい時代における役割を見だしていこうとする視点でまとめられた。

敷地がどのように移り変わり、建物の中身がどのように変わっていき、また、併設の施設がどのように書きかえられていったのか。これを綿密にたどるという真正面の態度は、日ごろこの建物を利用して、歴史の大枠を心得ている社員はなかなか踏み込まない領域で、その意味では、参加者にはとても新鮮な内容の連続だったようである。

議論すべき問題がさまざまあって、保存活動には社員一丸となって行動できるような現在の実態に即した抱り所となる理念がほしいと一ノ瀬さん。

「産業遺産のこれからについて倶楽部の人びとが中心的な存在となって考えていくことで、会館には桐生のこれからを考えていく場という役割がま

た与えられることにもなる」という話が展開されると、参加者はじっと聞き入っていた。

また、このあと木村教授が講演し、院生や学生と一緒に桐生を歩き、地元の人びととふれあいながら、小路からまちをみたり、歴史あるたたずまいをひとつにまとめた活動について語り、桐生のまちの魅力、可能性について語ってくれた。

(6日、2階、参加者37人)



## 桐響の歩みを交えて オーケストラの話

### 2月の月次会で秋山さん

2月の月次会は桐生交響楽団の秋山陽一団長を講師に招き、オーケストラの話や今年で23回目を迎える定期演奏会にける思いなどを聞いた。

桐響定期演奏会の名は、すでに市民の間ではなじみ深い。秋山さんは桐生厚生病院の仕事を持っていて、他のメンバーもそれぞれ働きながら、アマチュアとして音を楽しみ、音楽を生み出す喜びだけでつながって、第1回は1989年の秋、桐生市文化センターでハイドンの交響曲第101番とベートーベンのエグモント序曲に取り組んだ。

以来こつこつと桐生市産業文化会館、笠懸の文化ホールバルと活動の場を広げながら、97年5月には桐生市市民文化会館大ホールのこけら落としにおいて、桐響主体の祝典管弦楽団が特別編成され、沼尻竜典さんの指揮でベートーベンの交響曲第9番「合唱付」に参加したことなど、秋山さんは平成と共に歩んだ楽団の歴史をひもといた。

同じ年の秋の定期演奏会を見送ろうとしたところ、続けようという話になり、そこから開催が年度内の2月になり、現在に至っているという。

団員50人ほどが週一回練習し、成果発表の場としての定期演奏会はそれぞれが費用を出し合っている。音を楽しむ、その思いだけで続けてきた。

秋山さんはこのあと、オーケストラの歴史や楽器の構成について、実演も交えて解説参加者も興味をそそられ、質疑は盛り上がっていた。

(16日、2階広間、参加者29人)



## 桐生の経済人は独立の気風

2月23日の懇話会例会は群馬県立歴史博物館学芸員・手島仁氏を講師に迎えて、「近代桐生の政治史的考察」と題する講話を頂きました。氏は立命館大学で日本史を専攻、桐生西高の他県内各地の県立高校で歴史の教諭として勤務されました。また昨年1月～3月にはFM桐生で「手島仁の群馬学入門」と題するシリーズ番組に出演されています。

氏は、①当初館林に設立された「第四十国立銀行」が明治30年に普通銀行へ改組される際、本

店を桐生へ移転した経緯。②明治33年、町の発展を目的に設立された「桐生懇和会」（現桐生倶楽部）が桐生のシンクタンクの役割を果たしていたこと。③旧制桐生高等工業学校（現群大工学部）、旧制桐生高等女学校、旧制桐生中学校などの創立の歴史。④明治32年以來の桐生選出の県議会議員が中央の政党政治（原敬の政友会や濱口雄幸の民政党など）と、どのように関わっていたか。などの話題を豊富な資料をレジュメにまとめて分かり易く語って下さいました。氏は最後に「織物業を背景にした産業資本家（経済人）という立ち位置が、桐生を県内他市に比べて独立の気風の強い町にしていた」という言葉で講話を締めくくりました。当日の参加者はビジターを併せて13名。  
(村田 記)



## 大小山～大坊山縦走記

### 3月の歩く会

平成24年3月11日、前日からの雨が残るなか、参加申込者12名が桐生倶楽部に集合した。気象予報では「本日は曇り後晴れ」ということで、乗用車4台に分乗して7時30分に出発8:30足利・大山祇神社に到着。やや明るくなり、雨のバラツキ具合も少なくなったので、雨具を着て大小山登山口に向けて出発、雨が降ったら引き返すという約束で登り始める。

30分ほどで見通しのよいピークに着き、下って登り返して最高峰・妙義山(314米)に到着。山頂にいた黒保根出身の地元の方と会い、話が盛り上がる。

雨上がりのせいもあり、曇天ながら景色は良好、この頃には陽も射し始める。山頂を下りたあとはアップダウンを繰り返す尾根歩きとなる。妙義山と同程度の標高の3回目のピークにて昼食休憩となり、皆さん持参の漬物、果物お菓子を交換しあって和気藹々の時間を過ごす。

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



赤提灯きむら煮込の四温かな	久保田 広人	野の目覚め促しており春時雨	久保田 広人
三寒とて四温を待てぬ子等いと	塚越 平人	桐生川源ここに路の苔	遠藤 勝久
三寒がまた明日からとテレビ云ふ	川村 隆	狭庭には小さき祠に路の苔	川村 隆
ふだん者の兄が手を引く春着の子	有阪 昌治	あの時に膝つきつみし路の苔	塚越 平人
和やかに春着を選ぶ母子かな	遠藤 勝久	焙る子の肩にかかるや春時雨	有阪 昌治

一月

二月

桐生倶楽部はぐるま旬会

＝ 倶楽部だより ＝

- 【2月】・営繕委員会 (6日)
- ・歩く会例会「赤城・地蔵岳・雪山ハイキング」(12日)
- ・理事会 (13日)
- ・2月月次会「オーケストラの話」(16日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・懇話会2月例会「群馬と桐生の政治史」(23日)
- ・はぐるま旬会 (24日)
- 【3月】・3月月次会「桐生倶楽部会館の歴史」(6日)
- ・歩く会例会「大小山・大坊山」(11日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・はぐるま旬会 (28日)

【新入社員】 寺田 勝彦 田中 一枝 井置 兒子  
秋山 陽一

【退社社員】 村岡 正治

(3面から続く)

休憩後腰床味へ下り、登り返して山頂番屋(避難小屋)広場にて大きな石の“かえる像”の出迎えを受ける。先着の方4～5名。またまたピークを登ると大坊山への道が正面に見える。下って登り返せば広い大防山山頂(285米)で、そこには落雷にて焼失した神社跡があった。15分ほどの下りで駐車場に到着、参加社全員が無事完歩しました。薬鹿・東葉館の「地蔵の湯」で汗を流し、疲れを癒して解散。低山ながら歩き応えのある山行でした。(吉田 記)

永井静枝さん逝く

倶楽部会館の管理を長く務めてきた永井静枝さんが3月23日亡くなりました。戦前戦後の会館の運営の汗や気苦労を、当時の社員の息づかいとともに語る事ができる方でした。享年84

(事務局)

社団法人 桐生倶楽部 第188号  
 2012年(平成24年) 4月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 薫風の文化祭 心ゆくまで



### 食事、歓談、フラダンス

風薫る5月の恒例、桐生倶楽部文化祭がことしも盛大に開催され、好天に恵まれた最終日の13日、ガーデンパーティーには96人が参加し、食事や歓談、余興などを心ゆくまで楽しんだ。

通算で38回目となる文化展には写真や絵画や俳句など、57点が出品された。いずれも社員の力作ぞろい、鑑賞し、語り合い、会場のあちこちに話の輪が広がった。また、ゴルフ大会、麻雀

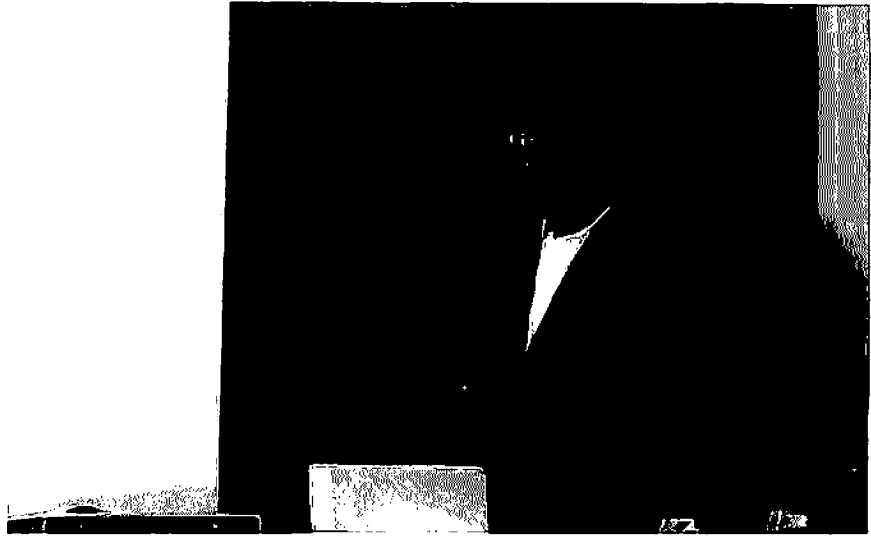
大会、囲碁大会にもあわせて37人が参加。それぞれに盛り上がりを見せたことである。

これを象徴するようににぎわいをみせたのがガーデンパーティー。会費制が導入され、新たな意識づけが求められたが、用意された食事や屋台の設営はなかなか好評で、余興としてア・リコフラスタジオによるフラダンスが披露されると、社員も飛び入りし、和やかな雰囲気包まれた。



# 医患共同が使命 歯科医中島さん講演

月次会報告(4月)



倶楽部4月月次会は歯科医・中島敏先生を講師に迎え、「お口の健康のために／インプラント治療を通して」と題する講演を頂きました。

先生は市内琴平町で「中島歯科医院G Iインプラント研究所」を開業、25年以上に亘り地域の歯科医療に貢献され、17年間で2300本超のインプラント治療実績を持つ、日本でも有数のインプラント治療の専門医です。

また「北関東インプラントリサーチ会長」「国際インプラント学会審査委員」「CIDクラブ(日米伊のインプラント学術組織)教育担当理事」など、国内外でその歯科医技術の啓蒙・普及に努めておられるとのことでした。

当日は豊富な治療例の画像を紹介しながら、先生の診療・治療の目標が「患者の歯を健康に保ち、一生自分の歯で過ごせるように医患共同で行うこと」であると語り、「歯の健康は口の中を清潔に保ち歯周病を予防することから」という言葉で締めくくりました。当日の参加者17名。

(村田 記)

## 「民話」とのかかわりは 読み聞かせがきっかけ 研究家清水さん招き懇話会

5月24日の懇話会例会は民話研究家・清水義男先生を講師にお迎えし、「ふるさと桐生の民話訪問」と題する講話を頂きました。

清水先生は昭和28年に梅田南小の教諭に奉職して以来、永らく県内小学校、桐生市社会教育課

などの勤務を経た後、桜木小学校長を最後に退任されました。民話との出会いは梅田南小の教諭当時、児童とのコミュニケーションの必要からだったと回顧される先生は、以来50年余で425話の民話を採録し、多数の著作出版、「日刊きりう」他への連載、FM桐生への出演など幅広く民話の紹介普及に尽力されて来られました。

話題は民俗学と民話研究との関係にも触れ、民話は民衆の創作文学で、つくり話・神話を除く伝説・俗説・禁忌などのジャンルにも及ぶこと、民話に含まれる伝承説話は歴史に関わる史実が含まれていて歴史研究の上でも貴重な資料であること、などが語られました。また425話も集めることが出来たのは、採録作業の折、各地で協力してくれた人々(多くはお年寄り)のお陰と感謝を語られました。

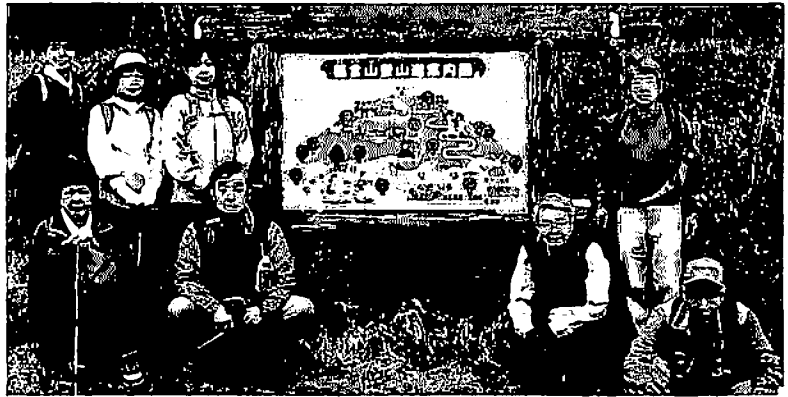
先生は「境野町・若宮八幡宮の死田病田」「梅田五丁目・河童と飴玉」の二つの民話を読み聞かせ風に紹介して下さい、桐生の歴史の奥行きを深さを改めて知るひとときとなりました。当日の参加者は20名。

(村田 記)



## 古代信仰の稲含山 小幡城下お花見

4月の歩く会



歩く会4月例会は西上州甘楽町秋畑の稲含山（いなふくみやま・1370米）に登った。

4月15日6：30倶楽部集合、参加者9名は自家用車3台に分乗して出発。太田藪塚IC、甘楽PA、富岡ICを経て、8：15甘楽町「神の池登山口」へ到着。身支度を整えて早速登山開始。

登山口は標高1,070米で頂上までの標高差は約300米、吾妻山ひとつ分の山行である。出発してすぐに「一の鳥居」、ここを右折して北ルートで10分程登ると「赤い鳥居」。ガイドマップでは鳥居峠と書いてあるが、訂正の看板があって「茂垣峠」が正しいとのこと。標高が高くなると落葉の下には残雪が隠れていて、足元に注意を要する。鎖場の急登を登りきって9：20「下仁田稲含神社」に到着。さらに20米登ったとこ

ろが山頂（1370米）。此处にも「下仁田栗山」の看板がある。快晴に恵まれ、西から順に八ヶ岳、浅間山・草津白根、谷川岳と360度の展望を楽しむ。

下りは南側コースをとり、甘楽町「秋畑稲含神社」へ。稲含伝説に依れば、印度の女神（日本名・豊稲田姫）が口に稲を含んでこの山に降臨し、日本に稲作が伝えられたとのこと。創建は530年頃、古墳時代代そうだ。杉林の中をひたすら下って、10：40神の池に戻る。

帰路、小幡城下「織田家七代の墓地」、この春開園したばかりの大名庭園跡「楽山園」、小幡の町を貫く「雄川堰と桜並木」などをたっぷり楽しんで14：30、全員無事に倶楽部へ帰着。春爛漫の山と桜を満喫した一日でした。（村田 記）

## 赤城を正面に展望 5月の歩く会は栗生山

歩く会5月例会は赤城山の東に位置する栗生山（くりうさん／標高968米）に登りました。

朝6：30倶楽部集合、出発。R122・県道257を経て黒保根町・間々下橋先を左折、狭隘な道を3キロ進んだ終点が栗生神社の石鳥居。駐車場は車6台ほどのスペース。ここから170段の石段を登ったところが栗生神社。境内の登山口案内には標高640米の表示があって、頂上までの標高差は330米程、吾妻山ひとつ分の山行です。



杉林をジグザグに40分ほど登ると頂上手前の展望岩に到着。真正面に赤城山、西遠方に富士山という眺めを楽しんで、8：20には頂上（968米）に到着。頂上付近には僅かながらミツバツツジが目を楽ませてくれました。小休止の後下山して神社を参拝。神社の創建は707年（飛鳥時代）とのことで、そんな昔から山奥の集落に神社があったことに驚きます。

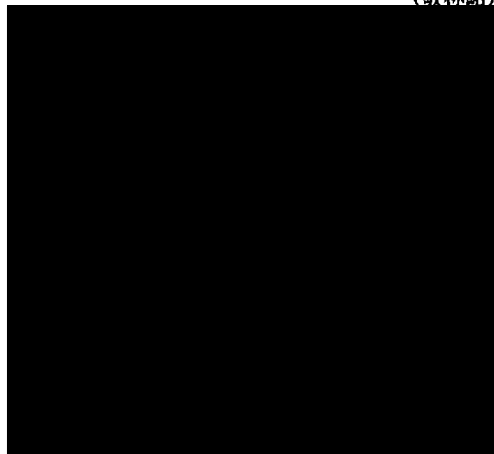
現在の神社本殿は1790年の建てで、新田義貞の四天王の一人・栗生頼方を祀っているそうです。本殿は黒保根出身の名工関口文治郎の彫刻に裝飾された立派な建築物。関口は榛名神社、妙義神社、桐生天満宮の彫刻を手掛けたことでも有名な彫刻師です。

境内には樹齢千二百年と云われる大杉があって、これは807年（奈良時代）に植えられたご神木、群馬県の天然記念物に指定されています。神社見学の後、10：30には倶楽部に帰着。夫々自宅で汗を流して、16：30からのガーデンパーティーに参加しました。当日の参加者は7名。

（村田 記）

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



三月

桐生倶楽部はぐるま句会

陽炎の客待つ力車笠かぶり	久保田 広人
吾妻山蝶舞い来りて微笑みぬ	塚越 平人
山笑ふ馬事公園に馬駆ける	有阪 昌治
犬と来て雲雀あがるや休耕地	川村 隆
小走りに息き戻りぬひばりかな	遠藤 勝久

四月

臘月死を語るには未だ早き	久保田 広人
クレヨン <span style="font-size: small;">(クレヨン)</span> の山吹き色を買ひ足しぬ	川村 隆
おぼろ月雲の流れに見え隠れ	塚越 平人
馬場に出でいななく馬や春の登	有阪 昌治
山吹きや空堀 <span style="font-size: small;">(空堀)</span> のみの城趾かな	遠藤 勝久

成績優秀者を発表

第38回桐生倶楽部文化祭

第38回桐生倶楽部文化祭には写真の部に16人が42点、絵画の部に5人が7点、俳句の部に4人が8点を出品した。



また春季囲碁リーグ戦は4月14日に行われ、福永儀一さんが優勝、田中義弘さんが準優勝、岸田信克さんが3位となった。

麻雀大会は5月1日に開催され16人が参加した。優勝は腰塚富夫さん、準優勝は井上孝之さん、3位は朝倉富美夫さん。

春のゴルフコンペは4月28日に桐生カントリークラブで開催され、14人が参加、新ベリア方式で行われた。優勝は阿部高久さん、準優勝は腰塚富夫さん、3位は新見祐三さん。

各競技の成績優秀者は13日のガーデンパーティーの席上で表彰された。



ゴルフ部会

＝ 倶楽部だより ＝

- [4月]・理事会 (9日)
- ・写真部会 (13日)
- ・春季囲碁大会 (14日)
- ・歩く会例会「西上州、稲倉山と小幡城下の桜見物」(15日)
- ・歩く会世話人会 (19日)
- ・役員特別懇談会 (25日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- ・4月月次会「お口の健康のために」(26日)
- ・春季ゴルフ大会 (28日)
- [5月]・麻雀大会 (1日)
- ・文化祭 (11~13日)
- ・ガーデンパーティー (13日)
- ・歩く会例会「黒保根の栗生山」(13日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・懇話会「ふるさと桐生の話」(24日)
- ・美術部鑑賞会「国立新美術館へ」(25日)
- ・はぐるま句会 (30日)

社団法人 桐生倶楽部 第189号  
2012年(平成24年) 6月発行

発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝  
印刷 ツポノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 科学にはまだまだ不確実な領域 既知と未知の峻別が大事



### 7月の月次会 赤岩英夫さんが講演

7月の月次会は群馬大学工学部長、群馬大学学長を歴任し、現在は群馬県および桐生市環境審議会の会長であり、桐生倶楽部社員でもある赤岩英夫さんを講師に招き、「科学よもやま話」の表題で「元素、原子力そして放射能」の話聞いた。

赤岩さんは「科学は進歩したといってもまだまだ未知の部分を残している。現在、社会的な問題になっているのは科学の不確実な領域がほとんどである。地球温暖化、放射線による低線量被ばく

障害、地震の予知などがその好例である。このような科学的に検証不能な領域では、人間の感情、思い込みなどが入り込む予知が生まれてくる。科学者たるもの、すべからく既知と未知とを峻別し、いやしくも専門外のことを、またよくわかっていないことをわかったように発信することは厳に戒めなければならないと、常々自戒している」と話していた。

(2面に続く)

# 商標デザインに見る桐生の文化

6月月次会 川嶋伸行さんが講演

6月の月次会は5日、「商業デザインに見る桐生の文化」と題し、社員の川嶋伸行さんが、さまざまな商標デザインを紹介しながら、明治や大正期の桐生人の商いにのぞむ心意気を語った。

ものづくりのまちである桐生では、自ら製造した商品と、その販売にかかわる権利をしっかりと確保して、さらなる発展を目指そうと、商標に関してはきわめて早い段階でめざめ、積極

的に取り組んでいて、とりわけ絹織物の分野では明治18年から31年という期間にすでに桐生は12件の登録商標があり、両毛地域における絹織物の商標登録を見ると明治45年までに桐生・足利・伊勢崎で38件にのぼり、このうち25件が桐生で、その出足の速さがうかがえるのだ。

歴史的資料として、古い商標デザインをたくさん収集している川嶋さんは、そのいくつかをスライドで紹介しながら、生糸の品質を動物の数や色



で表したものや、また、外国へ売り出す際にはその国の事情を調べて忌み嫌われるようなものをデザインに使うことを避けた実例や、とてもよく似たデザインが生まれる場合や、一世を風靡した観光細子のなかでも登録されたものとされなかったものの違いについて、データに基づきながら、背景となっている桐生の文化について語った。

(1号室、参加者26人)

## 細分化から総合化へ パラダイム転換

(1面から続く)

7月の月次会は26日に開かれ、「元素、原子そして放射能」という副題もあって、会場となった2階ホールには37人が参加し、ボードに描かれる原子核の図などをじっと見つめながら、赤岩さんの話にみんな熱心に耳を傾けていた。

赤岩さんは、自然を構成する多くの物質の本体を知りたいと欲求に端を発した自然科学が、アリストテレスの元素の時代から、錬金術、実験科学の時代をへて数々の知識を積み重ね、19世紀になっていったんは物質の単位として元素、原子に落ち着いたが、同世紀末にベクレルによる放射能の発見に始まるいくつかのできごとが、原子にも構造があることを示し、原子核化学の幕開けとな

ったと、歴史的な流れをまず説明。

そして、20世紀後半の科学が技術と結びついで目覚ましい進歩は原子力の平和利用、エレクトロニクス、情報科学をはじめとする各分野で驚異的な成果をもたらし、生活を大いに豊かにしてくれたが、先を急ぎすぎ、見切り発車の分野があったせいか、各分野にほころびが出始め、それが地域限定型の公害になったり、地球温暖化つながる恐れが指摘されている地球規模の環境汚染、そして原子力発電所の事故に伴う放射能汚染などに結びついているとわかりやすく解説してくれた。

「科学技術は各専門分野で進化が進み、隣分野へさえも目を向けることが出来なくなったのが大きな原因」と赤岩さん。「細分化から総合化へ」が前世紀から今世紀にかけての科学の分野でのパラダイム転換の方向といえると、そう語っていた。

# 花の百名山、霧ヶ峰高原へ



## 車山・八島ヶ原を堪能 7月の歩く会

7月の歩く会例会は15日、長野県の霧ヶ峰高原に向かいました。

朝6時、参加者19名はバスで出発。霧ヶ峰高原は花の百名山として有名で、車山(1,925m)を主峰として広大な草原と天然記念物の高層湿原からなる高原で人気があり、多くの人を訪れます。

8時50分車山高原リフト乗り場に到着。リフト利用の11名はバスを降り、残り8名の健脚組は10分先の車山肩の登山口まで行く。登山口はニッコウキスゲの群生地で、一面見事に咲いていて、多くのハイカーで賑わっていました。9時50分車山山頂でリフト組と合流、記念撮影の後、八島ヶ原湿原を目指して約3時間のハイキングに出発。

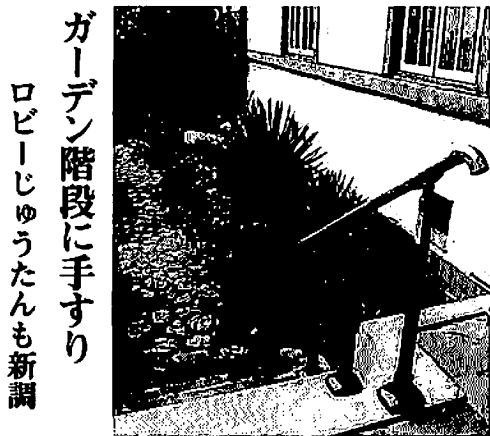
天候はうす曇で遠くの山々は見えませんが、爽

やかな高原の風を感じながら歩き、なだらかな起伏の道で色とりどりの花を写真に収めたり、パンフレットで名前を探したりと、夏の高原を満喫しました。ここではニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、ウツボグサ、シシウドその他数々の高山植物が咲いていました。11時蝶々深山到着、昼食の後湿原へ。

八島ヶ原湿原は木道が整備されていて歩きやすく、広大な草原の中に所々に池糖が見られ、尾瀬ヶ原を思わせる素晴らしい景色が続きます。午後1時40分八島高原バス停に到着。途中、白樺湖湖畔にある「世界の影絵・きり絵・ガラス美術館」により、帰途に着きました。

午後6時30分全員無事に桐生に到着。

(栗原 記)



ガーデン階段に手すり  
ロビーじゅうたんも新調

本館からガーデンに下りる階段に、このほど手すりが設置された。また、ロビーのじゅうたんも新調され、張り替え工事が終了した。

### 瑞牆山、雨で断念 6月の歩く会

6月3日(日)空模様心配される。5時30分山梨県北部の瑞牆山(みずがきやま)を目指して一路出発、太田藪塚ICから北関道、関越道、を走り、圏央道へと進むと心配していた雨が落ちてきたが中央甲府盆地に入ると背空が見え隠れる登山日和?大丈夫かと心配の顔と顔。

須玉ICで高速度に別れを告げ、平野部から山岳部に入るに従い天気が不安の様子の中、増富温泉を経由して瑞牆山荘登山口に予定通り9時30分到着、山仕度をして9時45分登山開始。行き交う人も多く(特に泊の下山者)人気の高さが伺える中、ポツポツ降り始めた雨に小休止時に雨具をつける人も。

雨が落ちる。10時30分富士見平着、今後の天気予測、山の状況や熟知度を総合的に考慮して10時40分リーダーは又の楽しみを胸に下山を決断。登山口においてや支度を解き、早速増富温泉の日帰りの湯「増富の湯」へ。ここは温度差のあるいくつかの湯があり、特に低温(25度、30度)が癖になる感じ、昼食後、見学希望の多いサントリー-白州蒸留所へ向かう。

八ヶ岳を望む(富士山は残念)広大な敷地で、ウイスキーの製造工程、保管、試飲とお土産を求め桐生へ向かう。帰路は中央道の渋滞を考え国道114号を北上して上信越道経由でしたが佐久付近で一部供用と無料区間と工事中の中部横断自動車道も走り、予定より若干早い20時00分桐生倶楽部着の登山・温泉・工場見学と楽しい一日でした。12名参加。

最後に安全を考え、決断するリーダーに感謝と敬意をしております。(新井 記)

五月  
 快放に向ひし窓の花水木 有阪 昌治  
 古道にも人の行き交ふ立夏かな 川村 隆  
 一山の鐘鳴り渡る立夏かな 遠藤 勝久  
 立夏とて花を選びて湖のふら 塚越 平人  
 カリヨンの街にひびきて花水木 久保田 広人

六月  
 葎や細波あるも動かざる 有阪 昌治  
 母植えし紫陽花切りて合掌す 川村 隆  
 萍の葉のかたまりを舟がわけ 塚越 平人  
 風薫る山門高し風仙寺 遠藤 勝久  
 薰風や牧の親子の馬駆ける 久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま句会

### = 倶楽部だより =

- [6月]・歩く会例会「奇山 瑞牆山・増富温泉」(3日)
- ・6月月次会「商標デザインに見る桐生の文化」(5日)
- ・歩く会世話人会 (7日)
- ・理事会 (11日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- ・営繕委員会 (28日)
- [7月]・公益法人特別委員会 (4日)
- ・理事会 (9日)
- ・歩く会例会「車山&八島ヶ原湿原」(22日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- ・7月月次会「科学よもやま話-  
元素、原子そして放射能」(26日)
- ・歩く会世話人会 (31日)

[退社社員] 齋藤 久夫 (逝去)  
須永 登

社団法人 桐生倶楽部 第190号  
 2012年(平成24年) 8月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツボノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 雲上の楽園 心ゆくまで 9月の歩く会乗鞍岳

定刻5時、本日の出席予定者21人全員揃い、バスは一路乗鞍岳に向かって、出発した。

途中、横川・梓川サービスエリアで小休止し、昼平の駐車場に10時5分に到着。登山組と散策組に分かれ、登山組は身支度整えて25分過ぎ、山頂に向けてゴーとなった。

心配された天気もまずまずで、時期的にあきらめていた高山植物もコマクサ・イワギキョウ・トウヤクリンドウ等登山者の目を楽しませてくれた。

2700メートルを超えた登りは、平地に比べ酸素が薄く、一步一步かみしめるように歩をすすめる。谷から上がってくる霧は、動きが激しく、時には視界を狭める。12時5分、山頂到着。遠望はきかないが、霧の上った山頂はかなりの賑

わいで、素早く全員の集合写真を撮った。それにしても山頂は、10数年前と大違いで、山ガールの出現で活気が漲っていた。

下山路では、霧のベールも包まれていた乗鞍高原の鮮やかな緑が、今回の山旅に一花添えてくれた。また、松本付近から嶺捨サービスエリアにかけて車窓から見えるそばの白い花が疲れた体を癒してくれた。

帰路、上越自動車道で事故渋滞に巻き込まれ、下道を通るハプニングに見舞われたが、予定通りの8時に桐生倶楽部に全員無事に到着。楽しさいっぱいの山旅を満喫・共有し、家路に急いだ。

(岸田 記)





# 一般社団法人桐生倶楽部

## 臨時社員総会開く

桐生倶楽部の平成24年度臨時社員総会が9月4日開かれ、一般社団法人への移行に伴う定款変更など2案件が原案どおり承認された。

一般社団法人桐生倶楽部となり、定款には「本倶楽部は、所有する建物の歴史的かつ文化的価値を認め、その維持管理および運用に努め、もってこれを広く社会公共の資産として活用することを

目的とする。」の一項が加わり、この会館を後世につないでいくという時代の役割を認識しつつ、これからの活動を展開していくことになる。

2階広間で午後6時半から始まった総会は阿部高久理事長が議長に選任され、42人の出席と委任状を含め必要な議決権数が確保できたことが報告されたのちに審議入り。阿部理事長は、一般社団法人への移行が一つの節目を越えたことに対する社員の協力に感謝を述べ、今後、県への申請手続き、さらには登記をへて、来年には新生桐生倶



## 定款変更を満場で承認

楽部としてスタートしたいと語った。

臨時総会では一般社団法人桐生倶楽部内規の変更もはかられ、原案どおり承認された。

### ワインの夕べを楽しむ

臨時総会はこのあと9月の月次会「ワインの夕べ」に移り、ワインカウンセラーの解説、そして料理を味わいながら、参加した40人は、それぞれのテーブルを囲んで談笑した。



# 郷土を紡いだ 星野家の人々



## 川池さん講演 懇話会

桐生倶楽部の懇話会は8月30日、桐生文化史談会副会長、川池三男さんが「歴史資料から解き明かす、黒保根、星野家の人々」を講演。一般参加も受け入れて、1号室は満員となった。

川池さんは、黒保根の歴史を知る上で欠かすことのできないのが星野家の存在だとし、1064年、源頼義らが京に凱旋途上、ここに残された安部の郎党が土着し、遠祖は、左近は水沼村の左近、片品村の右近の兄弟であると解き、そして星野家の系図をもとに、江戸、明治、大正、昭和への流れを解説していった。

天明の飢饉で千両を掘した7代邦矩。足尾銅山の経営支援や文政の大火、大間々打ちこわしなどで活躍した9代朋寛。そして民間第1号の様式器械製糸所の操業や生糸の直輸出、また県会議員を務めた11代長太郎らの仕事を紹介。この11代で、七郎右衛門の襲名が廃止されたという。

長太郎の弟領一郎は新井家の養子となり、政財界で活躍する人物を輩出する家系となる。牛場卓蔵、ライシャワー夫人ハルなども一族だ。

川池さんはまた、多くの近世文書が残された理由を、多種多様な役職の家柄であったことが要因と示した。所蔵文書2万点を超え、未作成目録が1万点を残しているとも。

黒保根の御用材は星野家を潤し、基礎をつくったと思うが、その先見性や新規事業へのおう盛な好奇心は代々受け継がれてきた。今回は、13代悦までの流れをひも解く講話となった。

何はさて田んぼ見廻る喜雨の中	久保田 広人
浴衣をば孫に与へし丈を詰め	塚越 平人
浴衣着てお茶する二人の先斗町	川村 隆
喜雨の間に心地良くなり昼寝する	川村 徳佐
色白の留学生の藍浴衣	遠藤 勝久
土用干しざる一杯に梅香おる	有阪 昌治

七月  
桐生倶楽部はぐるま句会  
八月

手招くは赤いたすきの踊りの娘	遠藤 勝久
桐一葉青空さらに高くする	川村 隆
桐一葉散りて桐生の秋を知り	塚越 平人
御栗鷹の峯々照らす星月夜	有阪 昌治
ガンジスの賑わい覆ふ星月夜	久保田 広人

## 新会員募集中です はぐるま句会

### = 倶楽部だより =

- [8月]・理事会 (6日)
- ・はぐるま句会 (29日)
- ・懇話会 (30日)
- [9月]・臨時社員総会 (4日)
- 9月月次会「ワインの夕べ」
- ・歩く会例会「雲上の楽園 乗鞍岳」 (9日)
- ・理事会 (10日)
- ・歩く会世話人会 (13日)
- ・はぐるま句会 (26日)

[退社社員] 片貝 良一 (逝去)  
川島 忠昭

社団法人 桐生倶楽部 第191号
2012年(平成24年) 10月発行
発行人 阿部 高久
編集責任者 前原 勝
印刷 ツボノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 眺望抜群の飯盛山 11月の歩く会

集合出発5時30分、バスは到着して参加者の乗車待ちの様子、参加者は集まってくるが何か??、門前の違法駐車で入ることができない。違法駐車は永井さんをお願いして、参加者の駐車は栗原さんの好意により確保して東3丁目から出発。

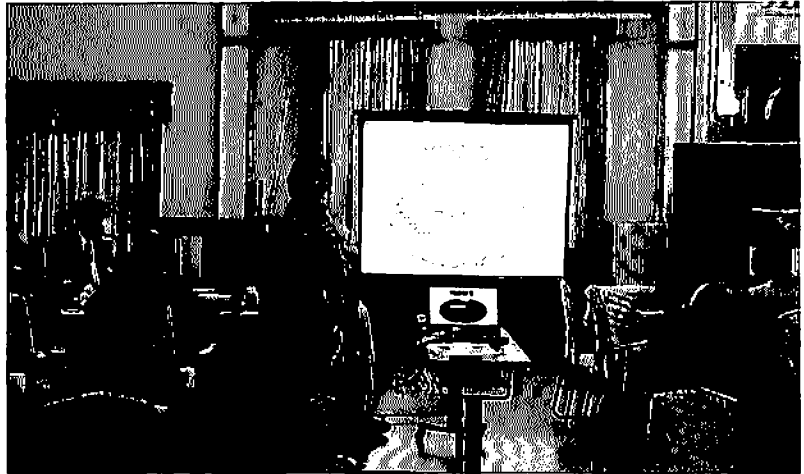
5時45分予定より15分遅れでバスは一路飯盛山へ向かう。天候も予報よりやや好転して、降り始めるのは午後後半へ。午前7時予定通り佐久平にて小休止、8時20分登山口である平沢峠駐車場(標高1450m)に到着。登山準備、準備体操、出発前の記念写真(残念バックのハヶ岳は雲の中)、分水嶺の標識を眺めながら一行9名登山開始。

霜柱の登山道をゆっくり、ゆっくりと、行き会う人1人の静かな登山、眼下に国立天文台野辺山宇宙電波観測所を眺めながら登り、9時30分平沢山(標高1654m)山頂、遠くに瑞牆山(6月、雨で断念)のろうそく岩が見える、目指す飯

盛山は目の前に名前の通り「飯盛り」その物、一気に下り、なだらかな登りで10時飯盛山(標高1643m)。標高の割に頂上と登山口との標高差は193メートル、山頂からハヶ岳の大きな裾野が一望、森の中に点在する家の屋根、登ってくる登山者の一行(2団体)もよく見える、(晴天であれば眼前に冠雪下ハヶ岳連峰の姿があるはず)、風が強いので下山へ、下山路は頂上から眺めていた思いが全員一致、頂上から見えていた下山路を選択、早速ドライバーへ下山口変更の連絡をし、了解も取れて下山は平沢口へと。

淡々とカラマツの樹林を下り、12時平沢口より清里経由、甲斐大泉温泉パノラマの湯で汗を流し、昼食の後、14時帰路へ、心配していた雨も降りだし本降り、佐久で小休止の後ICから高速道、途中渋滞気味もあつたが予定通り18時30分出発地に到着。行動中は、雨も降ることなく、眺望あり、ほどほどの疲れの残る楽しい山行でした。(新井 記)

明日へ織継ぐ  
 月次会報告(10月)  
 織塾新井さん招く



10月の月次会は、桐生織塾の新井珠美塾長を講師に招き、現在の塾が果たしている役割、展開している意欲的な活動について話を聞いた。

桐生で最初の近代化織物工場として梅田の地に誕生した旧成愛社ゆかりの古民家を拠点に、織物の伝統文化を守り継いでいるのが織塾だ。

初代塾長の武藤和夫さんの技、織物文化への熱意、そしてコレクションを受け継いで、新井さんはいま、明日へとつないでいこうと、多くの協力

者をえて、常設展示や企画展示などを通じながら、伝統的な技法を守るとともに創作の場としても積極的に展開し、特に銘仙研究においては、各方面から大きな注目を集めているに至っている。

しかしながらこうした活動は、補助金だけではとてもまかないきれず、現状はボランティアが頼りだ。さまざまな機会を通じ、織塾への理解を深めてもらえればと語っていた。表題は「織工房で明日へ織継ぐ織物文化」。41人が参加した。

## 自殺予防のサポート体制



月次会報告(11月)  
 北川泰久さん講演

11月の月次会は13日、北川内科クリニック院長の北川泰久さんが「こころの健康問題とその対策」と題し、高齢者の自殺に焦点を当て、予防のための桐生地域の取り組みについて語った。

北川さんは、2年前の桐生地域自殺対策連絡会議の立ち上げに桐生市医師会の担当者として参加したのをきっかけに、周囲からのサポートはどう

あるべきか、いろいろ研究を深めている。

現代社会はストレスが多く、心の病が増えている。特に高齢者は健康問題を理由に追い込まれていくケースが少なくないという。そして自殺の背景にある代表的な病気としてうつ病をあげ、北川さんは、これを適切に治療していくことが自殺予防の大きなかぎになるとした。

その因子となるものは性格、能力、身体的状況、社会経済状況、住居や職場の環境、対人関係とさまざま、心の健康を保つ上で欠かせないのが運動や食生活、休養だが、そのためにも、個人を取り巻く周囲のサポートを充実させることが大切であり、ストレスの大きさが個人の能力を超えないようにするため、社会経済的環境、職場環境、都市環境、住居環境をストレスの少ないものに変えていくことが求められ、より充実したサポートが展開できるような体制を目指したいと語った。

(参加者20人)

## 館林美術館の染谷館長 倶楽部所蔵絵画を解説



## 多くは帝展の作家たち 懇話会

桐生倶楽部懇話会の10月例会は25日、館林美術館の染谷滋館長を講師に招き、倶楽部が所蔵する絵画作品についての解説を聞いた。

染谷さんは東大文学部美術史学科を卒業して県立近代美術館に勤務。平成21年に館林に異動して22年館長に就任した。専門は近代日本美術。

事前に収蔵作品の保管状態などを改めて調べ直すという念の入れようで臨んだこの日の懇話会は、「桐生倶楽部の収蔵絵画」の主題に「帝展の作家たち」という副題が加えられた。

というのも、会館に掲げられている絵画のほとんどが帝展ゆかりの作家の作品であり、この人たちがどのような経歴の持ち主で、またどのような活動を展開していたのか、染谷さんは詳細な資料を用意してじっくりと語ってくれ、同時に、文展や帝展新文展や日展など、日本の官設美術展覧会の長い歴史も分かりやすくひもといてくれた。

「前原悠一郎胸像」（昭和11）の作者朝倉文夫（1883～1964）は大分県生まれの彫刻家。「静物」（大正7）の南薫造（1883～1950）は広島県生まれ。「群鮎」（昭和11年ごろ）の小林草悦（1885～没年不詳）は栃木県生まれ。「大島風景」（昭和30年以前）の赤城泰舒（1889～1955）は静岡県生まれ。

「香山新涼」（昭和8）の岡田晴峰（1895～1955）は山田郡毛里田村出身。「桐生倶楽部風景」（昭和11）の牧島要一（1897～1976）は桐生工業中学校に勤務。「黒生の海」の

正田二郎（1907～1949）は新田郡綿打村生まれ。

作品が生まれた背景についても、推測を交えて語りつつ、保存状態の改善を急ぎたいものとして大作の「香山新涼」をあげ、ふだんは日の光を遮断できるような方法がとれると望ましいと、こまやかなアドバイスもしてくれた。

### 秋の叙勲、褒章の榮譽

2012年秋の叙勲で後藤隆三さんが旭日双光章（中小企業振興）を、また秋の褒章で、法人社員桐丘学園の理事長関崎悦子さんが藍綬褒章（教育振興）を受章しました。おめでとうございます。

### 岩崎さんが囲碁優勝

桐生倶楽部の秋季囲碁大会は11月10日に開催されました。参加者7人で、優勝は岩崎牧郎さん、準優勝が岸田信克さん、3位井上孝之さん。

### 秋のゴルフコンペ

桐生倶楽部の秋のゴルフコンペが11月17日に赤城ゴルフ倶楽部で開催され、雨の天気予報を気遣いながらも、幸なことに一度も降られることなく、ラウンドできました。参加社は8人。

優勝は森田良徳さん、準優勝は阿部高久さん、3位は森末廣さん。次回はより多くの参加を期待しています。



### 百名山「武尊」に挑戦 10月の歩く会

10月7日難コースと言われる上州武尊山に9名で挑戦。昨夜の雨が残るなか、天気は回復するとの予報を信じ、朝6時桐生倶楽部を車3台で出発。8時前に武尊牧場駐車場に到着。この頃には雨も上がり、リフトを乗り継ぎ出発地点の三合平に向かう。

三合平を8時40分出発。群馬水源の森に指定された、美しいブナ、ダケカンバの林を森林浴を楽しみながら歩く。途中熊笹の生い茂る道になると、途端に足元はぬかるみ状態。ぬかるみを避けて歩いていたが、すぐに靴、スバツツ、ズボンに泥まみれ、諦めてぬかるみの道に行く。避難小屋を過ぎセビオス岳近くになると、森林限界を越え視界が開ける。対岸の岩肌はすでに赤や黄に色づき始め、美しい紅葉にしばし疲れを忘れる。この先は大小5箇所の鎖場があり、気を引き締めて登る。頂上直下にある日本武尊像で記念撮影をした後、12時30分全員無事に山頂に立つ。

あいにくの天候で視界が悪く、周囲の山々は見えなくなり残念でしたが、みな達成感に浸る。さすがに百名山の上州武尊山、この悪天候にもかかわらず、頂上は大勢の登山者で賑わい、特に遠方からの団体が多かったようです。

昼食後午後1時下山開始。道の状態がよく混雑していなければ、3時間程で三合平に着く予定でしたが思うように歩けず、リフト乗り場に着いたのは最終時間ギリギリの午後4時30分過ぎ。係員の方に時間延長をお願いして、何とか全員リフトで降りられる。

今回は全員山歩きを十分満喫出来、楽しい思い出となりましたが、登山は十分に余裕を持って計画を立てることが大切だと反省もありました。

お疲れ様でした。(栗原 記)

行く雁や故郷の山の夕暮れて	久保田 広人
作戦は雁行と決め騎馬となる	川村 隆
偲び寄る雁がねの音わびしけり	塚越 平人
倒木に寄り添ふ如く秋の花	有阪 昌治
見送りの機影消へゆく夜霧かな	遠藤 勝久

九月

桐生倶楽部はぐるま句会

列車待つ無人駅舎の夜寒かな	久保田 広人
柿一つ鳥を呼び寄す秋の空	有阪 昌治
軒先の夕日に映える吊るし柿	塚越 平人
チビツ子のボール蹴り合ふ秋天下	遠藤 勝久
柿一つ妻と分けあう昼下がり	川村 隆
秋空に飛び跳ねていく徒競走	川村 徳佐

十月

### ＝ 倶楽部だより ＝

- 【10月】・歩く会例会「上州武尊山」 (7日)
- ・理事会 (9日)
- ・歩く会世話人会 (11日)
- ・10月月次会「縫工房で明日へ織継く織物文化」 (18日)
- ・10月懇話会「桐生倶楽部所蔵絵画」 (25日)
- ・はぐるま句会 (31日)

- 【11月】・秋の囲碁大会 (10日)
- ・歩く会例会「大展望の飯盛山&清里散策」 (11日)
- ・理事会 (12日)
- ・11月月次会「こころの健康問題とその対策」 (13日)
- ・歩く会世話人会 (15日)
- ・行事委員会 (16日)
- ・秋のゴルフコンペ (17日)
- ・賞賛委員会 (20日)
- ・写真部会 (21日)
- ・はぐるま句会 (28日)

【退社社員】 吉野 一郎 (逝去) 蛭間 義雄  
蓮沼 源一 中里 基弘

社団法人 桐生倶楽部 第192号  
2012年(平成24年) 12月発行  
発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝  
印刷 刷 ツポノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 市民の宝を守り継ぐ 一般社団法人・桐生倶楽部の役割

桐生倶楽部はことし、一般社団法人に生まれ変わりました。阿部高久理事長のもとで2年半の準備期間をへて、新公益法人制度に基づく移行申請手続を平成24年12月に完了したもので、今後は歴史ある会館を市民の宝として守り継いでいくことを重要な役割と定め、運営の基盤固めとなる社員増強や、重要文化財指定も視野に入れた研究に取り組むことなどが、1月4日、平成25年新年互礼会の席で表明されました。

大正時代に誕生し、先人たちが郷土の未来を語り合い、戦争という困難を乗り越え、活動形態を時代と共に変えながら、その運営では独立自尊の精神を貫きつつ、創立100周年まであと5年という段階で新しいかたちでの再スタートです。

この会館に宿る先人の思い、桐生の歴史を、私たち社員一人ひとりが、後の世につないでいかねばならないのです。



# クリスマス祭にぎわう



参加者は76人

## ハンドベルやビンゴゲームも

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月8日に催され、会場となった2階大広間には社員とその家族76人が参加し、心ゆくまで楽しんだ。

幕開きはクリスマスにふさわしいハンドベルのコンサート。子どもたちにはたくさんのクリスマ

スプレゼントが用意され、岸田信克さん扮するサンタが登場すると盛り上がりは最高潮に。宴のあとにはビンゴゲームも行われ、それぞれのテーブルは終始、参加者の笑顔ではちぎれていた。



平成25年1月13日吾妻山初登山。東京スカイツリーは見えませんでした。(本記は4面)

## ホキ美術館&改装なった東京駅

### 12月恒例・協賛イベント

定刻6時30分、この冬一番の冷え込みの中、27人揃って千葉市緑区昭和の森に隣接している保木美術館に向かった。日曜日の高速道は、すいていて快適にバスは進み、予定より30分近く早く到着した。

スカイツリーを設計した日建設計の建物は、作品を最高の条件でいかに展示できるかに腐心したもので、会員の目を釘付けにした。

白を基調にした館内に入ると、作品の価値を阻害する装飾物はなく、自然光と人工光との調和の取れた空間の中で作品群は輝きを増していた。髪の毛1本1本まで精魂込めて描きあげる作品から発する力は、見る者の心を揺り動かし、現実を忘れさせる世界へ誘ってくれた。それまで「写実絵画は写真だ。」位の浅見しか持ち合わせていない自分が恥ずかしくなった。まさに「目から鱗」で、今後は「写実絵画は、写真より素晴らしい。」と自信を持って伝えたい。

次に約1世紀ぶりに改装なった東京駅を見学した。復元工事を終えた東京駅は、見るものに安ら



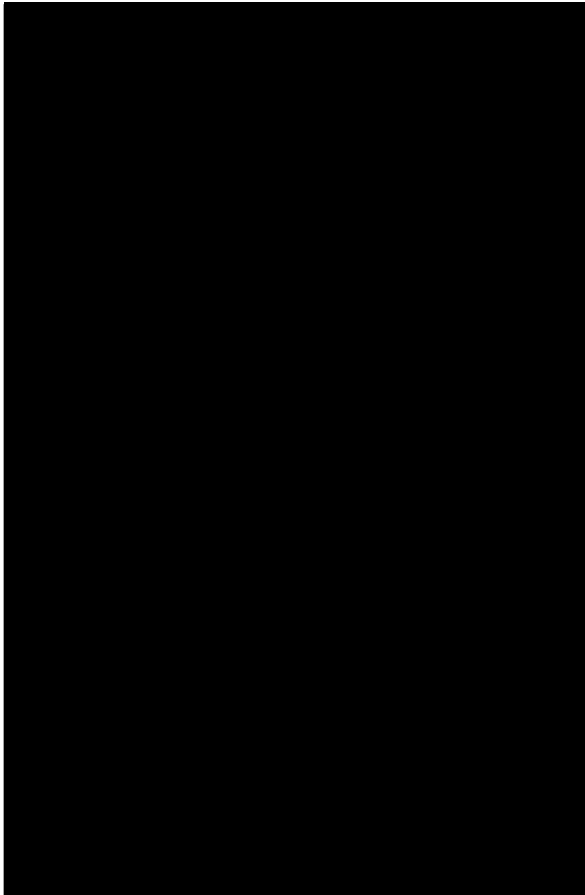
ぎを与え、多くの人たちを連日、惹きつけていた。最後に、凸版の印刷博物館に行った。印刷の過去、現在、未来をわかりやすく伝えるために建てられた館内には、桐生にゆかりの「島霞谷」作成の鉛合金製活版が展示されていた。

桐生出身の人物が、現代社会に大きく貢献していると思うと、誇らしげに思えてきた。内容豊かな今回の例会も、皆さんのご協力で事故もなく、予定時刻より少し早い帰着になった。

(岸田 記)

＝ 新入社員紹介 ＝

(敬称略)



庭下駄の仕舞忘れし時雨かな	久保田 広人
しぐるるや妻の駆け寄る物干し場	川村 隆
冬めくやポストの女投函す	遠藤 勝久
わたらせの冬めく川に波白し	塚越 平人
友待ちに思ひもよらず初時雨	有阪 昌治

十一月

桐生倶楽部はぐるま句会

懐手親の一言逆へず	久保田 広人
こたつにて指相撲する懐手	川村 徳佐
湯煙りの硫黄の白ひ山眠る	有阪 昌治
懐手真似て孫らの転びをり	川村 隆
短日をかこち顔なる冬日かな	塚越 平人
ゴンドラの登る谷川山眠る	遠藤 勝久

十二月

＝ 倶楽部だより ＝

- 【12月】・歩く会例会「保木美術館と東京駅」 (2日)
- ・正副理事長会議 (3日)
- ・歩く会世話人会&忘年会 (6日)
- ・行事委員会 (クリスマス祭準備) (8日)
- ・臨時理事会 (8日)
- ・臨時社員総会 (8日)
- ・クリスマス祭 (8日)
- ・理事会&忘年会 (10日)
- ・はぐるま句会 (26日)
- ・行事委員会 (新年互礼会準備) (28日)

- 【1月】・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」&新年会 (13日)
- ・理事会 (15日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・はぐるま句会 (26日)

【退社社員】 毒島 邦雄 赤石 清安 太田 亨文  
 佐藤 剛司 須藤 充廣

# 初山行で1年の計

## 歩く会 1月礼会

平成25年1月13日(日)、歩く会(世話人代表 栗原信治)1月例会は恒例の吾妻山(標高481m)へ初山行を行いました。

AM9:30参加者16名が吾妻山公園駐車場に集合、新年の挨拶、記録帳に署名の後、頂上に向かって出発。天気予報が良い方へ変わり絶好の登山日和になり、今年1年の山行計画の素晴らしさを予感させる幸先の良いスタートとなりました。

歩く会では、今年も多くの社員の皆さんが、参加したくなる名峰等として「木曾駒ヶ岳」、「梅池自然園」、「三つ峠」、「四阿山」、又、故郷の山として「赤城山」、「鳴神山」、「根本山」、「前仙人岳」等の山行を計画しております。ご期待ください。

(新井 記)

＝写真は3面に＝

社団法人 桐生倶楽部 第193号  
 2013年(平成25年) 2月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝  
 印刷 ツポノ印刷株式会社

# 平成 25 年 度 定 時 社 員 総 会

日 時：平成 25 年 2 月 26 日

一般社団法人 桐生倶楽部

# 次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成24年度事業報告

第2号議案 平成24年度収支決算  
監査報告

第3号議案 役員改選  
正副理事長互選  
新理事長あいさつ

第4号議案 平成25年度事業計画(案)

第5号議案 平成25年度収支予算(案)

第6号議案 その他

1. 閉会のことば

1. 桐生倶楽部紹介DVD上映会

平成24年度 事業報告 自 平成24年1月1日  
至 平成24年12月31日

社団法人 桐 生 倶 楽 部

- 社員総数 259名（名誉社員1名、正社員258名）  
内 訳（法人11社、個人248名）
- 入 社 8名（内法人0）
- 退 社 12名（内法人0）
- 行事・集会 93回  
新年互礼会1回、文化祭1回（絵画展、俳句色紙展、写真展、  
ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、  
クリスマス祭1回、総会1回、臨時総会2回、理事会12回、  
臨時理事会2回、正副理事長会議1回、  
役員特別懇談会1回、公益法人特別委員会1回、  
監査会1回、月次会8回、  
委員会13回（行事委員会4回、文化活動委員会、営繕委員会3回、  
会報委員会6回、社員増強委員会）  
部会47回（俳句部会12回、歩く会11回、歩く会世話人会11回、  
麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日午後碁会、写真部会2  
回、懇話会4回、美術部会1回、ゴルフ部会2回、音楽部会1回、  
ダンス部会）
- そ の 他 会報6回発行

平成24年度

## 室別使用状況

室別 月別	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	テ ラ ス	合 計
1 月	7回 325名	5回 49名	3回 26名	1回 4名	3回 20名	8回 43名						27回 467名
2 月	8回 340名	9回 140名	4回 41名	1回 2名	4回 22名	9回 59名						35回 604名
3 月	8回 355名	4回 48名	3回 26名	1回 7名	4回 21名	11回 56名				4回 91名		35回 604名
4 月	6回 257名	4回 84名	4回 40名		5回 25名	5回 24名					1回 13名	25回 443名
5 月	9回 345名	8回 110名	4回 35名		8回 41名	8回 42名		1回 96名				38回 669名
6 月	8回 333名	5回 68名	3回 26名		6回 29名	12回 78名				1回 80名		35回 614名
7 月	10回 424名	6回 76名	3回 19名		5回 29名	10回 62名						34回 610名
8 月	12回 428名	11回 165名	4回 31名		3回 16名	4回 16名						34回 656名
9 月	10回 512名	3回 33名	3回 20名		1回 4名	8回 48名						25回 617名
10 月	7回 226名	4回 46名	3回 27名		2回 12名	7回 42名						23回 353名
11 月	11回 403名	8回 117名	5回 51名	1回 5名	2回 9名	10回 68名				2回 78名		39回 731名
12 月	8回 366名	6回 90名	5回 48名	1回 8名		7回 39名				1回 3名		28回 554名
合 計	104回 4,314名	73回 1,026名	44回 390名	5回 26名	43回 228名	99回 577名		1回 96名		8回 252名	1回 13名	378回 6,922名

※ 別館は通年契約(ガバナー事務所)


# 監 査 報 告 書

平成24年度決算報告書の各事項について  
監査したところ、その内容は適正なものと  
認めました。

平成25年2月12日

社団法人 桐 生 俱 楽 部

監 事 酒 井 豊 

監 事 大 西 康 之 



# 監 査 報 告 書

平成24年度決算報告書の各事項について  
監査したところ、その内容は適正なものと  
認めました。

平成25年 2月12日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

監 事

大西康之



監 事

酒井豊



# 役 員 改 選

## 新理事（案）

阿 部 高 久	矢 野 昭	森 壽 作	山 口 正 夫
竹 内 康 雄	松 島 宏 明	佐 藤 富 三	岸 芳 正
北 川 洋	坪 井 良 廣	江 原 毅	根 津 紀久雄
前 原 勝	塚 越 紀 隆	藤 江 篤	岸 田 信 克
前 原 勝 良	宮 地 由 高	村 田 豊 樹	大 西 康 之

## 新監事（案）

酒 井 豊      村 田 勝 俊

## 事業計画(案)

## 1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

## 2. 主な行事

1月	新年互礼会	歩く会例会	
2月	社員総会	歩く会例会	
3月	月次会	歩く会例会	
4月	月次会	歩く会例会	
5月	文化祭(絵画・俳句・写真・陶器等)	ガーデンパーティー	
	(ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等)	歩く会例会	
6月	月次会	歩く会例会	
7月	月次会	歩く会例会	
8月			
9月	月次会	歩く会例会	
10月	月次会	歩く会例会	
11月	月次会	歩く会例会	
12月	クリスマス祭	歩く会例会	

## 3. 委員会

## 1) 文化活動委員会

・文化祭

・各種趣味の部会(10部会)

美術部会・懇話会・俳句部会・麻雀部会・ゴルフ部会

囲碁部会・歩く会・音楽鑑賞部会・写真部会・ダンス部会

## 2) 行事委員会

・新年互礼会

・ガーデンパーティー

・クリスマス祭

## 3) 営繕委員会

・会館の修理保全

## 4) 会報委員会

・年6回 会報発行

## 5) 総務委員会

## 6) 社員増強委員会

## 7) 重要文化財特別委員会

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 一般社団法人、新体制固まる 平成25年度定時社員総会

桐生倶楽部の平成25年度定時社員総会が2月26日に開かれ、一般社団法人に生まれ変わった倶楽部を率いる執行部の改選が行われ、阿部高久理事長が再任された。また、平成24年度事業報告と同収支決算、平成25年度事業計画と同収支予算がそれぞれ承認された。

新理事と新監事は次の通り。新理事＝阿部高久、

矢野昭、森壽作、山口正夫、竹内康雄、松島宏明、佐藤富三、岸芳正、北川洋、坪井良廣。江原毅、根津紀久雄、前原勝、塚越紀隆、藤江篤、岸田信克、前原勝良、宮地由高、村田豊樹、大西康之▽新監事＝酒井豊、村田勝俊

なお、総会終了後、BS朝日番組で収録された阿部理事長インタビューを、DVDで鑑賞した。

# 素晴らしい作品ぞろいです

## 館林美術館染谷館長が講演

月次会報告〈3月〉  
所蔵6作品を解説



3月の月次会は25日、県立館林美術館の染谷滋館長が「桐生倶楽部所蔵の絵画について」と題し、講演した。染谷さんはすでに桐生懇話会の卓話で所蔵絵画について語っているが、この日はさらに掘り下げて、じっくり解説してくれた。

染谷さんがこの日取り上げたのは岡田晴峰の「香山新涼」、朝倉文夫「前原悠一郎胸像」、南薫造の「節物」、赤城泰舒の「大島風景」、正田二郎の「黒生の海」、牧島要一「桐生倶楽部風景」。

参加者は34人だった。以下は講演要約。

「朝倉文夫は大分出身で、胸像を制作した1936年は、脂が乗り切った壮年期の仕事で、その作品がここにあるのはすばらしいことです。

南薫造は広島出身。日本の洋画の世界ではひじょうに有名な人で、伝統的な画風を身につけた人で、1918年の作品なので、桐生倶楽部所蔵品の中では一番古いと思います。作品がどういう経緯でここにあるかはわかりませんが、赤絵のツボに挿された花と、ブロンズの人物らしき置物が配置され、倶楽部にとっても良く似合う油絵だと思えます。絵の値段は需要と供給で決まるものなので絵そのものの価値とは違うものですが、今回の作品の中で一番評価が高いのはおそらく南薫造だと思えます。

南、朝倉は全国区の作家です。その意味では赤

城泰舒も全国区の作家の一人です。巧みな筆さばきと統一された色調が美しく、作者の力量を示すすぐれた水彩の小品です。

正田二郎は群馬県出身です。平成2年ごろ、私は正田二郎を調べるためにこの会館にきて、ほかの絵と出会いましたので、私と桐生倶楽部を結んだのがこの作品でした。そのむかし、倶楽部で個展をやっていて、出品された中で一番立派なものを寄贈したようです。作品はとてもモダンです。

牧島要一は歴代理事長肖像画を制作しています。技術を信頼されていたのでしょう。多くの弟子を育てたようです。

最後に岡田晴峰作品は、桐生市ゆかりの画家であること、そして、第14回帝展に入選した作品が飾られているということで、桐生倶楽部においては一番価値ある作品だと私は思っています。

日本画というのは紙とか絹にかかれています、光に弱く、絵が傷みます。おそらく帝展に出品したままの状態でここにあると思いますので、およそ80年、ゆるやかな光を浴びて、傷みがけっこうぎりぎりのところにきていると思います。

素材の紙がやぶけてしまうとかなりきついです。カーテンでかぶせてしまうと、これ以上傷めないために、少しでも延命するためにふだんは布で覆うような処置が必要かもしれません」。



## 天気にもまれて「雪の長七郎山・小地藏岳」に登ってきました

am7:30、寒さが一段と厳しかったが定刻通り参加者8人は2台の車に分乗して一路赤城山へと桐生倶楽部を出発。大間々から国道353号、そして空っ風街道から赤城山に進み、赤城ビジターセンターで小休止して、出発点の小沼駐車場へam9:00到着。先着の車が多数有。多摩、横浜、熊谷等々県外の車で「冬の赤城山」の人気の高さが窺える。車外の気温は-8℃ではあるが風もなく日差しが暖かく、春先を感じさせる絶好の登山日和、登山準備を整えている一同も素手で、鼻歌が聞こえるような感じ。

am9:15山頂を目指して出発、登山路から目を北に向けると大沼、そして、晩秋に本会で登った大きな上州武尊山の勇姿、腰まで入るような雪の中を進みam10:00小地藏岳(1573m)、一旦鞍部に戻り眺望のある程よい登りでam10:40長七郎山(1579.5m)。山頂は無風と暖かい日差し、遮るものがない眺望がまた素晴らしい、眼下に桐生から前橋の市街地、遠くに筑波山・富士山・北岳・八ヶ岳・浅間山、四

阿山・草津方面と目の前の地藏岳の鉄塔群、昨年の地藏岳登山の天候の悪さと寒さが嘘のような上天気、いつまでも眺めていたいがam11:00下山へ。

雪の中を転がるように楽しく下り、小沼の岸から小沼の氷上へ、山頂は無風でしたが氷上は冷たい風が少し吹いている。氷上を楽しみながら横断して小沼駐車場へam12:00帰着。ビジターセンターでは昨日(9日)は晴れてはいたが風のあった寒い日でしたが、今日は珍しいほどいい天気の日と云っていました。

今日は天気にもまれて、いろいろ体験ができた、楽しく優しい疲れの雪山ハイキングでした。参加者から、今度はあれに(黒松山)登りたいねーの声もあり、来年の雪山ハイキングが楽しみです。

帰路は富士見温泉で汗を流し、予定通りpm3:00桐生倶楽部着、ご苦労様でした。今回は幸運にも恵まれて、素晴らしい雪山が堪能できた山行でした。すべてに感謝・感謝・感謝の一言です。

(新井 記)

# 故郷の里山歩き

## 3月の歩く会

今月は市内から良く見える前仙人岳に登り、菱の山を縦走し泉龍院に下る計画でしたが、当日はイノシシ捕獲が行われる事がわかり、桐生女子校方面に下りるルートに変更になりました。

朝8時、参加者6名は桐生倶楽部からスタート地点の菱町5丁目塩之宮神社へタクシーで向かう。8時20分、神社で今日の山行の無事を祈願して出発、神社横からの登山道は良く整備されていて歩きやすく、杉林の中を登って行く。

10時前仙人岳(647.4m)に到着。記念撮影の後、雨降山に向かう。ここからはなだらかな下りが続き、右手に桐生川や梅田、菱町の家並みがよく見え、景色を楽しみながら歩く。

11時30分雨降山(384.6m)に到着。ここから少し戻り、ジャンクションピークと呼ばれる所から桐生女子校方面に向かって下る。ここは地元の人あまり通らない、途切れがちな踏み後があるだけの大変歩きづらい道でしたが、歩く会のメンバーはさすがになれていて、12時15分無事下山。

この日は朝から3月上旬とは思えないほど暖かい日で、故郷の里山歩きを楽しみました。

(栗原 記)



一月

風花の舞ひちる先に赤城山

川村 徳佐

部屋整理ままならずや去年今年

有阪 昌治

不整脈薬飲みつつ去年今年

川村 隆

福寿草黄金の花のたくましく

塚越 平人

身を丸めつつ風花の通学路

遠藤 勝久

古時計音も変わらず去年今年

久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま句会

二月

陽だまりを拾ひ歩きし余寒かな

有阪 昌治

病床の妻命かす余寒かな

塚越 平人

手水鉢余寒の中に鳥遊ぶ

川村 隆

早春の夜空に火投げ神事かな

遠藤 勝久

降圧の処方握る余寒かな

久保田 広人

### = 倶楽部だより =

- [2月] ・正副理事長会議 (4日)
- ・歩く会例会「赤城山」 (10日)
- ・監査会 (12日)
- ・理事会 (12日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・臨時理事会 (26日)
- ・定時社員総会 (26日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- [3月] ・歩く会例会「前仙人岳」 (10日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・月次会「桐生倶楽部所蔵の絵画について」 (25日)
- ・はぐるま句会 (27日)

[退社社員] 平田 耕市 前原 正一 (逝去)  
松島 巖

一般社団法人 桐生倶楽部 第194号  
2013年(平成25年) 4月発行  
発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝  
印刷 ツポノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 五月晴れの文化祭

桐生倶楽部恒例の文化祭が10日から12日までの3日間、開催された。2階大広間は、社員や家族の趣味の世界で彩られ、絵画や写真や俳句など、力作が並び、最終日のガーデンパーティーは90人の参加者でにぎわい、好天に恵まれ、風薫る中庭で料理を味わい、話に花を咲かせていた。

### 成績優秀者を表彰

桐生倶楽部文化祭の協賛大会の上位入賞者が9日、ガーデンパーティーの席で発表された。ゴルフコンペは4月29日、16人が参加。麻雀大会は5月2日、12人が参加。囲碁大会は4月27日、7人が参加した。

ゴルフコンペは優勝が柳明彦さん、準優勝が森田良徳さん、3位が朝倉泰さん。麻雀大会は優勝が船山克人さん、準優勝が河原井弘さん、3位が北川洋さん。春季囲碁大会は優勝が田中義弘さん、準優勝が福永儀一さん、3位が井上孝之さん。





# 桐生の未来を担う理工学部

## 月次会報告(4月) 板橋教授、熱く語る



桐生倶楽部4月の月次会は26日、群馬大学教授、板橋英之さんが「群馬大学理工学部の紹介と桐生の活性化について」と題し、講演した。参加者23人。

板橋さんは、世界的には温暖化や資源枯渇や紛争があり、一方日本は人口減少社会に入り、かつ東日本大震災のような災害に見舞われて、戦後最大の危機に追い込まれている状況があり、この国が再び世界一に輝くためには、リーダーシップを発揮する高度な人材、イノベーション人材が必要であって、こうした革新的な人を育成するためには既存の学問分野ではだめで、新しい学問領域の創造が必要なのだと、今回の改組を説明した。

そのねらいは理工と工学を融合させて、真の意味の理工学を育て、ここにおいて理学教育を強化した工学教育を展開し、科学コミュニケーション能力を高めていくことであり、その融合をカリキュラムで実現させるために4学科に統合して幅広い視野を持たせ、教員組織を理工学研究員一元化し、分野をまたがったプロジェクトに予算をつけていくようにし、活性化を図ったという。

こうした改革で徐々に実績を積み50年後の桐生が、高度な教育を受けられ、安くて安全で美味しい水が飲め、革新的なクリーンエネルギーにあふれ、人口は少なくても、にぎわいがあふれ出るようなまちにしたいと、熱く語った。

## 三つ峠山で富士展望 4月の歩く会



4月の歩く会は三つ峠山に登りました。三つ峠山は河口湖を挟んで富士山と対峙していて、富士山を眺めるのに絶好な山として人気があります。

4月14日5時30分、参加者12名小型バスで桐生倶楽部を出発。天候は曇ひとつない快晴、全員期待が高まっている様子。バスは北関東、関越道、圏央道、中央道と乗り継ぎ、河口湖IC近くになるとバスの前方左側に、5合目まで真っ白い雪に覆われた大きな富士山が現れ、バスのなかは歓声につつまれた。

9時三つ峠山登山口駐車場に到着。駐車場は各地から来た車で満車状態。9時15分出発。このルートは林間コースで見晴らしがきかず、又山頂の下にある山小屋に荷物を運ぶための車道としても使われていて、轍やヌカルミもあり、歩き難い道でした。10時30分四季楽園(山小屋)に到着。

小休止の後、15分の急登で三つ峠山(1,785m)山頂に立つと、突然目の前に圧倒されるほど大きな富士山が現れ、その美しい姿に一同感動し、しばらく見とれてしまいました。

山頂の心地よい風に吹かれ、神々しい富士山と向かい合っていると、心が洗われるようです。またここは360°のパノラマで遠く雪を頂いたアルプスや丹沢の山々も見渡せ、こちらも素晴らしい景色を見ることが出来ました。

四季楽園で昼食の後、11時45分下山開始。帰りは河口湖畔の河口浅間神社に下るルートで、この道は正面に富士山そして時々河口湖も望め、景色を楽しみながら歩きました。途中母の白滝で小休止。ここは道者が禊をしたといわれる清め地で、白滝神社がありパワースポットとして人気があります。14時15分河口浅間神社の先まで降りてバスに乗り、野天風呂“天水”へ、ここで疲

れを癒し、20時全員無事桐生に着きました。

5月になって富士山が世界遺産に内定との朗報があり、一足早い訪れでしたが、我々日本人にとっては、特別な思い入れのある富士山に間近にふれ、天候にも恵まれて素晴らしい1日となりました。(栗原 記)

## 社山、絶好の展望 5月の歩く会

定刻6:00、全員揃って一路日光へ向かって出発。ルート122号を北上し、足尾に差し掛かるころから新緑が、一行を暖かく出迎えて、今日の山行への期待が一段と高まった。

昨日の雨で汚れの落ちた木々は、輝きを増し、淡いピンクの花をつけたつつじが目を楽しませてくれた。8時過ぎに、登山基地である中禅寺湖道路第2駐車場へ到着。身支度を整えて、残雪の日光白根山・皇海山の山並みをバックに集合写真。山道のあちこちに赤ヤシオの花が咲き、元気をいただいた。

半月山頂を右に見て、視界が開けた所が展望台になっている。ここからの景色は素晴らしく、右手に男体山、正面に日光白根山・錫ヶ岳やや左に皇海山、一方下に目をやれば中禅寺湖に八丁出島が中央めがけて突き出て正に一幅の絵を見ているようで、十二分に大パノラマを満喫した。

二つの峠のあるコースは、起伏に富み、予想外に時間をとられたので、話し合いの結果、各自11時に折り返すことにした。阿世湯峠付近の山頂からは、右手に緑深い山々、左手に足尾の鮎海によるハゲ山と好対照な景観が横たわっていた。社山山頂は奥深く、何度もそれらしい場所を通過して、11時に山頂に到着した。山頂の景色は今ひとつで、北側は樹木で覆われ、何も見えなかった。

参加者全員、大満足なコースなので、時間にゆとりを持って再挑戦したいと思っている。

(岸田信克 記)



# 初夏の美術鑑賞会

桐生倶楽部美術部は本年度の美術の鑑賞会は5月15日にクラークコレクション展の鑑賞と改装された東京駅舎と丸の内の建築美を見ながらの散策を楽しみました。参加者は、佐藤富三さん・山中雅子さん・城越みち代さん・城越さんの娘さん・原秀匡さん・渡邊保さん・渡邊登紀子さん・池田のりこ・保倉榮子・保倉一郎の10名でした。

クラーク美術館（米穀マサチューセッツ州ウィリアムズタウン）が誇る19世紀までの欧米の傑作を幅広く擁する収集から、印象派を中心にした、これまで目にしたことのない奇跡のフランス絵画73展を三菱一号館美術館で一堂に飾り、観るものに「人生を、美しく生きる幸せ」に出会える幸運を与えてくれました。繊細な筆使いで克明に七色の鮮色を塗り込んだ印象派の超絶技工をもってした作品が多く、彩色の鮮やかな美に強く引込まれました。

三菱一号館の保存建築の美しく懐かしさを秘めた味わい深さにもみとれ、館内のレストランで昼食をとりながらの鑑賞会の感想と感激を話し合いました。印象派の人たちのあれ程までの研鑽と努力のあとに感激するとともに、色彩の科学的な理解と応用を身につけるべき事を学び、鑑賞の理解と習得に深い意識を感じました。

東京駅舎を見て昔の偉かさを感じ、見上げるビルの明るい丸の内全体の広がりには、一部残された旧ビルに残る懐かしさを含みながら、大きな発展を感じさせる現代のグローバル都会を誇るに充分な景観を造っていて、都市の美意識を堪能できました。旧中央郵便局が改装されたKITTEビルの屋上で写真を撮って解散し、各々に館内の沢山のきれいな店を回って楽しみました。

(保倉一郎 記)



三月  
石垣のタンポポ小さし神田川 遠藤 勝久  
浦公英の絮わたたどと登の上<sup>へ</sup> 川村 隆  
過疎の地に引き売り来たり春近し 有阪 昌治  
青きふみのどけき村をさまよひぬ 塚越 平人  
木の芽ぶく中を無人のバス来る 久保田 広人

四月  
名も高し桜祭りの上田城 遠藤 勝久  
人気なき庭のつつじの燃ゆること 有阪 昌治  
夜桜や池を辿りてよもすがら 塚越 平人  
大桜一人づつふえ茶話の会 川村 隆  
春光や五百羅漢の目覚めおり 久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま句会

## ＝ 倶楽部だより ＝

- [4月] ・行事委員会 (5日)  
 ・理事会 (9日)  
 ・歩く会例会「三ツ峠山」 (14日)  
 ・写真部会 (15日)  
 ・桐生倶楽部とJCの理事懇談会 (17日)  
 ・美術部会 (18日)  
 ・歩く会世話人会 (18日)  
 ・はぐるま句会 (25日)  
 ・月次会「郡大理工学部の紹介と桐生の活性化」 (26日)  
 ・春季囲碁大会 (27日)  
 ・春のゴルフコンペ (29日)

- [5月] ・麻雀大会 (2日)  
 ・文化展 (10~12日)  
 ・ガーデンパーティー (12日)  
 ・歩く会例会「社山」 (12日)  
 ・理事会 (13日)  
 ・美術部会 鑑賞会「クラークコレクション展」 (15日)  
 ・歩く会世話人会 (16日)  
 ・はぐるま句会 (29日)

[退社社員] 秋山 陽一

一般社団法人 桐生倶楽部 第195号  
 2013年(平成25年) 6月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝良  
 印刷 ツポノ印刷株式会社



# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 木曾駒ヶ岳のぜいたくな時間

### 7月の歩く会



28日、いつもより早い定刻4時45分に全員集まり、木曾駒ヶ岳に向けて出発。高速道 را 乗り継いで駒ヶ根の菅の台バスセンターで登山靴に履き替え、専用バスに乗り、しらび平駅に予定時刻より40分ほど早く到着。そこから30分に1本の通常運行のロープウェイに乗り替え、千畳敷駅に9時40分に着いた。ここで登山組13人と自然探勝組9人に別れた。

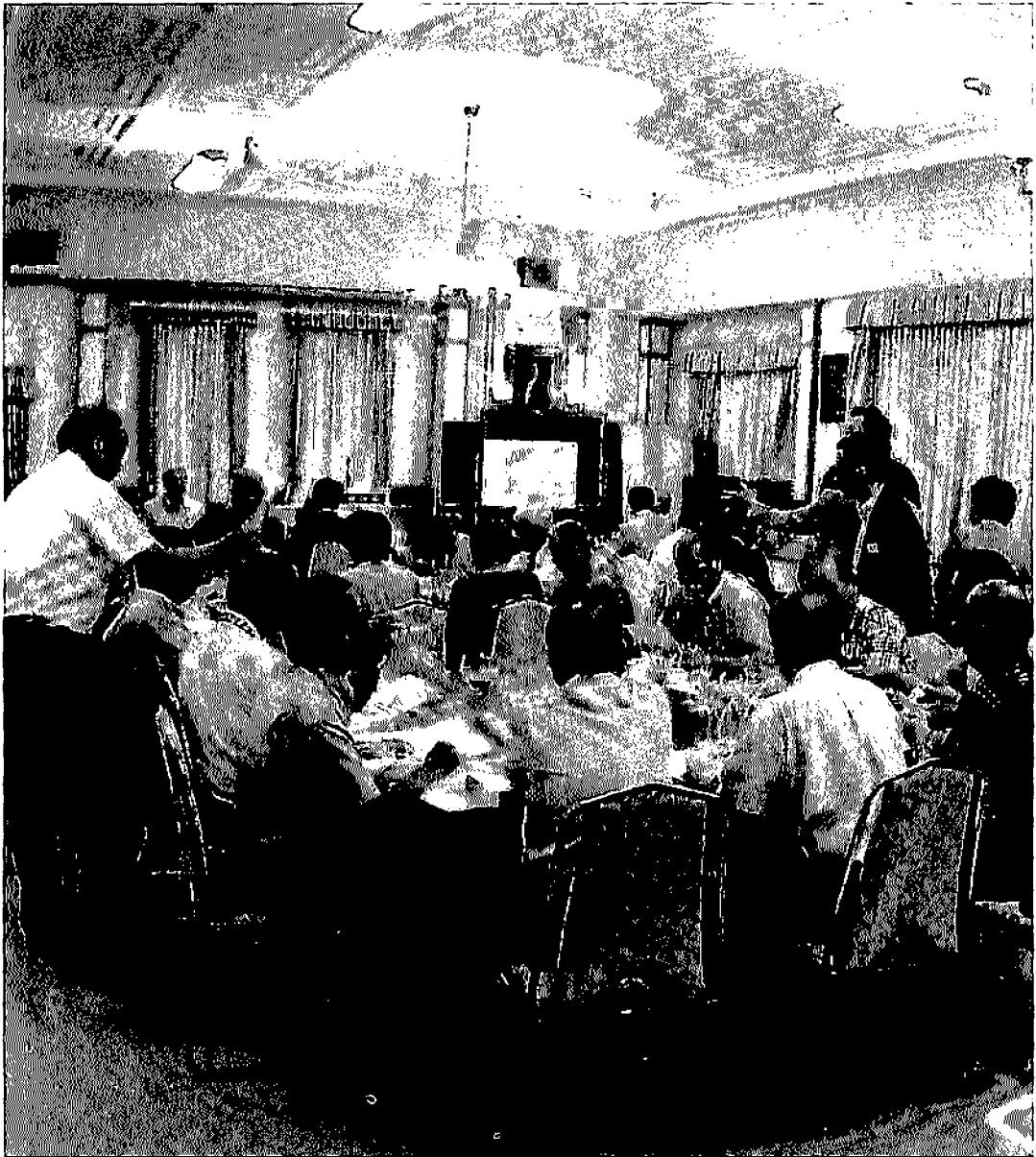
千畳敷駅から駒ヶ岳に続く登山路の辺りは、千畳敷カールと呼ばれ、夏の高山植物のコバイソウ・コイワカガミ・クロユリ・ツガザクラ等が咲き乱れ、お花畑の名にふさわしい景観を呈していた。7分30秒で2612mの天井の楽園に普段着で行ける千畳敷は、夏のシーズン観光客でごった返し大変な賑わいを見せる。

千畳敷カールを過ぎると道は登山路に入り、さわやかな空気を吸い込んで気持ちのよい歩行を続

けること小1時間、山頂の駒ヶ岳神社に着いた。山頂の眺望は、雲のため遠望はきかなかったが、近場ははっきりと見え、高山としてはまずまずの天気。食事を済ませ、神社に一行の無事を祈願して、下山となった。千畳敷駅に13時40分に着いた。

溢れる人を掻き分け、整理券をもらおうと係員に近づこうとした時、先に着いた探勝組のものがみんなの整理券を貰ってくれていて、大いに助かった。後で分かったことだが、この時間帯ロープウェイは、臨時運行に入り、9分間隔で客を運んでいたが、客を捌き切れず、時機を得た行動により1時間40分の短縮につながった。

夏休み・日曜日の上信越道は渋滞続きで、帰着は予定時間より1時間超の遅れとなった。参加者全員が、大変贅沢な時間を共有できた1日となった。(記 岸田)



## 学び味あうワインの夕べ 専門家招き7月の月次会

7月の月次会は「ワインの夕べ」。ワイン専門家の金井強さんを講師に招き、参加者は試飲をしつつ、話を聞きながら食事を楽しんだ。

金井さんはこの日のためにシャンパーニュやロワール地方、ブルゴーニュ地方、ランドック地方の赤ワイン白ワインを用意。純粋にうまいワインの完成を目指した「マキ・コレ・ワイン」と

はどのようなものか。有名シャトーや有名ドメーヌのワインとどこが違うのかを解説。

この日の参加者は49人。酸化に強いブドウを育てるといふ畑仕事からはじまって、圧倒的な時間をかけて熟成させるワイン造りを学び、心ゆくまで味わった。

# 観光で地域活性化

わ  
鐵の樺沢社長が講演  
ローカル線の役割語る



## 6月の定例会

6月の月次会はわたらせ渓谷鐵道社長・樺沢豊さんを講師に招き、観光を念頭においた鉄道と沿線地域の連携について、これまでとこれからのわ鐵の取り組みを聞いた。

樺沢さんは「わ鐵は沿線地域の人びとの大切な交通手段であり、欠かすことのできない生活路線であるとともに、この鐵道を軸にした沿線市民と協働・連携による魅力的な地域づくりや地域活性

化を図るうえで重要な役割を担っている」という基本的な考え方を示し、そのうえで、現在の輸送需要の相当数が観光客に依存しているという状態を説明。それらは、沿線の人びとの多くの協力をもらいながら、歴史や文化面での豊富な資源を生かしながら、利用者の鉄道へのかかわり方の変化に対応してきた結果でもあることを強調し、今後こうした連携を発展させ、地域に貢献し、わ鐵の実績も上がるような道を目指したいと語った。



## 角川映画を撮影

来年劇場公開予定の角川映画「パイロケーション」の撮影が桐生倶楽部会館で行われた。

6月から7月にかけて、全館を使う大がかりな撮影で、映画に登場するのは6号室、ロビー、建物の外観。期間中は50人近い関係者が出入りして、大型車両を含む10台以上が駐車。通りすがりの市民は「何ごとですか」と立ち止まり、撮影だと聞くと、興味津々の様子でながめていた。

原作は角川ホラー(著・法条逸)、監督は安里麻里。



### 6月は袈裟丸山へ

当初の予定は桐生川源流の根本山（合併前は桐生市内の最高峰1169m）・熊鷹山でした。

実施日も近くなりましたので、当日の実施計画書の作成の参考にと桐生市のHPを開きましたところ、根本山登山口へのアプローチである県道上藤生大州線の全面交通止めが目に入りました。岸田担当理事等との協議の結果、行く先をヤシオツツジの見られる「袈裟丸山・小丸山」に変更して実施ということに決めました。

予定通り午前7時30分に桐生倶楽部を3台の車に分乗して一路袈裟丸登山口（折場口）に向けて出発。

登山口には団体（栃木）のマイクロバスや乗用車が数台が先着していました。登山準備の後、準備体操を行い登山開始（9時）、心配される天候も何とか持ちそうで曇天模様ではあるが明るさもあった。途中に咲いているアカヤシオツツジとシロヤシオツツジ（愛子さまの御印）の花が疲れをいやしてくれる中、賽の河原（10時30分）での小休止、そして小丸山山頂です（11時）。昼食・休憩の間にも袈裟丸山頂を目指して登っていく団体（どこからと聞けば千葉県からと）や個人の登山者も数組見受けられ、袈裟丸山登山の四季折々の魅力と人氣が群馬県外まで知られていることが覗えました。

下山（11時30分）途中の賽の河原付近では「鹿」も何度か姿を現し、目を楽しませてくれる中、午後1時頃登山口、桐生倶楽部には午後3時少し前に到着して解散。今回の山行は実施に際しての道路状況等情報の収集と把握の大切さを今更ながら感じた山行でした。

（新井 記）

五月

桐生倶楽部はぐるま句会

六月

汽笛鳴る薄暮の波頭場渡航船	久保田 広人	十葉を軒に吊るして老人	久保田 広人	あれこれと着衣に迷ふ薄暮かな	有阪 昌治	万緑の峡谷走るローカル線	有阪 昌治
豪農の軒の菖蒲や端午の日	遠藤 勝久	手を上げ岩に張りつく雨蛙	塚越 平人	五十年受け継がれ咲く白牡丹	川村 隆	天水の溜池に鳴く雨蛙	遠藤 勝久
初節句通りて今日の日本晴	塚越 平人	万緑の濃美つつ切るのぞみ草	川村 隆	初節句通りて今日の日本晴	塚越 平人	万緑の濃美つつ切るのぞみ草	川村 隆

### = 倶楽部だより =

- [6月]**
  - ・歩く会例会「袈裟丸山」 (2日)
  - ・重要文化財特別委員会 (5日)
  - ・歩く会世話人会 (5日)
  - ・理事会 (10日)
  - ・写真部役員会 (18日)
  - ・月次会「観光で地域活性化」 (25日)
  - ・はぐるま句会 (26日)
- [7月]**
  - ・重要文化財特別委員会 (4日)
  - ・理事会 (8日)
  - ・写真部会 (11日)
  - ・はぐるま句会 (25日)
  - ・月次会「ワインの夕べ」 (26日)
  - ・歩く会例会「木曾駒ヶ岳」 (28日)

一般社団法人 桐生倶楽部 第196号  
 2013年（平成25年） 8月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝良  
 印刷 ツボノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 冷氣漂う「四阿山」へ

### 9月の歩く会

連日の猛暑が一転、台風が関東地方を直撃との天気予報、今回は前日まで中止か決行か、大変悩まされました。幸いにも台風は消滅し、9月1日は朝から晴天、参加者17名、朝5時30分バス

で出発でき、一安心。

今回は嬬恋側から四阿山に登り、根子岳を経て信州側の菅平牧場に降りるコースで、ゴンドラを利用して一気に高度を稼ぐ、比較的楽な山行です。

(4面に続く)





# 写真撮影、カキクケコの心得

9月の月次会報告

## 蓼沼さんがデジカメ講座

9月の月次会は27日、写真家の蓼沼敏夫さんを講師に迎えて、「デジタルカメラ初心者向撮影教室」が開かれた。

秋たけなわ、催し物や自然描写と、なにかと撮影の機会が増えてくる季節。蓼沼さんはデジタルであっても写真の撮り方は同じだとし、写真撮影に臨む際の「カキクケコ」を解説。

カは感動と感謝、キは気力、緊張感、クは工夫、

ケは決断、コは好奇心と語り、写真を撮るにはものに感動し、そういう対象に出合ったことに感謝して、緊張感を持ち、工夫して、そして決断してチャンスを逃さないこと。そのためにも日ごろから気力をやしない、好奇心を忘れないことの重要さを語り、このあと、デジタルカメラの上手な使い方に入った。(2階大広間、参加者27人)

## 小池久雄さん逝く

桐生倶楽部の生き字引で、長く副理事長をつとめた小池久雄さんが22日、亡くなりました。89歳でした。

小池さんは昭和25年に桐生倶楽部に入社しました。作家南川潤さんの薫陶を受け、戦後桐生の発展に寄与できる青年活動を展開したいという思いを、桐生倶楽部青年部の発足に託しました。

倶楽部の創設に関わる第一世代からさまざまな話を聞き、そうした交流を通じ、創業の精神を次の世代にどのように引き継ぎ、倶楽部活動を発展させていくべきか、その使命を背負いつつ、倶楽部創立50周年では中心的な役割をはたし、90周年でもさまざまな識見をいただきました。

桐生市の織物振興、さらに文化振興に大きく貢献し、その活動は信頼され、「桐生の良心」といわれてきた方ですが、倶楽部においても、日常がまさに「社員の心」そのものでした。



長年の情をこめて語る副理事長 小池

阿部高久理事長は27日、月次会の冒頭で「とてもお世話になりました。倶楽部にとってほんとうに大切な方でした」と小池さんの逝去を慎んであいさつし、その後、出席者全員で黙祷を捧げました。

また、桐生タイムスの27日論説が「小池久雄さん逝く」という題で、小池さんが多くの人びとから信頼され期待されてきた事実をふれ、「1970年代、都市開発の進展が際立つなかで、まち



在りし日の小池久雄さん。桐生倶楽部の伝統には常に真剣なまなざしを向けていました

のみどりを育て守ろうと動きだした桐生市みどりと花の会の活動はその代表格だ。小池さんは充足段階から先頭に立って、これを全市民的な運動に育て上げた。全日本花いっぱい大会の桐生開催、地域緑化に対する市民活動の意識付けに務め、「みどりを育てる運動は、市民のみなさんが自ら育てる気持ちになってもらうことが大事」だと会長自ら実践に挑んだ。桐生市民の人心緑化。この時代のこの役割が、小池さんほどふさわしい人はいなかった」と、穏やかで芯の強かったその人柄をしのんでいます。

ご冥福をお祈りします。

# 四阿山紀行



(1面から続く)

8時30分パルコール爛恋スキー場に到着。ゴンドラ料金は全員シニア割引、その上20名以上の団体割引をお願いしたらアッサリOK。通常より500円も安くなり、おおらかな係員に感謝。2100mの山頂駅は下界の蒸し暑さが嘘のように空気が冷たく澄み渡り、秋の気配さえ感じられます。全員で柔軟体操をして、いざ出発。

四阿山への登山道はなだらかな林間コースですが、昨日までの雨のため、足下はぬかるんでいて、気が抜けません。多くの団体が入山して混雑していましたが、途中リンドウ、マツムシソウその他多くの花が咲いていて、素晴らしい景色を楽しみながら登りました。頂上直下には鎖場が二箇所ありましたが全員無事に通過。

11時10分四阿山山頂(2354m)に到着。この頃になると残念ながら天気予報通り曇り空になり、山頂は白一色。ここ数日の雨で、四阿山から根子岳へ行く道が崩落し危険との情報があり、安全を考えてルートを変更し、直接平牧場に向かう。

四阿山は高山植物も有名で、このルートも多くの花が咲いていて、写真を撮りながらゆっくり歩きました。

コースが短くなったので、予定より早く駐車場に到着。天気予報では3時頃から雨との事、バスで温泉に行く途中にやはり降り始め、最近の天気予報は良くあたると皆で感心。

温泉で疲れをとり、午後7時30分全員無事桐生倶楽部に到着。

今回は天気の事、ルート変更等色々心配しながらでしたが、山と高山植物を楽しむことが出来、結果的に良い山行となりました。

お疲れ様でした。 (栗原 記)

七月

桐生倶楽部はぐるま旬会

八月

被災地のひまわり一つ咲いており	久保田 広人	向日葵は首をかしげて何思う	塚越 平人	香り立つリハビリルーム百合の花	有阪 昌治	向日葵に雨の一日の読書かな	遠藤 勝久	仏壇のひまわり二輪祖母と母	川村 隆
朝顔の二階の窓に届きけり	遠藤 勝久	朝顔に早く咲けよと水をかけ	塚越 平人	新涼や水切る石の跳びゆけり	有阪 昌治	朝顔の遠くに聞きて野辺送る	久保田 広人	朝顔の二階の窓に届きけり	遠藤 勝久
はぐるま旬会	川村 隆	はぐるま旬会	川村 隆	はぐるま旬会	有阪 昌治	はぐるま旬会	久保田 広人	はぐるま旬会	遠藤 勝久

## = 倶楽部だより =

- [8月]**
  - ・理事会 (5日)
  - ・営繕委員会 (23日)
  - ・はぐるま旬会 (28日)
- [9月]**
  - ・歩く会例会「四阿山」 (1日)
  - ・重要文化財特別委員会 (3日)
  - ・歩く会世話人会 (5日)
  - ・理事会 (9日)
  - ・役員特別懇談会 (18日)
  - ・写真部会役員会 (20日)
  - ・はぐるま旬会 (26日)
  - ・月次会「デジタルカメラ初心者向け撮影教室」 (27日)
  - ・秋のゴルフコンペ「赤城ゴルフ倶楽部」 (28日)

**[退社社員]** 小池 久雄 (逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第197号  
 2013年(平成25年) 10月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝良  
 印刷 ツポノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755

## 雲海のまち眺めながら

### 11月の歩く会 鳴神山から吾妻山



今回の山行は、前日から全国的に大荒れの天気予報が出されていました。当日の朝は予想通りどんよりしていました。会長に相談しようとTEL入れましたが、すでに倶楽部に居るよということで、天気の話は出来ませんでした。倶楽部を予定通り、AM7:00に、タクシー2台に4人が分乗して出発しました。途中、3人を乗せて川内に向かいました。

登山口の駒形を、7:30に目の前まで霧が立ちこめている中を、鳴神山めざして出発しました。思ったより暖かく急な道が続いていましたので、皆、びしょり汗をかきました。頂上付近は紅葉がとてもきれいでした。頂上から、吾妻山方面を見ると、雲海が綺麗に見えました。皆、思わず声を出して、しばらく見入ってしまいました。

(4面に続く)

# 秋たけなわの梅池自然園を歩く



## 歩く会10月例会



10月13日(日)、快晴の行楽日和の中、参加者17名は予定通りの午前5時倶楽部を出発しました。9時に標高839米の梅池高原駅・駐車場に到着。登山(歩き?)支度を整えて6人乗りのゴンドラリフト、70人乗りのロープウェイ(自然園駅は標高1829米)を乗り継いで、10時に自然園の入り口・梅池ビジターセンターに到着しました。

木道の多い梅池自然園(全長5キロ)は自由散策としました。健脚の人は最高地点・展望台(標

高2020米)迄行ったとのこと。ボランティアガイドさんの話では、今年は紅葉が1週間早めの様子。昨日降った雪(白馬岳・2939米の山頂には積雪)と紅葉、ナナカマドの赤い実が青空に映えて美しかったです。

それぞれ食事を済ませた後、予定の15時にはバスに戻り、途中渋滞も無く、19時半には桐生倶楽部へ全員無事に帰着しました。楽しい秋の紅葉狩りでした。

(村田 記)

# 胃がんはこわくない

## 月次会報告(11月)

### 藤江さんが講演



11月の月次会は25日、当倶楽部理事の藤江篤さん(藤江医院院長)を講師に招き、「ヘリコバクターピロリとABC検診について」のお話をうかがった。27人が参加した。

藤江さんはまず、ピロリ菌とはどんな菌なのかについて、「たいへんに運動生がよく、感染力が強い菌であり、胃の粘膜の上層の粘液層に入って生きていられる」という性質にふれ、それによって引き起こされる慢性胃炎、胃潰瘍などの疾患について解説してくれた。感染の割合は年齢と共に

高くなり、大切なことは、早いうちにピロリ菌の有無を調べ、服薬で除菌するなど、必要な処置を受けておくことが望ましいそうである。

現在桐生市医師会が取り組んでいるABC検診は、将来のがんを予防するためのリスク検診。血液の抗体を調べ、炎症の具合や菌の有無を判断するもので、たいへん効果を挙げているという。

藤江さんは、医療技術の進歩で胃がんはもはや怖い病気では無くなったので、積極的に検診を受け、予防につとめてほしいと語っていた。

## ミステリアスに 10月の月次会は演奏会

10月の月次会は「ピアノとヴァイオリンの漆黒のファンタジー」と題し、秋の夜長、約50人がちょっとミステリアスな演奏会を楽しんだ。

ピアノは曾根恭子さん。関西フィルハーモニー管弦楽団との共演や、国内外でさまざまな演奏活動を繰り広げている。またヴァイオリンの加藤多佳子さんは、群馬交響楽団のコンサートなどに多数出演し、クラシック以外でも氷川きよしや森山良子など、多くのアーティストのコンサートに出演しており、いずれもベテランの演奏家。

会館の1階ロビーを会場にしたこの日、お二人

が用意したのはハロウィンにちなんで、ハラハラするようなプログラム。「アンダンテ・レジオーソ」「シャコンヌ」「リベルタンゴ」「こんべいとうの踊り」「死の舞踏」「悪魔のダンス」「悪魔のトリル」次々と展開される、本格的で上質な演奏を堪能した。(10月15日)



# 小雨模様の縦走

鳴神山 - 吾妻山

(1面から続く)

9:30に鳴神山を出発し、吾妻山を目指しました。途中昼食を取りましたが、食べ始めると雨が降ってきたのでそこそこに切り上げ、カッパを着ました。雨の量はたいした事はなく、岡平の女子高が見える景色がいいところで、カッパを脱ぎました。そこで、栗原さんのサツマイモのかりんとうがおいしいと、皆で盛り上がりました。

吾妻山まであと何時間という標識の時間が減って行くのを頼りに、下を向いて歩き続けました。最後の階段を切り切り、吾妻山に着いたのは2:10でした。皆で、ほっと一息入れて下山を始めましたが、途中の岩場は、普段では跳んで下りられたのが、一步一步下りないと、膝が痛くなってきました。

3:20に、水道会館前に皆無事に下山しました。そこに駐車して置いた車で、皆さんを送り届けました。

雨が心配でどうなるかと思いましたが、降らないで、また行程もハードでしたが、この文章を書く頃にはまた登りたくなりました。参加した皆さんほんとうに、お疲れ様でした。(腰塚 記)

## 秋のゴルフコンペ

9月28日

すばらしい快晴のもと、赤城ゴルフ倶楽部で参加者14名、元気にランウドしてきました。

- 優勝 竹内 靖博
- 準優勝 森田 良徳
- 3位 久保田寿栄

ベスグロは森田良徳さんの75でした。今回は、初めて、会場を移し、懇親会を行いました。全員の参加をいただき、なごやかな楽しい表彰式となりました。

次は春のコンペを予定しています。たくさんのご参加を期待しています。(ゴルフ部会)



アルプスの大花野行く牧羊犬	地蔵尊香煙揺れて秋の空	白萩と今日も遊ばむ詩よみて	風止みて萩の奔放見る夕べ	食卓の敬老の日の笑顔かな	九月
久保田広人	有阪 昌治	塚越 平人	川村 隆	遠藤 勝久	

足湯して紅葉と語る一人旅	紅葉見ゆ着岸まちか宇高船	御仏の愛でたる庭の紅葉かな	帆立貝形どる古墳草紅葉	十月
久保田広人	川村 隆	塚越 平人	遠藤 勝久	

桐生倶楽部はぐるま句会

### = 倶楽部だより =

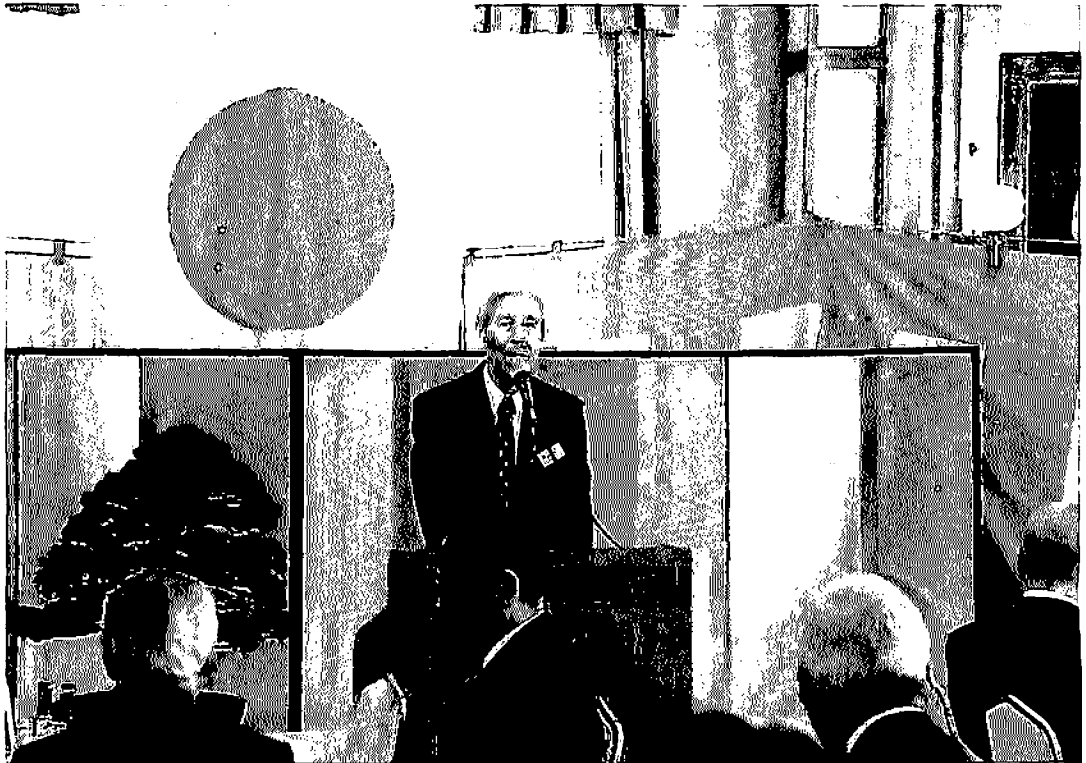
- [10月]**・理事会 (7日)
- ・写真部会 (9日)
- ・歩く会例会「梅池自然園」 (13日)
- ・月次会
- 「ピアノとヴァイオリンの漆黒のファンタジー」 (15日)
- ・歩く会世話人会 (17日)
- ・はぐるま句会 (24日)
- [11月]**・歩く会例会「鳴神山～吾妻山」 (10日)
- ・理事会 (11日)
- ・歩く会世話人会 (14日)
- ・月次会
- 「ヘリコプタービロリとABC検診について」 (25日)
- ・写真部撮影会 (26日)
- ・はぐるま句会 (27日)
- ・秋季囲碁大会 (30日)

**[退社社員]** 竹田 賢一 大島 宏周 (逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第198号  
 2013年(平成25年) 12月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝良  
 印刷 ツポノ印刷株式会社

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 新年互礼会で阿部理事長 会館保存、重文指定の道模索

阿部高久理事長は1月4日の新年互礼会で、活動拠点である会館を指定文化財として保存していきけるよう、関係各所に働きかけていく考えを明らかにした。すでに重要文化財委員会が組織されており、具体的な道を探っていくことになる。

倶楽部は1919年に設立され、4年後には100周年を迎える。会館は格調高い2階建て洋館で、関東大震災の揺れや東日本大震災の震度6も体験し、もはや古典という言葉がふさわしい存在だが、創建時の趣を維持して保存管理していくためには、いずれ本格的な修復が避けられない。

社員の会費で一切を賄う社交倶楽部の伝統を守りつつも「会館はすでに市民の宝、これを守るのが倶楽部の役目」と位置づけ、近年は営繕に多くの費用を割いてきた。しかしこのやり方に限界が見えてきたのも現実だ。

こうしたことから昨年度に重要文化財特別委員会を組織し、市民の共通理解に基づく保存方法の検討を開始。阿部理事長はこの日のあいさつの中で、「近く桐生市に出向いて事情を説明し、倶楽部の考え方にぜひ理解を得たい」と語った。



# スライド式窓よみがえる

桐生を代表する近代化遺産、桐生倶楽部会館の保全管理に理解の輪が広がっています。さきごろは、長いあいだ開閉に不具合のあった窓の補修が完了しました。桐生ロータリークラブ（牛脇章会長）の支援です。以下の報告は、取材にあたった桐生タイムス大坪礼乃記者の協力を得ました。

ができるのが特徴。しかし、窓枠の老朽化や錠と窓をつなぐひもが切れたことなどが原因で、長年窓を開け放すことができなくなっていました。

今回の修繕は、地域の文化財である同会館を保全しようと、同RCがロータリー財団から助成金を受けて計画したものです。「現代の名工」であ

## 大正モダンの 創建時の機能



◇  
桐生倶楽部会館の窓が匠の手で創建時の姿よみがえりました。数十年ぶりに上下スライド窓本来の機能が回復したのです。昨年12月9日には修繕の終わった窓ガラスが、桐生ロータリークラブの会員によって丁寧に磨き上げられました。

修理されたのは会館1階の2、4、6号室などのスライド式の上下窓。窓枠内部の空間に金属製の錠があり、上下の滑車を経てひもで窓とつながっています。錠と窓がつりあいを保つことで、窓を上下に動かしたとき、どの高さでも止めること

る建具士の大澤直也さん（大澤木工、境野二丁目）に依頼し、作業は7月末から3ヶ月以上かけて行われました。

ガラス窓を外して木製の窓枠内部を補修、窓と錠をひもでつないだほか、割れた窓ガラスの入れ替えなども行われました。建築当時から残る木材やガラスは経年劣化がひどく、作業は慎重を要しましたが、「日本の木造建築は繰り返し修復することで守られてきた。本来の姿に配慮しながら手を加えて残していかなければ」と、大澤さんはその意義を語ってくれました。

## 盛大にクリスマス

恒例のクリスマス祭が12月14日、社員とその家族71人が参加し、盛大に開催された。おいしいごちそう、サンタの登場やプレゼントに子どもたちは大喜びだった。



# 快晴の吾妻山初登り



## 真っ白な富士山くっきりと

雲一つなく晴れ渡った1月12日(日)の朝9時30分に吾妻公園駐車場に集合。参加者は社員12名に子供2名の家族が加わり、総勢17名である。

新年の挨拶と準備体操を済ませて出発。中間点の蔦(とんび)岩に達するまでに、早くも下山してる人々と行き交い、山の挨拶をかけあう。緩やかな鞍部をゆったりと歩いた後、最後の険しい岩道をよじ登って尾根に出ると樹木の間を雪を頂いた赤城山が正面に姿を現す。10時30分に先客で賑わう山頂に到着。

秩父連山の背後に富士が真っ白な頭をくっきりとのぞかせている。しかし東京方面は低い雲に覆われ、この季節に見えるはずのスカイツリーと高層ビル群はその下に隠されていた。15分程の休憩を取って下山開始。女山を経由、段差の急な階段の道を村松峠まで下り、さらに表登山道に比べ杉林の間の荒れた細道を抜け降りて村松沢に出会い、12時に「そば一」に到着して、新年会を

開いた。冷たい飲み物が喉を心地よく潤し、つまみとそばと天ぷらを賞味した。

暖かな日射しと無風の好日を満喫でき、贅沢な気分が味わえた半日であった。

(山口 記)

## 2氏に記念品、感謝状

桐生倶楽部新年互礼会の席上、昨年秋の叙勲で瑞宝双光章を受章した吉田正彰さんに記念品が贈られた。また、一般社団法人への移行にともなう手続に尽力された司法書士家住美哉應さんに感謝状が進呈された。

## 秋期囲碁大会結果

桐生倶楽部秋期囲碁大会が11月30日に行われた。順位結果は次の通り。

▽優勝=岸田信克   ▽準優勝=岩崎孜郎  
▽三位=井上孝之

＝ 新入社員紹介 ＝



今村紫紅展、下村観山展

12月8日(日)行楽日和の中、参加者26名は午前6時30分倶楽部を出発しました。途中川口SAにて休憩の後、9時に横浜三渓園到着。今年冬が早かったため紅葉を心配しましたが、三渓園では終わりの時季を楽しむことが出来ました。

ここは明治時代に原富太郎(三渓)が残した庭園で、国の名勝に指定されています。日本各地から集められた建築物(重文等)は目を見張るものがあります。当日は原三渓ゆかりの画家・今村紫紅展が開かれていて、こちらも楽しむことが出来ました。

昼食は横浜中華街又は元町で各自フリータイム、お土産を買い込んだ人もいます。最後の訪問地は横浜美術館で下村観山展。帰路は渋滞もなく、予定の19時前に全員無事に倶楽部到着。忙中閑有、晩秋の楽しい紅葉狩りでした。

(村田 記)



十一月  
本箱の古事記手にとる文化の日 川村 隆  
立冬の谷川岳の上に佇つ 遠藤 勝久  
柿の葉を踏みてその香を懐かしみ 塚越 平人  
落葉はく音の途絶へて会話かな 久保田 広人

桐生倶楽部はぐるま句会

十二月  
遺構掘る話の弾む日向ぼこ 遠藤 勝久  
乗り継ぎのホームのベンチ日向ぼこ 川村 隆  
頑張れや激しき風にも枯尾花 塚越 平人  
年暮るる友の安否を気づかひて 有阪 昌治  
伏す吾に母の手厚きふとんかな 久保田 広人

＝ 倶楽部だより ＝

- [12月]・重要文化財特別委員会 (3日)
- ・行事委員会 (4日)
- ・歩く会例会「横浜三渓園と日本画を楽しむ」(8日)
- ・理事会 (9日)
- ・正副理事長会議 (9日)
- ・歩く会世話人会 (12日)
- ・臨時社員総会 (14日)
- ・クリスマス祭 (14日)
- ・写真部会 (17日)
- ・はぐるま句会 (25日)
- ・行事委員会 (27日)
- [1月]・新年互礼会 (4日)
- ・歩く会例会「吾妻山」 (12日)
- ・理事会 (14日)
- ・歩く会世話人会 (16日)
- ・はぐるま句会 (29日)

[退社社員] 池田 光二(逝去) 森 隆(逝去)  
森口 二郎(逝去)

一般社団法人 桐生倶楽部 第199号  
2014年(平成26年) 1月発行  
発行人 阿部 高久  
編集責任者 前原 勝良  
印刷 ツボノ印刷株式会社

# 平成26年度 定時社員総会

日時：平成26年2月25日

一般社団法人 桐生倶楽部

## 次 第

1. 開会のことば

1. 総会成立報告

1. 理事長あいさつ

1. 議長選任

1. 議事録署名人選出

1. 議 事

第1号議案 平成25年度事業報告

第2号議案 平成25年度決算報告

監査報告

第3号議案 平成26年度事業計画(案)

第4号議案 平成26年度収支予算(案)

第5号議案 平成27年度収支暫定予算(案)

第6号議案 その他

1. 閉会のことば

1. 卓話「桐生倶楽部創造の熱意と心」

重要文化財特別委員会 委員長 大西 康之

# 平成25年度 事業報告

自 平成25年 1月 1日  
至 平成25年12月31日

一般社団法人 桐 生 倶 楽 部

- 社員総数 251名（名誉社員0名、正社員251名）  
内 訳（法人11社、個人240名）
- 入 社 4名（内法人0）
- 退 社 12名（内法人0）
- 行事・集会 92回  
新年互礼会1回、文化祭1回（絵画展、俳句色紙展、写真展、  
ゴルフ大会、麻雀大会、囲碁大会）ガーデンパーティー1回、  
クリスマス祭1回、総会1回、臨時総会1回、理事会12回、  
臨時理事会2回、正副理事長会議2回、  
役員特別懇談会1回、  
監査会1回、  
月次会7回、  
委員会14回  
（行事委員会3回、文化活動委員会、営繕委員会1回、  
会報委員会6回、社員増強委員会、重要文化財特別委員会4回）
- 部会47回  
（俳句部会12回、歩く会11回、歩く会世話人会10回、  
麻雀部会1回、囲碁部会2回と毎週土曜日午後碁会、  
写真部会7回、懇話会、美術部会2回、ゴルフ部会2回、  
音楽部会、ダンス部会）
- そ の 他 会報6回発行

平成25年度

室別使用状況

月	広 間	一 号	二 号	四 号	五 号	六 号	別 館	庭 園	ロ ビ ー	全 館	合 計
1 回数(回)	9	4	3	0	2	7	0	0	0	2	27
月人数(名)	390	41	24	0	12	32	0	0	0	80	579
2 月	8 305	5 68	6 61	1 4	0 0	12 67	1 19	0 0	0 0	4 23	37 547
3 月	7 305	5 49	6 58	1 2	5 29	11 62	0 0	0 0	0 0	0 0	35 505
4 月	5 202	7 97	9 86	0 0	4 23	14 94	0 0	1 40	0 0	0 0	40 542
5 月	9 316	4 67	6 61	0 0	2 12	14 86	0 0	1 84	0 0	0 0	36 626
6 月	8 335	6 83	9 69	1 3	1 6	12 90	0 0	0 0	1 30	3 150	41 766
7 月	9 394	6 87	4 31	0 0	2 13	13 79	0 0	0 0	0 0	3 62	37 666
8 月	14 482	6 72	4 38	0 0	2 11	8 43	0 0	0 0	0 0	0 0	34 646
9 月	10 447	7 107	7 62	0 0	1 7	11 66	1 16	0 0	0 0	1 6	38 711
10 月	5 238	6 62	6 52	0 0	2 6	10 54	1 17	0 0	1 48	0 0	31 477
11 月	7 268	3 39	6 62	2 5	3 19	8 47	0 0	0 0	0 0	0 0	29 440
12 月	7 290	6 60	5 34	1 3	1 5	5 34	1 16	0 0	0 0	0 0	26 442
合計	98 3,972	65 832	71 638	6 17	25 143	125 754	4 68	2 124	2 78	13 321	411 6,947


※平成23年8月1日～平成25年8月末日 別館 定期貸し


# 監 査 報 告 書

平成25年度決算報告書の各事項について監査したところ、  
その内容は適正なものと認めました。

平成26年2月12日

一般社団法人 桐 生 俱 楽 部

監 事 村田 勝俊 

監 事 酒井 豊 



## 平成26年度 事業計画 (案)

### 1. 理事会(毎月)・役員特別懇談会(年2回)・監査会(年1回)

2. 主な行事	1月	新年互礼会	歩く会例会	
	2月	社員総会	歩く会例会	
	3月	月次会	歩く会例会	
	4月	月次会	歩く会例会	
	5月	文化祭(絵画・俳句・写真等)	ガーデンパーティー (ゴルフ大会・麻雀大会・囲碁大会等)	歩く会例会
	6月	月次会	歩く会例会	
	7月	月次会	歩く会例会	
	8月			
	9月	月次会	歩く会例会	
	10月	月次会	歩く会例会	
	11月	月次会	歩く会例会	
	12月	クリスマス祭	歩く会例会	

### 3. 委員会

#### 1) 文化活動委員会

- ・文化祭
- ・各種趣味の部会(9部会)  
美術部会・俳句部会・麻雀部会・ゴルフ部会  
囲碁部会・歩く会・音楽鑑賞部会・写真部会・ダンス部会

#### 2) 行事委員会

- ・新年互礼会
- ・ガーデンパーティー
- ・クリスマス祭

#### 3) 営繕委員会

- ・会館の修理保全

#### 4) 会報委員会

- ・年6回 会報発行

#### 5) 総務委員会

#### 6) 社員増強委員会

#### 7) 重要文化財特別委員会

#### 8) 懇話会

# 寄 付 芳 名 録

(敬称略)

平成25年度

- |     |  |  |
|-----|--|--|
| 5月  | 応接テーブル<br>(149,680円)                   | <b>桐生ロータリークラブ創立60周年記念事業</b><br>桐生ロータリークラブ 会 長 北川 洋<br>創立60周年記念事業実行委員会<br>委員長 金子 篤郎 |
| 6月  | 日本画大額修理<br>(191,100円)                  | <b>桐生ロータリークラブ創立60周年記念事業</b><br>桐生ロータリークラブ 会 長 北川 洋<br>創立60周年記念事業実行委員会<br>委員長 金子 篤郎 |
| 12月 | 窓開閉調整等修理一式<br>(195,950円)<br>(134,800円) | <b>ロータリー財団(未来の夢計画)地区補助金事業</b><br>桐生ロータリークラブ 会 長 牛腸 章<br>ロータリー財団地区補助金               |
| 12月 | 文化財保護負担金<br>(100,000円)                 | <b>文化財保護事業</b><br>公益社団法人 桐生青年会議所<br>理事長 坂本 長規                                      |

## 定 時 社 員 総 会 報 告

平成 26 年度定時社員総会は 2 月 25 日午後 6 時 55 分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は佐藤理事の司会で、開会のことばに続き、全社員 249 名中 178 名(委任状 144 名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。阿部理事長のあいさつのあと、理事長が議長となり議事に入った。

第 1 号議案	平成 25 年度事業報告	(山口副理事長)
第 2 号議案	平成 25 年度決算報告 監査報告	(竹内理事) (酒井監事)
第 3 号議案	平成 26 年度事業計画(案)	(山口副理事長)
第 4 号議案	平成 26 年度収支予算(案)	(竹内理事)
第 5 号議案	平成 27 年度収支暫定予算(案)	(竹内理事)

森副理事長の閉会のことばのあと午後 7 時 40 分閉会となった。

26 年度役員は昨年に引き続き下記のとおりです。

(理 事 長)	阿部 高久		
(副理事長)	矢野 昭	森 壽作	山口 正夫
(会計理事)	竹内 康雄	松島 宏明	
(理 事)	佐藤 富三	岸 芳正	北川 洋
	坪井 良廣	江原 毅	根津 紀久雄
	前原 勝	塚越 紀隆	藤江 篤
	岸田 信克	前原 勝良	宮地 由高
	村田 豊樹	大西 康之	
(監 事)	酒井 豊	村田 勝俊	

閉会のことばのあと卓話があった。

「桐生倶楽部創造の熱意と心」

重要文化財特別委員会 委員長 大西康之

午後 8 時 25 分閉会となった。

以 上

# 桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36 一般社団法人 桐生倶楽部 TEL 45-2755



## 根本改修に向け、一つ一つ 「会館維持、丁寧に進めたい」

平成26年度定時社員総会で阿部理事長

平成26年度定時社員総会が2月25日に開かれ、事業計画案や予算案などが承認された。

あいさつに立った阿部高久理事長は「一般社団法人として2年目を迎え、会館を維持しながら次代につないでいける施策を一つ一つ丁寧に、楽し

みながら進めていきたい」とし、根本改修のために重要文化財特別委員会を立ち上げて検討を進めていること、懇話会を委員会に移すこと、会員増強に力を尽くしたいと語り、協力を求めた。

# 桐生倶楽部会館と スパニッシュ様式

## 月次会報告 (3月)

### 建築史家・丸山雅子さん



3月19日の月次会は建築史家・丸山雅子(もとこ)工学博士を講師に迎えて、「桐生倶楽部会館とスパニッシュ様式」という講演会を開いた。丸山博士は東京大学藤森照信教授(建築学)の研究室で修士・博士号を取られた日本における「スパニッシュ様式」研究の第一人者である。

設計者の清水巖氏が自ら「建築のスタイルは南欧風にまとめた」(桐生倶楽部五十年史)と言っている「桐生倶楽部会館」(大正8年竣工)について、その歴史的価値を「スパニッシュ様式」に照らして丸山博士に語って頂くのが今回の月次会である。大正11年に大阪・箕面市で開かれた「住宅改造博覧会」で紹介されたのが日本で最初の「スパニッシュ様式」というのが通説であるが、「桐生倶楽部会館」はそれよりも3年早く建てられたことになる。丸山博士によれば、1915年(大正4年)パナマ運河開通を祝って開かれた「サンフランシスコ万博」をきっかけに「スパニッシュ・コロニアル・リバイバル様式」が流行したとのこと。清水巖氏がこのことを知ったとして、その年に設計図を書いていたことになる。



極き落しの壁をベージュ色に塗る、勾配の少ない屋根に赤い瓦を載せる、外壁と同じ胴体を持つ四角い煙突にやはり赤い瓦を載せる、暖炉にタイルの装飾をする、等々、「桐生倶楽部会館」は丸山博士をして「日本で最も古いスパニッシュ作品」と言わしむる建物であった様だ。

社員一同がこの建物を現役として使い続けると共に、営繕委員会・佐藤理事、重要文化財特別委員会・大西理事を中心とした文化財指定への運動に対し、惜しみない協力をしたいと思う。

(2階大広間・40人 村田 記)

## 桐生倶楽部創造の熱意と心 大西さんが卓話



桐生倶楽部重要文化財特別委員会の大西康之委員長は25日の総会終了後、「桐生倶楽部創造の熱意と心」と題し卓話を行い、重要文化財として十分な値打ちを持つ会館は、創建から百年の節目を控えて改築の必要性が迫っており、必ずどこかでたいへんな費用がかかることになるなら、国の予算がつく改築の道を早い段階から検討するべきだという思いに至ったと、まずは経過を語った。

絹産業遺産群と本町一、二丁目の重要伝統的建造物群保存地区との運動も視野に入れたという。

ふるさとのまちづくりに大きな影響力をもたらした桐生懇和会の活動を原点に、森宗作氏の「郷土の発展はやがて自己の発展」という思いのもとに先人の知恵と財力が結集し、若い世代の金子竹太郎氏や前原悠一郎氏、前原準一郎氏らが奔走して桐生倶楽部が組織され、1919年、そのシンボルとしての会館が完成した。このような歴史があること、また、次代に引き継ぐという大事な思いが込められていることを、市民一人ひとりが理解して、この建物を創建当時の姿に戻していこうとする環境づくりが大切だと語っていた。

(2階大広間・34人)



## 足利行道山からハイキング

—— 歩く会3月例会 ——

桐生倶楽部歩く会の3月例会は3月9日、足利の行道山から両崖山・織姫神社までハイキングを楽しみました。

参加者5名。JR両毛線桐生駅7:40に乗り足利下車、タクシーで行道山淨因寺まで行きました。8:30ハイキング出発。「寝釈迦」を覗いた後、9:30石尊山見晴台（本日の最高地点442米）に到着、360度の眺望を楽しみました。10:30に大岩毘沙門天（標高417米）に到着してお参り。ここは行基ゆかりの寺とのこと、2月に降った雪が解けないでうず高く残っていました。

登り下りを繰り返して両崖山山頂（標高251米）到着は12:30。平安時代、足利成行が山城を作ったそうで、今でも本丸跡の石垣を見ることができます。再び登り下りを繰り返して13:



30蕎麦伊とう（旧ホワイトパレス）到着、美味しい手打そばやコーヒーを楽しみました。ここからはタクシーでJR足利駅まで。15:12の電車に乗って、15:30桐生駅到着、解散しました。春の日射しをたっぷり浴びたハイキングでした。

（村田 記）

桐生倶楽部はぐるま句会

一月

初空や妙義の山は遥かなり 有阪 昌治

水仙を避けて小猫の通い径 遠藤 勝久

日脚伸ぶ強き風をも突き抜けて 川村 隆

日脚伸ぶ庭の草木も背伸びして 塚越 平人

受けの一寸横向き黄水仙 久保田 広人

二月

くねくねと田舎のバスに山笑ふ 川村 隆

水温む水面の水輪数多かな 遠藤 勝久

鳥啼きて吾妻の峰に余寒かな 塚越 平人

日だまりを拾ひ歩きし余寒かな 有阪 昌治

山笑ふ人骨馬俱の出でし郷 久保田 広人

＝ 倶楽部だより ＝

- [2月]**
  - ・ 歩く会例会「赤城山」雪の為中止 (9日)
  - ・ 監査会 (12日)
  - ・ 理事会 (12日)
  - ・ 歩く会世話人会 (13日)
  - ・ 定時社員総会 (25日)
  - ・ はぐるま句会 (26日)
- [3月]**
  - ・ 歩く会 足利「行道山淨因寺」 (9日)
  - ・ 理事会 (10日)
  - ・ 歩く会世話人会 (13日)
  - ・ 月次会「近代建築史家 丸山雅子氏講演会」 (19日)
  - ・ はぐるま句会 (28日)

【退社員】 平澤 宏(逝去)

晩香廬、旧小笠原伯爵邸を見学

2月26日、桐生倶楽部重要文化財特別委員会・大西理事と同行の村田理事は晩香廬と旧小笠原伯爵邸を見学しました。晩香廬（大正6年竣工）と青淵文庫（大正14年竣工）は東京・飛鳥山公園内にあり、渋沢栄一（1840-1931）の接客の場として使われたそうです。特に晩香廬は我が桐生倶楽部会館を設計した清水巖氏が上司の田辺淳吉氏と共に設計したそうで、建築様式は異なるものの、大正時代の名建築として有名です。

旧小笠原伯爵邸は3月月次会の講師を務められた丸山博士が「スパニッシュ様式が残されている」と言って紹介してくれた作品です。新宿区河田町にあり、今は結婚式場として営業しています。スペイン様式を取り入れたこの建物は昭和2年（1927）竣工とのこと。我が桐生倶楽部会館が大正8年（1919）竣工ですから、8年も前に清水巖氏が「南吹風」の建物を建てたこととなります。社員一同この桐生倶楽部会館を現役で大切に使用しながら、次の世代に伝えて行くことの尊さを改めて考える「見学の旅」となりました。

(村田 記)



一般社団法人 桐生倶楽部 第200号  
 2014年（平成26年） 3月発行  
 発行人 阿部 高久  
 編集責任者 前原 勝良  
 印刷 ツポノ印刷株式会社